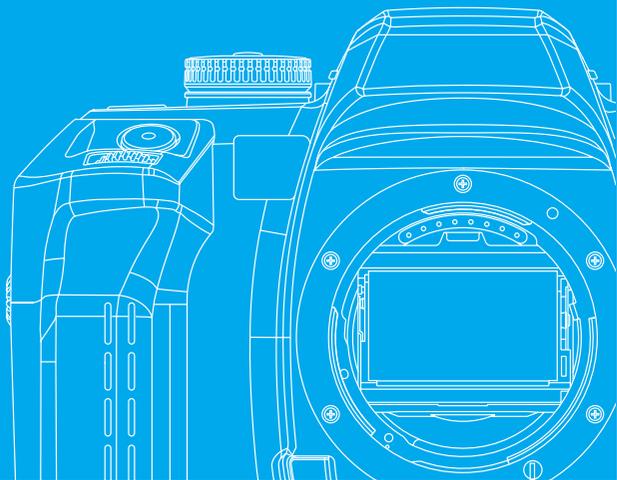


MINOLTA

α-7



基本撮影

応用撮影
1

応用撮影
2

資料

使用説明書

ご使用前によくお読みください。

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。ご使用前にこの使用説明書をよくお読みください。

この使用説明書では、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示を用いています。よく理解して正しく安全にお使いください。

 **警告** この表示を無視した取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 **注意** この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

 記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。
(左図の場合は発熱注意)

警告

指定された電池以外は使わないでください。

電池の極性(+ / -)を逆に入れないでください。

 電池を火中へ投入したり、充電、ショート、分解、加熱をしないでください。

 新しい電池と古い電池、メーカーや種類の異なる電池を混ぜて使用しないでください。

電池の液漏れ・発熱・破裂の恐れがあります。

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。

 他の金属と接触すると発熱・破裂・発火の恐れがあります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するかリサイクルしてください。

警告

 製品および電池や付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。

幼児が電池を飲み込む等、事故の恐れがあります。万一飲み込んだ場合はただちに医師にご相談ください。

 落下や損傷により内部が露出した場合は、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。
感電や火傷の恐れがあります。また内部に手を触れないでください。

 分解しないでください。
修理や分解が必要な場合は、当社サービスセンターサービスステーションにご依頼ください。内部の高圧回路に触れると、感電の恐れがあります。

 万一、使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。
放置すると火災や火傷の原因となります。

 ファインダーを通して直接太陽を見ないでください。
失明の恐れがあります。

注意

 直射日光の当たる場所に放置しないでください。
太陽光が近くのものに結露すると、火災の原因となります。やむを得ず直射日光下に置く場合は、レンズキャップを取り付けてください。

目次

各部の名称.....	10
カメラの準備.....	15
撮影早分かり.....	16

基本撮影

電池の入れ方.....	19
電池容量の確認.....	20
レンズの取り付け方 / 取り外し方.....	21
フィルムの入れ方.....	22
カメラの構え方 / シャッターボタンの半押し.....	25
☐フルオートプログラムで撮影します.....	26
フルオートプログラムの設定内容.....	28
ピント合わせ	
フォーカス表示.....	30
オートフォーカスの苦手な被写体.....	31
写したいものが画面中央にないときは(フォーカスロック).....	32
内蔵フラッシュ撮影	
フラッシュ表示.....	34
フラッシュ調光距離(フラッシュ光の届く範囲).....	35
フィルムの巻き戻し.....	36
最後のコマまで撮影せずに途中で取り出したいときは.....	37

応用撮影 1

ナビゲーションディスプレイ	
画面の切り替え.....	40
ディスプレイ上部が反転した場合.....	45
照明とコントラスト.....	46
フォーカス(ピント合わせ)	
フォーカスモード.....	48
オートフォーカスとマニュアルフォーカスの切り替え.....	52
フォーカスフレーム.....	55
AF補助光.....	62

露出モード

P(プログラム)モード撮影.....	65
A(絞り優先)モード撮影.....	67
S(シャッター速度優先)モード撮影.....	70
M(マニュアル)モード撮影.....	73

測光・露出

測光方式.....	78
露出補正.....	81
AEロック撮影(露出の固定).....	85
フィルム感度の設定と変更.....	90

巻き上げ

連続撮影.....	92
セルフタイマー撮影 / 簡易ミラーアップ機能.....	94
ブラケット(露出ずらし)撮影.....	96
多重露光.....	100

フラッシュ撮影

フラッシュ発光とフラッシュモードダイヤル.....	103
赤目軽減フラッシュ撮影.....	104
後幕シンクロ撮影.....	105
スローシンクロ撮影(夜景を背景にしたフラッシュ撮影).....	106
フラッシュブラケット撮影.....	107
フラッシュ調光補正.....	110
プログラムフラッシュ・フラッシュ調光方式.....	112
ハイスピードシンクロ(HSS)撮影.....	114
ワイヤレスフラッシュ撮影.....	116
シンクロターミナル.....	122

その他の機能

日付・時刻を写し込むには.....	124
アイスタート.....	129
長時間露光(バルブ撮影).....	130
プレビュー(絞り込み).....	132
視度調整(ファインダーを見やすくします).....	135
ブザー(電子音について).....	136

応用撮影 2

登録	
登録される内容	138
登録のしかた	140
呼び出し方	142
一度登録した内容の変更	143
撮影データメモリー	
撮影データの記録	146
フィルムエリアとデータナンバー	148
撮影データの読み出し	150
撮影データの消去	156
カスタム設定	
カスタム設定変更方法	159
カスタム1 オートフォーカス優先/レリーズ優先	163
カスタム2 自動巻き戻し	164
カスタム3 巻き戻したフィルムの先端(フィルム指定コマ送り)	164
カスタム4 フィルム感度変更記憶機能	169
カスタム5 フィルム未装填時のレリーズロック機能	169
カスタム6 フォーカスホールドボタンの機能	170
カスタム7 アイセンサーの機能	171
カスタム8 フィルムカウンター	172
カスタム9 AF/MFコントロールボタンの操作方法	172
カスタム10 AEロックボタンの操作方法	174
カスタム11 ブラケットの撮影順序	175
カスタム12 フィルムの巻き戻し速度	176
カスタム13 ボディ表示部の測光値表示保持時間	176
カスタム14 シャッターボタン半押しでフォーカスロックされた フレームの表示	177
カスタム15 前後ダイヤルロック機能	178
カスタム16 レンズ未装填時のレリーズロック機能	179
カスタム17 オートフォーカス駆動速度	179
カスタム18 露出モードP/A/S時の前後ダイヤルによる露出補正 (PA/PSシフト)	180

カスタム19 前後ダイヤルの機能の入れ替え	182
カスタム20 フラッシュ調光方式	182
カスタム21 AF補助光	183
カスタム22 フォーカスモードダイヤルAF-Aの機能(DMFモード)	184
カスタム23 シャッターボタンによるAF機能	186
カスタム24 露出モードのフルオートプログラム時の操作	187
カスタム25 登録3の機能(STFモード)	188
カスタム26 露出補正のフラッシュ制御に対する影響	190
カスタム27 詳細画面の表示内容	190
カスタム28 設定操作表示	192
カスタム29 拡大画面	192
カスタム30 測光インジケーター画面	193
カスタム31 撮影履歴画面	193
カスタム32 縦横表示切り替え機能	194
カスタム33 写し込み文字濃度調節	194
カスタム34 データナンバーのボディIDナンバー	195
カスタム35 ナビゲーションディスプレイの言語	195

資料

アクセサリ	197
表示が反転または点滅したときは	200
不具合が生じたときは	202
取り扱い上の注意	204
手入れと保管の仕方	205
主な性能	207
索引	209

囲み記事目次

この使用説明書について.....	9
フォーカス機能早引き.....	61
フィルム面の位置.....	62
Ⓜ(フルオートプログラム)とPモードの違い.....	65
絞り値について.....	69
シャッター速度について.....	72
全体が黒っぽいもの・白っぽいものを撮影する.....	84
AEロックでの測光インジケータの便利な使い方.....	87
露出補正とフラッシュ調光補正の違い.....	111
フラッシュ調光方式.....	113
カメラの電池を長期間抜いていた場合(日付のバックアップ).....	127
被写界深度.....	133
撮影倍率.....	134
フィルムエリアとデータナンバーの使い分け.....	149
フィルムエリアとデータナンバーのリセット.....	157

お買い上げありがとうございます。

-7は、「21世紀基準、快適一眼レフ」をキャッチフレーズに開発された、ミノルタの新世代オートフォーカス一眼レフカメラです。オートフォーカスには新開発の中央デュアルクロス9点センサーとオートフォーカス駆動系クラッチ機構を採用、ピントの精度を向上させるとともに、オートフォーカスとマニュアルフォーカスをこれまで以上に自在に操ることを可能にしました。カメラ操作は分かりやすいダイヤル式を基本としています。またボディ背面には大型表示部「ナビゲーションディスプレイ」を搭載し、撮影に役立つさまざまな情報を提供します。

ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、未永くこの製品をご愛用ください。

このカメラには、当社のボディ特性に適合するように設計された当社製のレンズおよびアクセサリを使用をおすすめします。他社製品と組み合わせた場合の性能や、それによって生じた事故や故障につきましては保証いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

この使用説明書について

基本撮影

撮影にあたって、これだけはぜひ知っておいていただきたいことをまとめています。ご使用前に一通り目を通してください。

応用撮影

ピント合わせ、測光、巻き上げモードなど、このカメラの詳細を項目別に説明しています。必要に応じて必要な部分のみお読みください。

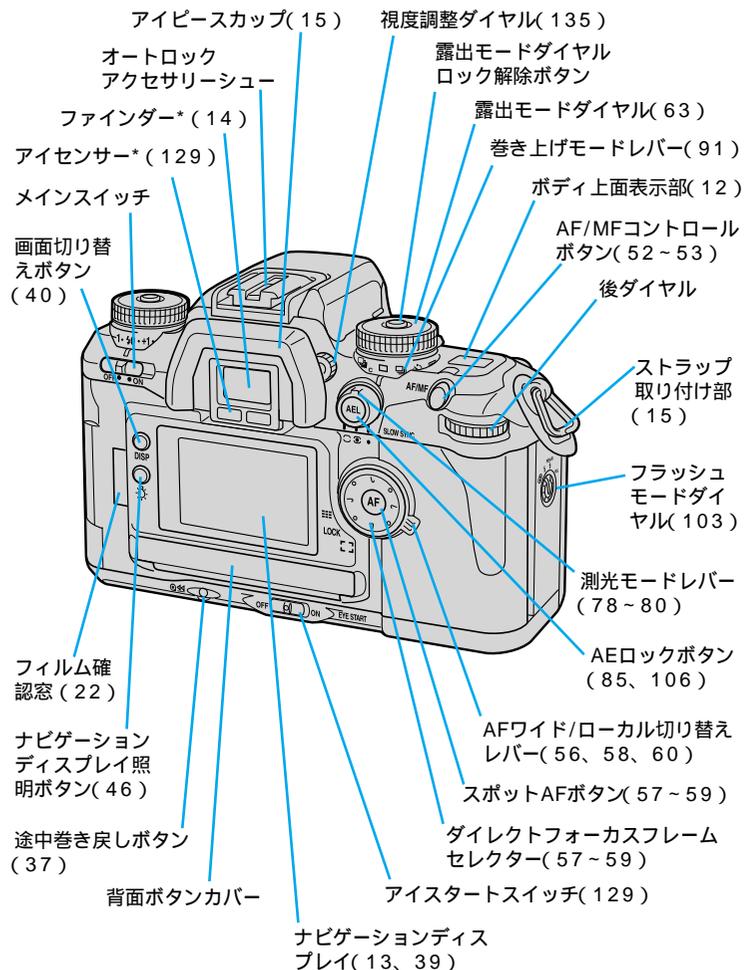
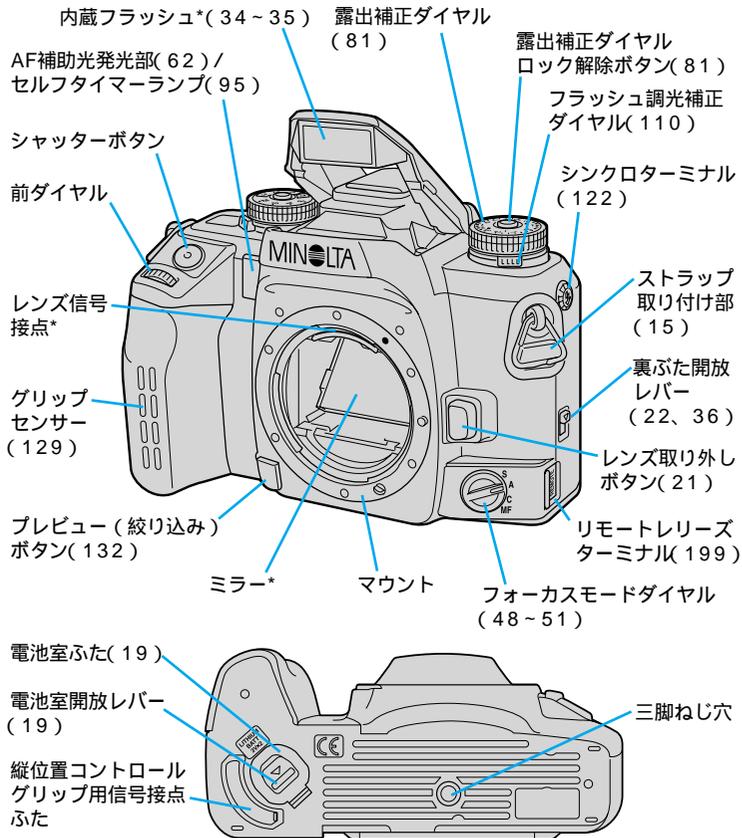
資料

カメラの操作方法以外の情報をまとめています。

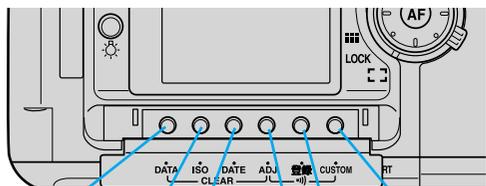
各部の名称

*印のついたところは、直接手で触れないでください。
()内は参照ページです。

カメラボディ

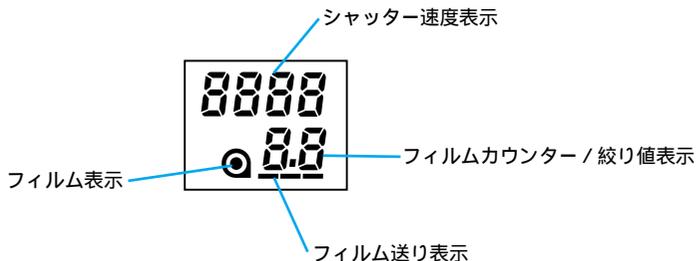


背面ボタンカバー内部

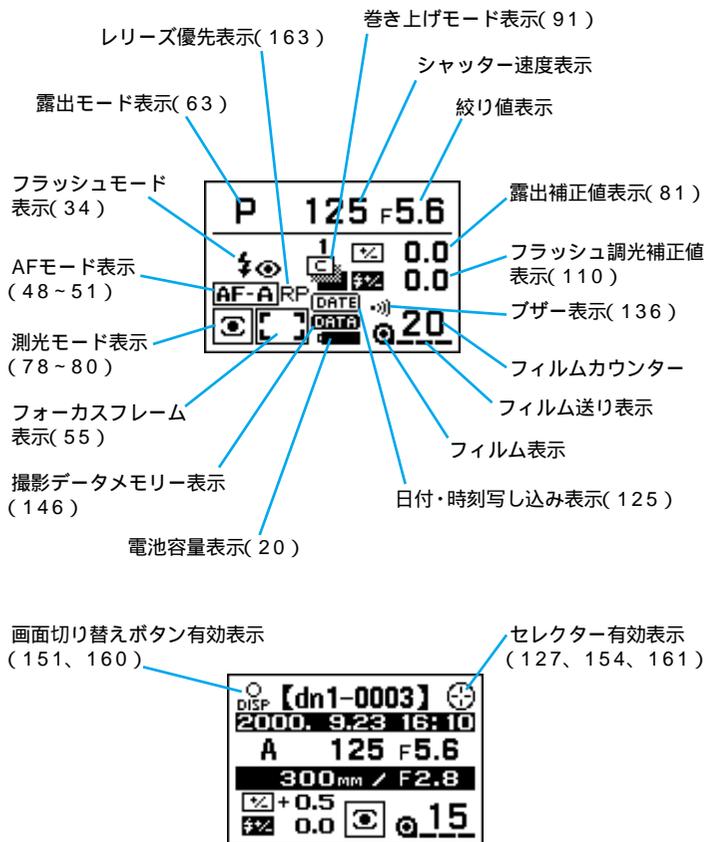


- 撮影データメモリーボタン(146 ~ 156)
- フィルム感度設定ボタン(90)
- 日付・時刻写し込みボタン(124 ~ 128)
- カスタムボタン(159 ~ 162)
- 登録設定ボタン(140 ~ 144)
- アジャストボタン

ボディ上面表示部

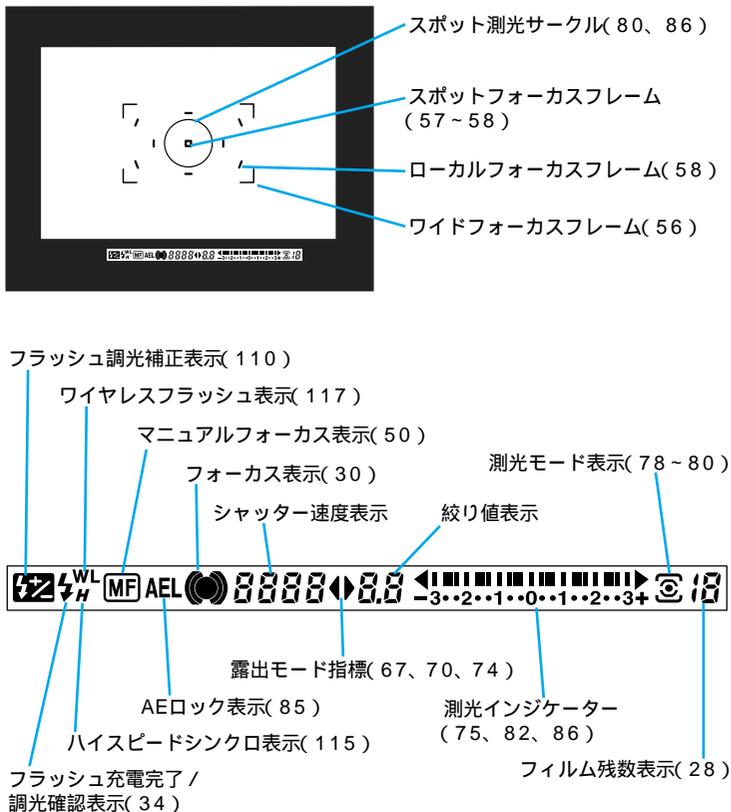


ナビゲーションディスプレイ



このページの図は表示の一例です。

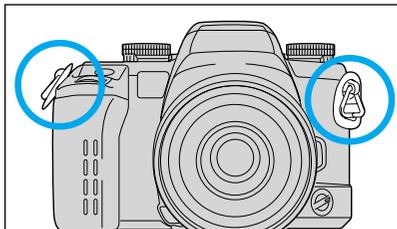
ファインダー表示部



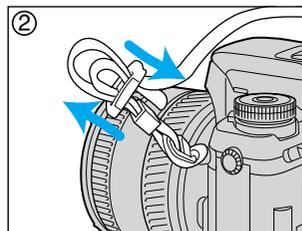
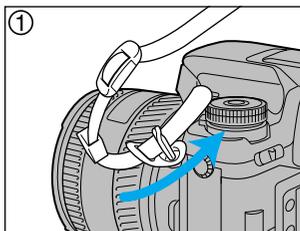
このページの図では、説明のためすべての表示を点灯させています。

カメラの準備

ストラップの取り付け方

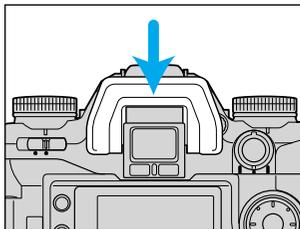


カメラの両側にストラップ取り付け部があります。それぞれ図のように取り付けてください。



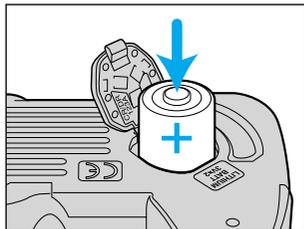
別売りのリモートコードをご使用になる場合は、ストラップのリモートコードクリップがリモートレリーズターミナル側に来るように取り付けてください(199 ページ参照)

アイピースカップの取り付け方

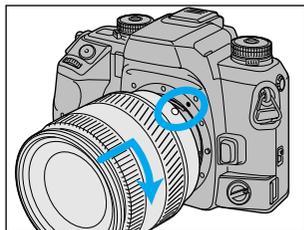


付属のアイピースカップを、カメラのファインダー部に取り付けます。

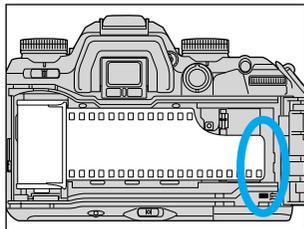
撮影早分かり (詳しくは本文をご覧ください)



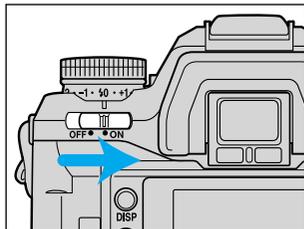
1. 電池を入れます。
3Vリチウム電池CR123Aを2個使用します。 19ページ



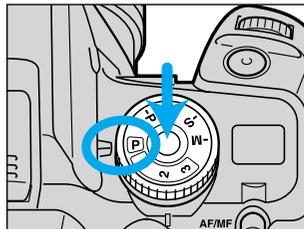
2. レンズを取り付けます。
レンズとボディの2つの赤い点を合わせてはめ込み、カチッとロックがかかるまで時計方向に回します。 21ページ



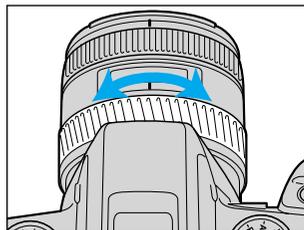
3. フィルムを入れます。
フィルムの先端を赤いマークに合わせ、裏ぶたを閉じます。 22ページ



4. 電源を入れます。
メインスイッチをONにします。 23ページ



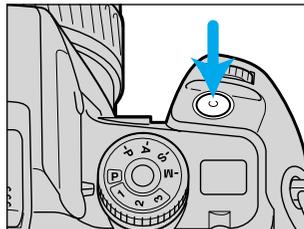
5. 全自動にします。
露出モードダイヤルを中央のロック解除ボタンを押しながら回して、フルオートプログラム  に合わせます。 26ページ



6. 構図を決めます。
ズームリングを回して希望の大きさを決めます(ズームレンズ使用の場合)。 27ページ



7. カメラを構えてピントを合わせます。
写したいものが  に入るようにカメラを構えて、シャッターボタンを半押しします。自動的にピントが合います。 25、27ページ



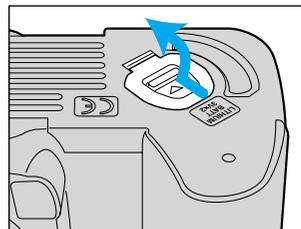
8. 撮影します。
シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。 27ページ

基本撮影

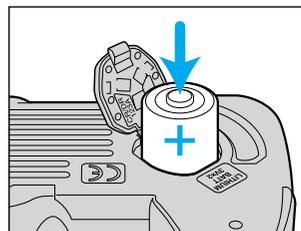
この章では、カメラの準備および最も基本的な撮影方法を説明しています。

電池の入れ方

3Vリチウム電池CR123Aを2個使用します。



1. メインスイッチをOFFにした後、電池室開放レバーを図の方向に押し、ふたを開けます。



2. 電池室ふたの表示にしたがって電池を入れます。

3. ふたを閉めます。

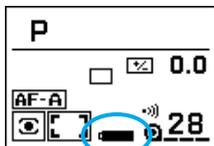
ⓘ
「ADJ」を押して
日付と時刻を
設定して下さい。

長期間電池を抜いたままにしておくと、カメラの日付・時刻の設定が失われます。メインスイッチをONにするたびに、ナビゲーションディスプレイ(以下ディスプレイと表記)上に左の表示が現れますので、日付・時刻を設定し直してください(126ページ参照)。

別売りの縦位置コントロールグリップVC-7を取り付ければ、単3アルカリ乾電池、単3ニッケル水素(Ni-MH)電池を使用することもできます。

電池容量の確認

メインスイッチをONにすると、電池の容量がディスプレイ上に表示されます。



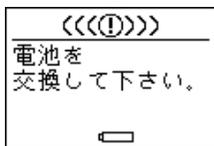
点灯 電池容量は十分です。



点灯 新しい電池の準備をおすすめします。この状態でも撮影はできます。



点灯 電池の交換をおすすめします。この状態でも撮影はできます。



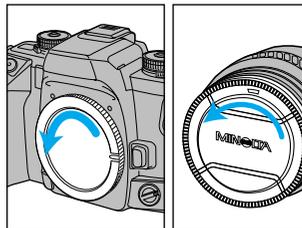
新しい電池と交換してください。
シャッターは切れません。

メインスイッチをONにしても何も表示されないときは、電池の向きを確認してください。

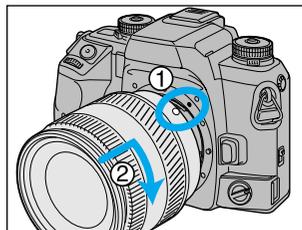
ご購入時には新品電池を入れておりますが、電池の特性や保管状況により一時的にが表示されることがあります。この場合はメインスイッチを何度か切り入れたりすると、電池容量が回復します。またこのご購入時の電池は出荷時に入れたものなので、通常購入される電池と比べて消耗が早くなることがあります。

レンズの取り付け方 / 取り外し方

取り付け方

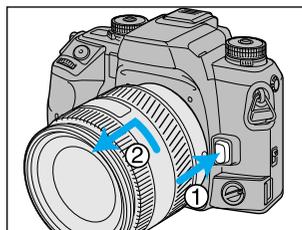


1. カメラのボディキャップ、レンズの後キャップを外します。カメラの内部、特にレンズ信号接点やミラーに触れたり傷をつけたりしないように、また内部に水滴・砂・ホコリが入らないように気を付けてください。



2. レンズとカメラの2つの赤い点を合わせてはめ込み、レンズを軽くカメラに押し付けながらカチッと音がするまで時計方向に回します。レンズを取り付けるときは、レンズ取り外しボタンを押さないでください。

取り外し方



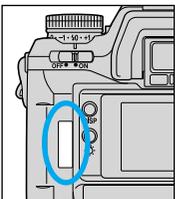
レンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に止まるまで回して取り外します。取り外した後は、カメラ側・レンズ側ともキャップを付けて保管してください。

レンズに無理な力を加えないでください。

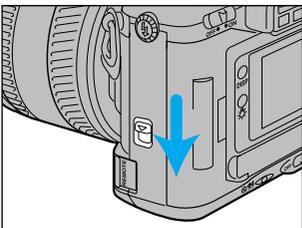
フラッシュを使わずに撮影する場合は、画面外にある光が描写に影響するのを防ぐために、レンズフードの使用をおすすめします。レンズフードは、レンズの使用説明書をご覧の上、正しく装着してください。

フィルムの入れ方

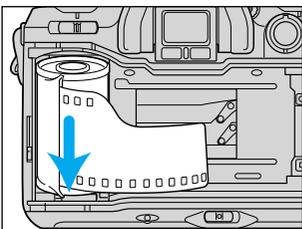
ご購入後初めてカメラをご使用になるときは、フィルムを入れる前に、裏ぶたの内側の保護シートを取り外してください。



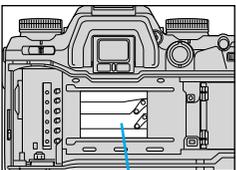
フィルム確認窓でカメラの中にフィルムが入っていないことを確認してから、裏ぶたを開けてください。フィルムの出し入れは、直射日光を避けて行ってください。



1. 裏ぶた開放レバーを押し下げて、裏ぶたを開けます。

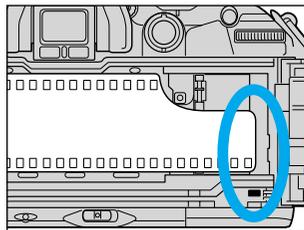


2. フィルムを図のように入れます。



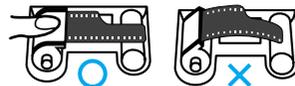
シャッター幕は非常に薄く精巧に作られています。フィルムを入れる際に、手やフィルムの先が絶対に触れないように注意してください。またお手入れの際に、ブロアーなどで直接エアを吹きかけないようにしてください。

22 シャッター幕



3. フィルムを引き出しながら、先端を赤いマークの範囲内に合わせます。

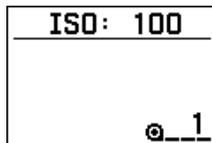
フィルムが浮き上がらないようにパトローネ(フィルム容器)を押さえてください。



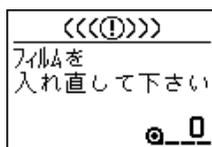
フィルムの先端をカメラに入れ過ぎないようにしてください。先端が出過ぎたときは、パトローネの中に戻してください。

4. 裏ぶたを閉じます。

フィルムが自動的に巻き上げられます。



フィルムが正しく巻き上げられていれば、ディスプレイ上にフィルム感度と \odot 1が5秒間表示されます(フィルム感度は5秒間のみ表示)。



フィルムが正しく送られていない場合は左の表示が出ます。裏ぶたを開けてフィルムを取り出し、もう一度入れ直してください。

次ページへ続く

このカメラにフィルムを入れると、裏ぶた開放レバーを操作しても不用意に裏ぶたが開きません。フィルムの巻き戻しが完了すると開けることができます。

DXコード付きのフィルムの場合、フィルム感度は自動的に設定されます。フィルム感度の変更および設定については90ページをご覧ください。

DXコードの付いていないフィルムを入れた場合、フィルム感度は直前に使用されていたフィルムの感度になり、撮影枚数は36枚撮りとみなされます。よって37コマ以上の手巻きフィルムなどを入れた場合、36枚目を撮影すると自動的に巻き戻しが始まります。

ポラロイドインスタントリバーサルフィルムは、巻き上げができないことがあるため、ご使用になれません。

赤外線フィルムはご使用になれません(フィルム送りの検出に赤外光を使用しているため、使用すると画面の一部が感光されます)。

カメラの構え方



カメラが少しでも動くことぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。

右手でカメラのグリップを持ち、脇を閉め、左手でレンズの下側をもって支えます。片足を軽く踏み出し、上半身を安定させます。壁にもたれたり、机などに肘をついたりしても効果があります。

暗い場所でフラッシュを使用しないで撮影する場合や、望遠レンズを使う場合は、手ぶれが起こりやすくなります。このような場合は三脚などにカメラを固定して撮影してください。

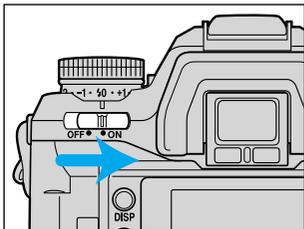
別売りの縦位置コントロールグリップVC-7を使用すると、縦位置でも横位置とほとんど変わらない操作性を保つことができます。

シャッターボタンの半押し



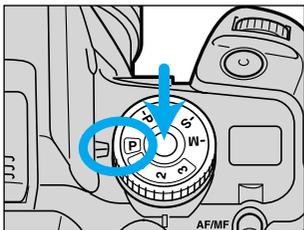
シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まる場所があります。この使用説明書ではここまで押すことを「半押し」と呼んでいます。

Ⓟフルオートプログラムで撮影します



露出モードダイヤルをⓅにすると、カメラのすべての設定が自動になります。

1. メインスイッチをONにします。

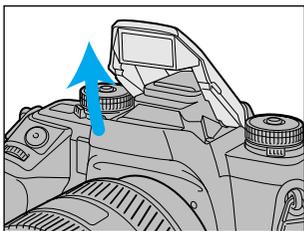


2. 露出モードダイヤルロック解除ボタンを押しながら、露出モードダイヤルをⓅに合わせます。設定内容については28ページをご覧ください。



ディスプレイ上にⓅFULL AUTO(フルオート)が現れます。

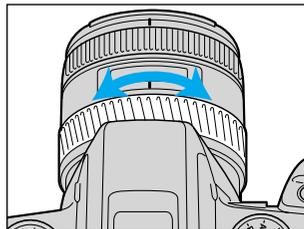
ディスプレイ上部が黒く反転し、カメラ上のダイヤルやレバーの位置が実際の設定と異なることをお知らせします(45ページ参照)。



3. フラッシュを上げます。

必要な場合には、フラッシュは自動的に発光します。

内蔵フラッシュ撮影については34ページをご覧ください。



4. 撮影したいものが希望の大きさになるように、レンズのズームリングを回します(ズームレンズ使用時のみ)。

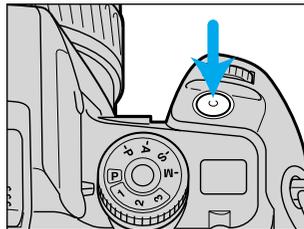


5. 被写体がフォーカスフレーム「」に入るようにカメラを構えます。



6. シャッターボタンを半押しします。

自動的にピントが合います。ピントが合うと、ピピッと電子音が鳴ります。同時に、ピントが合った部分のローカルフォーカスフレームが、一瞬赤く点灯します。



7. シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

次ページへ続く

Ⓜ フルオートプログラムで撮影します

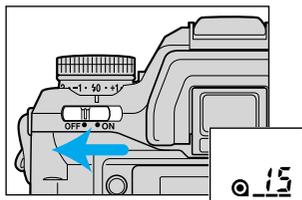


フィルムの残り枚数が19枚以下になると、ファインダー内に撮影中のフィルムの残り枚数が表示されます。

27枚撮りフィルム等枚数情報のないフィルムや、DXコードの付いていないフィルムの場合は表示されません。

24枚撮り・36枚撮り等枚数情報のあるフィルムでは、規定枚数までの撮影しかできません。

ピントが合ったときの電子音を解除することもできます(136ページ参照)。



撮影が終了したら、メインスイッチをOFFにしてください。

フィルムが入っていると、上面表示部にフィルムカウンターが残ります。(ディスプレイは消灯します。)

上面表示部のフィルムカウンターは、メインスイッチをONにすると消えます。

フルオートプログラムの設定内容

露出モードダイヤルをⓂにすると、以下の設定になります。カメラ上のダイヤルやレバーの設定は無効となり、撮影者による変更はできません。

任意に設定を行なう場合はⓂ以外の露出モードに合わせてください(63ページ参照)

項目	設定	ページ
ピント合わせ	オートフォーカス・AF制御自動切り替え・オートフォーカス優先 被写体が動いているか静止しているかをカメラが判断し、自動的にピントを合わせます。ピントが合うまでシャッターは切れません。	48
フォーカスフレーム	ワイドフォーカスフレーム 9つのローカルフォーカスフレームのうち、どの部分にピントを合わせるかをカメラが自動的に判断します。	56
AF補助光	発光	62

項目	設定	ページ
露出モード	Pモード 絞り値とシャッター速度が自動的に決まります。PA/Psシフトは解除されます。	65
測光モード	14分割ハニカムパターン測光 画面全体を14分割して測光します。	78
露出補正	±0	81
巻き上げ	1コマ撮影 連続撮影、ブラケット撮影、セルフタイマー、多重露光はキャンセルされます。	91
フラッシュ	内蔵フラッシュを上げていれば必要時に自動的に発光 内蔵フラッシュを下げていれば発光しない 発光する場合は自動発光または赤目軽減自動発光になります(フラッシュモードダイヤルの位置による)。後幕シンクロ、ワイヤレスフラッシュ位置にしていると赤目軽減なしの自動発光になります。 プログラムフラッシュの場合は常に自動発光となります。	103
フラッシュ調光補正	±0	110
フラッシュ調光モード	ADI 4分割調光 画面全体を4分割したADI調光を行います。	112

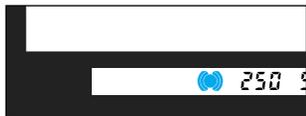
以下の項目はフルオートプログラムに設定しても変化せず、またフルオート設定後も変更が可能です。

内蔵フラッシュの赤目軽減発光の有無、日付・時刻写し込み、データメモリー、アイスタート、フィルム感度、ブザー設定、カスタム設定(カスタム1、20~23を除く)

カスタム設定1、20~23に関しては、設定1~2(または3)のどれにしても、カメラは設定1(オートフォーカス優先・ADI 4分割調光・AF補助光あり・AF制御自動切り替え・シャッターボタン半押しにてAF)として制御されます。ただしディスプレイ上に表示される設定はそのままです(163、182~186ページ参照)。カスタム設定により、Ⓜに設定した後、ダイヤルやレバーの操作を受け付けるようにすることもできます(187ページ参照)。

ピント合わせ

フォーカス表示



シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、ファインダー内のフォーカス表示がその状態をお知らせします。

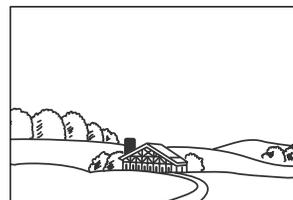
●点灯	ピントが合っています。
◎点灯	ピントが合っています。 被写体の動きに合わせてピント位置が変わります。
○点灯	ピント合わせの途中で、シャッターは切れません。
●点滅	ピントが合わず、シャッターは切れません。

ファインダー内フォーカス表示 ● が点滅したときはオートフォーカスの苦手なもの(次ページ参照)、またはレンズの最短撮影距離よりも近いものを撮ろうとしていないか確認してください。この状態でもシャッターが切れるようにしたいときは、レリーズ優先にしてください(163ページ参照)。

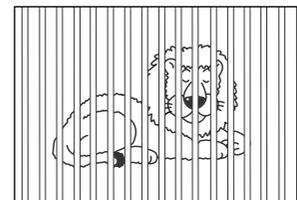
カメラを構えると、シャッターボタンを半押ししなくてもすぐにピント合わせが行われるようにすることもできます(129ページ参照)。

オートフォーカスの苦手な被写体

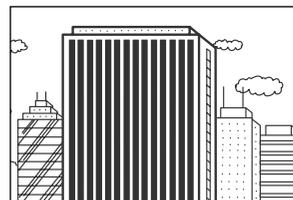
オートフォーカスのピント合わせは被写体のコントラスト(明暗差)を利用しています。したがって、次のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。このような場合は、写したいものと同じ距離にある別のものにピントを合わせてから撮影してください(次ページ参照)。



青空や白壁など
コントラスト(明暗差)の
ないもの



おりの中の動物など、
距離の異なるものが
混じっているとき



ビルの外観など、
繰り返しパターンの
連続するもの



太陽のように明るい被写体や、
車のボディ、水面など
きらきら輝いているもの

写したいものが画面中央にないときは(フォーカスロック)



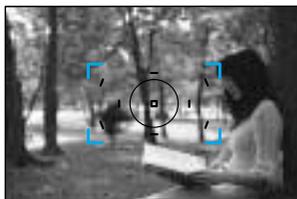
ピントを合わせたいものが「**[]**」に入らないときに、そのまま撮影すると、「**[]**」と重なっている背景にピントが合って人物がぼけてしまいます。このようなときは、次のようにしてピントを固定(フォーカスロック)して撮影してください。



● 250 5.6 -3..2..1..0..1..2

1. ピントを合わせたいものにフォーカスフレーム「**[]**」を合わせ、シャッターボタンを半押しします。

ファインダー内の●が点灯し、ピント合った部分のローカルフォーカスフレームが、一瞬赤く点灯します。



● 250 5.6 -3..2..1..0..1..2

2. シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図にします。
3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

ピントと同時に露出も固定されます(14分割八ニカムパターン測光選択時のみ)。撮影後、シャッターボタンから指を離すと、ピントの固定は解除されます。撮影後も指を離さずにそのまま半押し状態に戻すと、同じピント位置で連続して撮影できます。

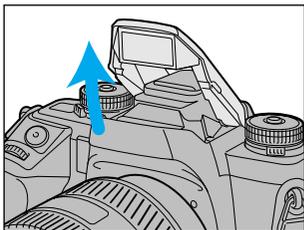
フォーカス表示●が点灯しないとき(被写体が動いているとき)は、シャッターボタン半押しによるフォーカスロック撮影はできません。

被写体が「**[]**」に入っている場合、ダイレクトフォーカスフレームセクターを使うと、任意の位置でピントを合わせることができます(58ページ参照)。シャッターボタン半押し以外でのフォーカスロック撮影も可能です(61ページ参照)。

内蔵フラッシュ撮影

このカメラには、24mmレンズの画角をカバーするガイドナンバー12(ISO 100)の内蔵フラッシュが搭載されています。

1. メインスイッチをONにし、露出モードダイヤルを  (フルオートプログラム) に合わせます。



2. フラッシュを上げます。
3. シャッターボタンを押して撮影します。
フラッシュは必要時には自動的に発光します。

フラッシュを発光させたくないときは、フラッシュを押し下げてください。
フラッシュを必ず発光させたいときは、以外を選んでください(64ページ参照)。

フラッシュ表示



シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に以下のフラッシュ表示が現れます。

 点灯	フラッシュの充電が完了しました
 点滅(撮影後)	フラッシュ光が被写体に届きました

撮影後  が点滅しなかったときは、フラッシュ光が被写体に届いていません。次ページの表でフラッシュ光の届く範囲を確認してください。

フラッシュ調光距離(フラッシュ光の届く範囲)

内蔵フラッシュの光が届く範囲には限度があり、絞り値とフィルム感度によって異なります。以下の表を目安にしてください。

	フィルム感度	
絞り値	ISO 100	ISO 400
F2.8	1.0 ~ 4.3 m	1.0 ~ 8.6 m
F3.5	1.0 ~ 3.4 m	1.0 ~ 6.8 m
F4	1.0 ~ 3.0 m	1.0 ~ 6.0 m
F5.6	1.0 ~ 2.1 m	1.0 ~ 4.3 m

内蔵フラッシュ使用時の注意

内蔵フラッシュで撮影する場合は、フラッシュ光がレンズでさえぎられて、写真の下部に影ができることがあります。以下の点に気を付けて撮影してください。

被写体から1m以上離れて撮影してください。

レンズフードは取り外してください。

下記のレンズで内蔵フラッシュ撮影するときは、広角側でフラッシュ光がレンズでさえぎられることがありますので、フラッシュ撮影には別売のプログラムフラッシュの使用をおすすめします。詳しくは裏表紙記載の弊社フォトサポートセンターにお問い合わせください。

- ・AFズーム17-35mm F3.5G
- ・AFズーム28-85mm F3.5-4.5
- ・AFズーム28-70mm F2.8G
- ・AFズーム28-135mm F4-4.5

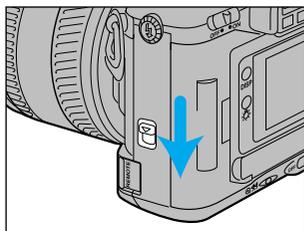
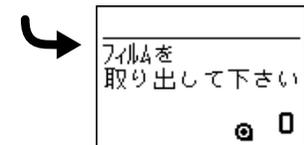
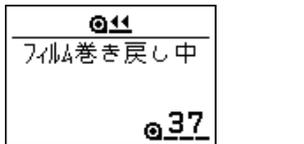
下記のレンズ使用時は、フラッシュ光がレンズでさえぎられるため、内蔵フラッシュによる撮影はできません。

- ・AFアポテレ300mm F2.8(ハイスピードタイプを含む)
- ・AFアポテレ300mm F4
- ・AFアポテレ600mm F4(ハイスピードタイプを含む)

このカメラの内蔵フラッシュは、焦点距離24mmの画角をカバーします。24mm未満の広角レンズで内蔵フラッシュ撮影をすると、写真の周辺まで光が届かず、暗くなる場合があります。

フィルムの巻き戻し

フィルムの最後のコマを撮影すると、自動的に巻き戻しが始まります。



1. 巻き戻しの終了を待ちます。
フィルムカウンターが「0」になり、「フィルムを取り出して下さい」の表示が出たら巻き戻しは終了です。「0」が表示されるまで裏ぶたを開けないでください。また、ロックがかかっている状態で無理にこじ開けないでください。

2. 裏ぶた開放レバーを押し下げて裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。
27枚撮りフィルム等枚数情報のないフィルムで規定枚数以上撮影した場合は、最後のコマが現像処理でカットされたり、日付や時刻が正しく写し込まれなかったりすることがあります。

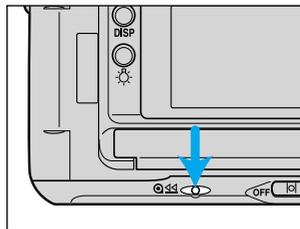
カスタム設定により、以下の選択が可能です。

最後のコマを撮影しても自動的に巻き戻しが始まらないようにすることができます(164ページ参照)。

巻き戻した後のフィルムの先端が残るように(パトローネ内に巻き込まれてしまわないように)することができます(164ページ参照)。

巻き戻しの初期設定は高速巻き戻しです。巻き戻し中に途中巻き戻しボタンを押すと、低速(サイレント)巻き戻しと高速巻き戻しを切り替えることができます。低速(サイレント)巻き戻しでは、巻き戻しの時間は長くなりますが、音を小さくすることができます。最初からどちらかの設定を選んでおくことが可能です(176ページ参照)。

最後のコマまで撮影せずに途中で取り出したいときは



ボディ背面の途中巻き戻しボタンを軽く押します。

ボタンを強く押し込んだり、先のとがったもので押したりしないでください。故障の原因となります。

途中で取り出したフィルムをもう一度カメラに入れる場合、撮影者が指定したコマまで簡単にフィルムを進める機能(フィルム指定コマ送り機能)を選ぶこともできます(165ページ参照)。

応用撮影

この章では、カメラの各機能の詳細を説明しています。必要に応じて必要な部分のみお読みください。

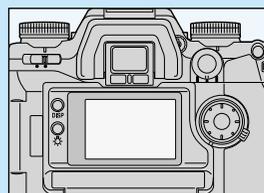
応用撮影1

ナビゲーションディスプレイ	39
フォーカス(ピント合わせ)	47
露出モード	63
測光・露出	77
巻き上げ	91
フラッシュ撮影	102
その他の機能	123

応用撮影2

登録	137
撮影データメモリー	145
カスタム設定	158

ナビゲーション ディスプレイ

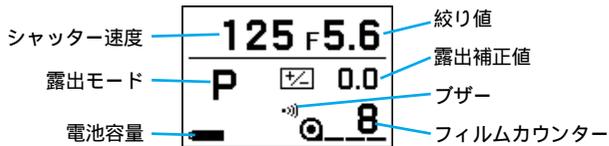


このカメラはボディ背面にナビゲーションディスプレイ(大型ドットマトリックス液晶表示部)を搭載しており、撮影者の好みや技術レベルに合わせて撮影に役立つ多彩な情報を提供します。

この章ではディスプレイの全般的な説明のみを行なっています。各画面の詳しい説明については、その都度該当するページ(カスタム設定等)にて説明しています。

ナビゲーションディスプレイは、低温下で反応が遅くなりますが、常温に戻ると元に戻ります。

1時間以上メインスイッチをONにしたままカメラを操作しないしていると、ディスプレイは消灯します。カメラを操作すると再び点灯します。



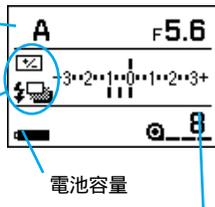
測光インジケータ画面

露出補正やブラケットの設定を、グラフを使って分かりやすく表示します。インジケータの上半分はファインダー内の測光インジケータと同じもの、下半分はフラッシュ調光用のインジケータです。フラッシュ発光時に表示されます。

次に撮影するコマのデータです。

現在インジケータに表示されている内容を表します。

- 露出補正値(82ページ)
- フラッシュ調光補正值(110ページ)
- Mモードメータードマニュアル値(75ページ)
- ブラケット設定値(99ページ)
- フラッシュブラケット設定値(109ページ)
- 表示中 AEロックボタンを押したときの、AEロックされた値と現在のスポット測光サークル内の値の差(86ページ)



フィルムカウンター

詳しくはそれぞれの該当ページをご覧ください。

±3段を越える場合は◀または▶が点灯します。

カスタム設定により、画面切り替えボタンを押しても測光インジケータ画面が現れないようにすることもできます(193ページ参照)。

撮影履歴画面

直前の5コマのシャッター速度・絞り値・露出補正値が表示されます。

	シャッター速度	絞り値	露出補正値	
8	125	5.6	0.0	次に撮影するコマのデータ
7	500	2.8	0.0	
6	750	4	-0.5	直前の5コマのデータ
5	250	5.6	0.0	
4	60	5.6	+1.5	
3	2000	5.6	-2.0	

フィルムの何コマ目かを表します。

フィルムが入っていないときは表示されません。

フィルム指定コマ送り(164ページ)でフィルムを先送り / 巻き戻した場合でも、カウンターは正確に反映されます。

1行目のみ以下の表示もあります。

M1、**M2**・・・：多重露光1枚目、2枚目・・・(100ページ参照)

STF：STFモード(188ページ参照)

これらは撮影が済んで2行目に移動すると、フィルムカウンター表示になります。

撮影履歴画面選択中は、日付・時刻写し込み表示 **DATE**、撮影データメモリー表示 **DATA**、およびプザー表示 は現れません。電池容量表示は のみ常時現れます。

多重露光の場合は、1回の露光ごとのデータが表示されます。

カスタム設定により、画面切り替えボタンを押しても撮影履歴画面が現れないようにすることもできます(193ページ参照)。

電池を抜くと直前の履歴も失われます。

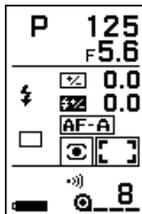
撮影データメモリー(145ページ)の設定とは関係ありません。

縦表示

詳細画面および拡大画面選択時は、カメラを縦位置に構えてシャッターボタンを半押しすると、横表示が縦表示に切り替わります。

詳細画面・拡大画面以外の縦表示はありません。

カスタム設定により、縦位置に構えても縦表示が現れないようにすることもできます(194ページ参照)。



設定操作表示

詳細画面以外では、スペースの関係上すべての設定を表示することができません。画面で表示できないものは、ダイヤルやレバーの操作後5秒間ディスプレイ上に表示されず(設定操作表示)。

例：拡大画面選択後、連続撮影(高速)を選んだ場合
(5秒間後に拡大画面に戻る)

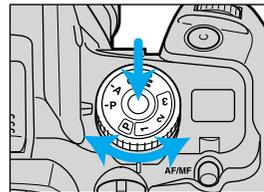


設定操作表示が現れている5秒間でも、シャッターボタンを半押しすると元の表示に戻ります。撮影も可能です。

カスタム設定により、設定操作表示が現れないようにすることもできます(192ページ参照)。

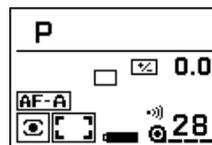
ディスプレイ上部が反転する場合

露出モードダイヤルを回すと、P・A・S・Mでは背景はそのままですが、P・1・2・3ではディスプレイ上部が反転して黒くなります。



フルオートプログラムPや登録(1~3)にするとカメラの主な設定が自動的に変更されるため、カメラの実際の設定はダイヤルやレバーの示す位置とは異なった状態になります。このような場合にはディスプレイ上部が反転して黒くなります。上部が反転した場合はディスプレイの表示が正しいので、ダイヤルやレバーでなくディスプレイの情報を元に撮影を行なってください。

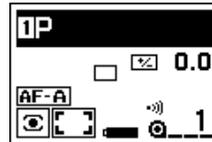
登録機能 カメラの主な設定をあらかじめ登録しておいて、必要時に瞬時に呼び出せる機能。登録1~3の3種類までを登録することができます(137ページ参照)。



例1：露出モードダイヤルをPに合わせた場合
P・A・S・Mは各露出モードを表します(64ページ参照)。

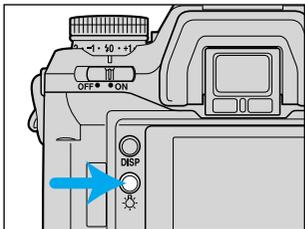


例2：露出モードダイヤルをP(フルオートプログラム)に合わせた場合



例3：露出モードダイヤルを1(登録1)に合わせた場合
ご購入時にはフルオートプログラムと同じ設定が登録されているので、このような表示になります。登録2、3も同様です。

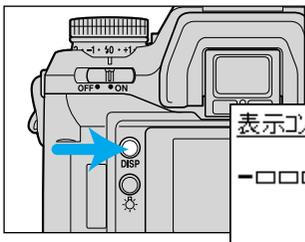
ディスプレイの照明



ナビゲーションディスプレイ照明ボタンを押します。

5秒間照明が点灯します。その間にカメラ操作を行なうと、点灯時間は延長されます。点灯中にもう一度照明ボタンを押すと消灯します。

ディスプレイのコントラスト(明暗差)調節

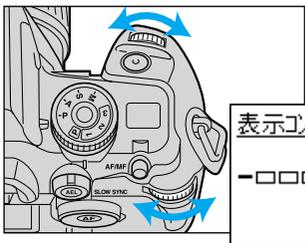


1. 画面切り替えボタンを3秒以上押し続けます。

表示コントラスト設定中

- □ □ □ ■ □ □ □ +

コントラスト調整画面が表示されます。



2. 前または後ダイヤルを回してコントラストを調節します。

表示コントラスト設定中

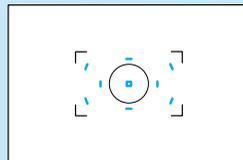
- □ □ □ □ □ ■ □ +

+方向へ回すとコントラストが強く、-方向へ回すと弱くなります。

3. シャッターボタンを半押しします。

通常の表示に戻ります。

フォーカス (ピント合わせ)



オートフォーカスには新開発の中央デュアルクロス9点センサーを搭載、構図の決め手となる中央のエリアを効率良くカバーし、ピントを合わせる位置をより正確にコントロールすることができます。さらにオートフォーカス駆動系にはクラ

ッチ機構を採用、カメラ背面のAF/MFコントロールボタンで、オートフォーカスとマニュアルフォーカスの切り替えがより簡単に行えるようになりました。

この章の主なポイントは以下の通りです。

フォーカスモード 48～53ページ

3種類のオートフォーカスモードとマニュアルフォーカスモードがあり、カメラ前面のダイヤルで選ぶことができます。さらに、背面のAF/MFコントロールボタンによるオートフォーカスとマニュアルフォーカスの切り替えが可能です。

フォーカスフレーム 55～60ページ

9つのセンサーのうち、どれを使うかを自動または手動で選ぶことができます。

露出モードダイヤルを☐(フルオート)にしているとこれらの設定はできません。☐以外に合わせてください(63ページ参照)。

フォーカスモード

このカメラには、3種類のオートフォーカスモードとマニュアルフォーカスモードがあり、撮影者の意図や使い方に応じて切り替えることができます。

オートフォーカス(カメラが自動的にピントを合わせます)

- AF制御自動切り替え(A) あらゆる被写体に対して有効です。
- コンティニュアスAF(C) 動く被写体を撮影するのに便利です。
- ワンショットAF(S) 静止している被写体を撮影するのに適しています。

マニュアルフォーカス(MF) 撮影者が手動でピントを合わせます。

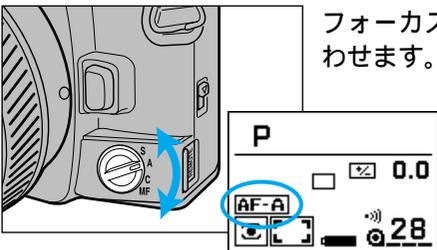
AFはオートフォーカス(Auto Focus)、MFはマニュアルフォーカス(Manual Focus)の略語です。

AF制御自動切り替え(A)

被写体の動きに応じて、コンティニュアスAFとワンショットAFとが自動的に切り替わります。被写体が動いているときは、シャッターボタンを半押ししている間ピントを合わせ続けます。被写体が静止しているときは、シャッターボタン半押しで一度だけピントを合わせ、そこでピント位置を固定(フォーカスロック)します。

シャッターチャンス逃すことなく撮影に専念でき、人物撮影や記念撮影からスナップ、風景写真など幅広いシーンでお使いいただけます。

露出モードダイヤルを回(フルオートプログラム)にしても、自動的にこのモードになります。



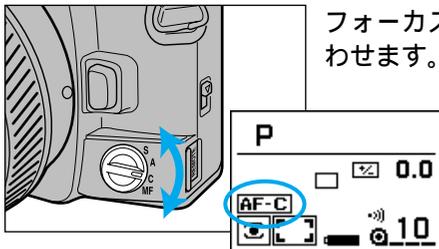
AF-Aがディスプレイ上に表示されます(AF=オートフォーカス)。

シャッターボタンを押すと、カメラが自動的にピントを合わせます。カスタム設定により、A位置の設定をAF制御自動切り替えからダイレクトマニュアルフォーカス(ピントを合わせた後、ピント位置の微調整ができる機能)に変更することができます(184ページ参照)。

コンティニュアスAF(C)

シャッターボタンを半押ししている間ピントを合わせ続けます。

運動会、競馬、鉄道写真、カーレースなど、動きのある被写体を撮影するときに効果を発揮します。

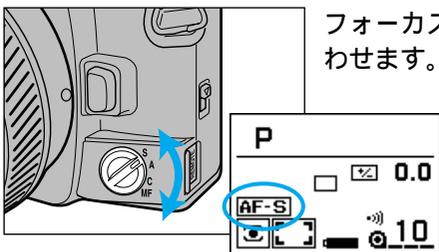


AF-Cがディスプレイ上に表示されます(AF=オートフォーカス)。

シャッターボタンを押すと、カメラが自動的にピントを合わせ続けます。ピント合わせに使われたローカルフォーカスフレームは点灯しません(55ページ参照)。
ピントが合ったときの電子音は鳴りません(136ページ参照)。

ワンショットAF(S)

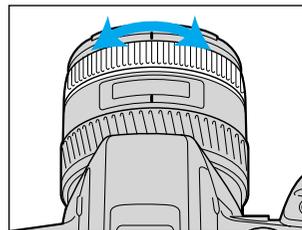
シャッターボタン半押しで一度だけピントを合わせ、そこで固定(フォーカスロック)します。建築物や美術品、静物、接写・複写など、静止している被写体の撮影に適しています。



フォーカスモードダイヤルをSに合わせます。

AF-S がディスプレイ上に表示されます(AF=オートフォーカス)。

シャッターボタンを押すと、カメラが自動的にピントを合わせます。

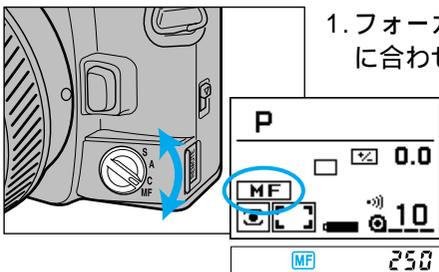


2. 被写体が最もはっきり見えるように、レンズのフォーカスリングを左右に回します。

オートフォーカスでピントが合うような被写体の場合は、ピントが合うとファインダー内のフォーカス表示 ● が点灯するので、ピントの確認が容易にできます。ダイレクトフォーカスフレームセレクターまたはスポットAFボタンを押すと、ピント確認に使われるローカルフォーカスフレームを指定することができます。マニュアルフォーカスに設定していても、次ページのAF/MFコントロールボタンを使用すれば、オートフォーカスは可能です。テレコンバーター使用時などフォーカスリングの動きが重いときは、54ページをご覧ください。このカメラではマニュアルフォーカス時でもより安定した露出が得られるよう、露出の決定に距離情報を利用しています。距離情報の精度を高めるため、メインスイッチをONにすると、ピントがいったん無限遠位置(∞)にリセットされます。

マニュアルフォーカス(MF)

オートフォーカスを使わずに、マニュアル(手動)で自由にピントを合わせます。



1. フォーカスモードダイヤルをMFに合わせます。

ファインダー内とディスプレイ上に**MF**が表示されます。

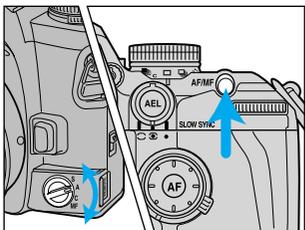
AFズームXiレンズ・AFパワーズームレンズをお使いの場合、ズームリングをカメラ側に引き、そのまま左右に回します。被写体が最もはっきり見えるところでシャッターボタンを押して撮影してください。

オートフォーカスとマニュアルフォーカスの切り替え

フォーカスモードについては前述のフォーカスモードダイヤルで選びますが、背面のAF/MFコントロールボタンを使うと、撮影中にカメラのホールディングを崩すことなく、より簡単にオートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替えることができます。

Xiズームレンズ・AFパワーズームレンズ・STF135mmF2.8[T4.5]レンズではAF/MFコントロールボタンは使用できません。

オートフォーカスを設定している場合

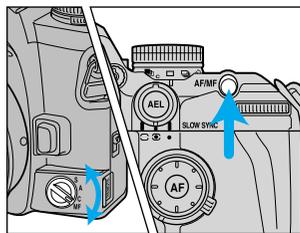


オートフォーカス(A・C・S)設定時にAF/MFコントロールボタンを押すと、押している間は一時的にマニュアルフォーカスになります。AF/MFコントロールボタンを押したまま、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせてください。

マニュアルフォーカスになっている間は、ファインダー内にMFが表示されます。ディスプレイ上の表示はオートフォーカスのままです。AF/MFコントロールボタンを押している間は、それまでのピント位置はそのまま保持されるので、フォーカスロックとして使うこともできます。カスタム設定により、AF/MFコントロールボタンを一度押すとマニュアルフォーカス、もう一度押すとオートフォーカスに戻る、という設定にすることができます(173ページ参照)。

マニュアルフォーカスを設定している場合

マニュアルフォーカスを中心に使用、必要時のみオートフォーカスを使われる方に便利な機能です。



マニュアルフォーカス(MF)設定時にAF/MFコントロールボタンを押すと、オートフォーカスが起動してピントを合わせます。ピントが合った後、AF/MFコントロールボタンを押している間はピント位置が固定されています。

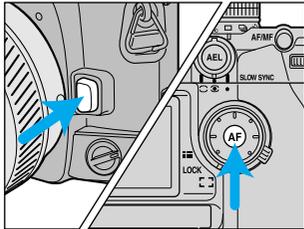
AF/MFコントロールボタンから手を放すとそのままのピント位置でマニュアルフォーカスに戻り、レンズのフォーカスリングを回してピント位置を調整することができます。AF/MFコントロールボタンを押したときのフォーカスモードはワンショットAF(S)になります。測光も同時に行われます。AF/MFコントロールボタンを押している間は、ファインダー内のMFの表示は消灯します。ディスプレイ上はMFが表示されたままです。カスタム設定により、AF/MFコントロールボタンを一度押すとオートフォーカスが起動、もう一度押すとマニュアルフォーカスに戻る、という設定にすることができます(173ページ参照)。

フォーカスフレーム

テレコンバーター使用時などマニュアルフォーカスでフォーカスリングの回転が重く感じられるときは、以下の方法が可能です。

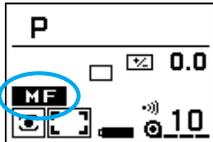
このカメラの機能が一部発揮できなくなります(以下参照)ので、ご理解の上でご使用ください。

1. フォーカスモードダイヤルをMFに合わせます。



2. スポットAFボタンを押しながらレンズ取り外しボタンを押します。

3. レンズ取り外しボタン、次にスポットAFボタンの順に手を離します。



通常のマニュアルフォーカス **MF** の代わりに、**MF** がディスプレイ上に表示されます。フォーカスモードダイヤルをA・C・Sのいずれかに合わせるか、露出モードダイヤルを **☺** (フルオートプログラム) にすると解除されます。

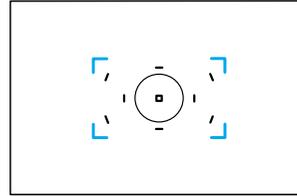
上記の代わりに、スポットAFボタンを押しながらレンズを取り付ける、という方法も可能です。

MF 設定時は以下の点にご注意ください。

AF/MFコントロールボタンは機能しません。

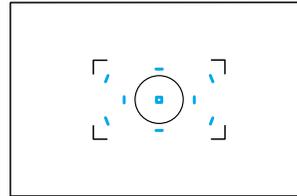
露出やフラッシュ調光の性能を十分に発揮することはできません(例: 測光モードレバーで14分割ハニカムパターン測光を選択していても、カメラは中央重点の平均測光に近い方式で測光を行います)。撮影には支障ありません。

Xiズームレンズ・AFパワーズームレンズではこの設定はできません。



ワイドフォーカスフレーム

このカメラでは、ピントを合わせる範囲が広いワイドフォーカスを採用、動きのある被写体でもピント合わせが容易に行えるようになっています。ワイドフォーカスでピント合わせができる範囲は、ワイドフォーカスフレームで表されています。



ローカルフォーカスフレーム

ワイドフォーカスフレーム内には9カ所のセンサーがあり、センサーのある位置はローカルフォーカスフレームで表されています。被写体の位置に応じて、9カ所のセンサーのうちのどれかが動いてピントを合わせます。シャッターボタンを半押ししてピントが固定されると、ピント合わせに使われたセンサー位置のローカルフォーカスフレームが一瞬点灯して、どの部分にピントが合っているかをお知らせします。

中央のローカルフォーカスフレーム(スポットフォーカスフレーム)には、2つのクロス型センサー(+ ×)が重なっており、あらゆる被写体に対してより正確なピント合わせができるような仕組みになっています(中央デュアルクロス)。

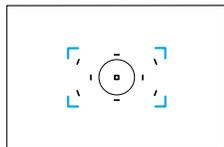
AFモード選択ダイヤルがQ(コンティニュアス)になっているとき(49ページ)は、ローカルフォーカスフレームは点灯しません。また、連続撮影時や被写体が動いているとき、シャッターボタンを一気に押し込んだときなども、点灯しないことがあります。

カスタム設定により、ローカルフォーカスフレームの点灯時間を変更したり、シャッターボタンを押しても点灯しないようにすることもできます(177ページ参照)。

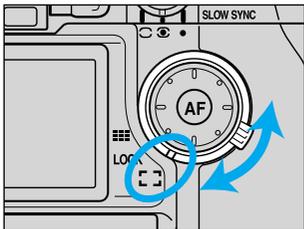
ワイドフォーカスフレーム・ローカルフォーカスフレームは、撮影者の思い通りに選択することができます。またどちらの場合でも、中央のスポットフォーカスフレームは簡単に選択できます。
一度決めたフォーカスフレームをロックすることもできます(60ページ参照)。

ワイドフォーカスフレーム

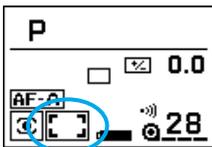
ワイドフォーカスフレーム内の9つのセンサー(ローカルフォーカスフレーム)のうち、どれをピント合わせに使うかをカメラが自動的に決定します。また、スポットAFボタンを押すだけで中央のスポットフォーカスフレームを選ぶこともできます。



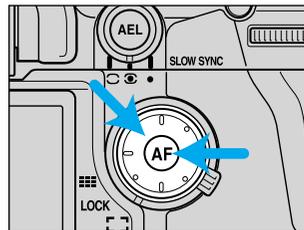
露出モードダイヤルを☉(フルオートプログラム)にしても、自動的にこのモードになります。



1. AFワイド/ローカル切り替えレバーを「」(ワイド)に合わせます。



ワイドフォーカスフレーム「」がディスプレイ上に表示されます。



2. ダイレクトフォーカスフレームセクター(以下セクター)を押すと、ワイドフォーカスフレームでピントが合います。スポットAFボタンを押すと、中央のスポットフォーカスフレームでピントが合います。



ピント位置が固定されると、ピント合わせに使われたフレームが一瞬点灯します。セクターを押す方向と実際にピント合わせに使われるフレームとは無関係です。セクターまたはボタンを押している間は、ピントが固定されています。

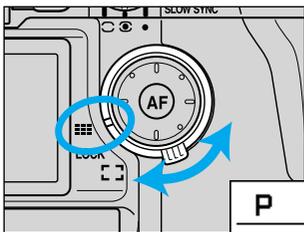
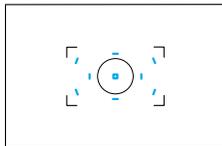
3. セクターまたはスポットAFボタンを押したまま、シャッターボタンを押して撮影します。

撮影後も、セクターまたはスポットAFボタンから手を放さずに押し続けると、同じピント位置で続けて撮影することができます。

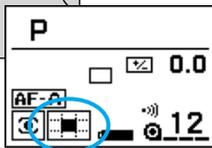
1/4分割八ニカムパターン測光選択時は、ピントと同時に露出も固定されます。セクターまたはスポットAFボタン押したまま撮影を続けると、被写体の明るさが変わると適正露出が得られません。

ローカルフォーカスフレーム

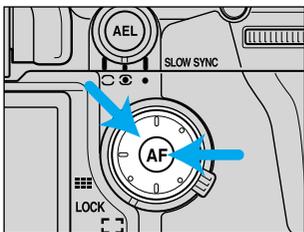
9つのローカルフォーカスフレームから任意のフレームを選ぶ方法です。



1. AFワイド/ローカル切り替えレバーを (ローカル) に合わせます。

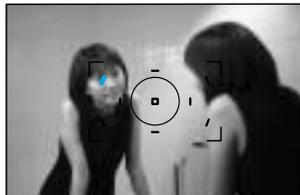
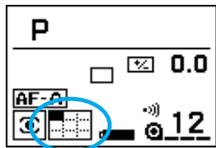


現在選択されているローカルフォーカスフレームがディスプレイ上に表示されます。



2. ダイレクトフォーカスフレームセレクターを押すと、押した位置のローカルフォーカスフレームが選択され、ピントが合います。

スポットAFボタンを押すと、中央のスポットフォーカスフレームでピントが合います。



選択されたローカルフォーカスフレームまたは中央のスポットフォーカスフレームが、一瞬点灯します。

セレクターまたはボタンを押している間は、ピントが固定されています。

3. セレクターまたはスポットAFボタンを押したまま、シャッターボタンを押して撮影します。

撮影後も、セレクターまたはスポットAFボタンから手を放さずに押し続けていると、同じピント位置で続けて撮影することができます。

手を放すとピント位置は解除されますが、選んだローカルフォーカスフレームは変わりません。

14分割八ニカムパターン測光選択時は、ピントと同時に露出も固定されます。セレクターまたはスポットAFボタン押したまま撮影を続けると、被写体の明るさが変わると適正露出が得られません。常に同じローカルフォーカスフレームでピント合わせをすることもできます(60ページ参照)。

AFレフレックス500mm F8およびAFパワーズーム35-80mm F4-5.6を使用しているときは、中央のスポットフォーカスフレームしか選択できません。

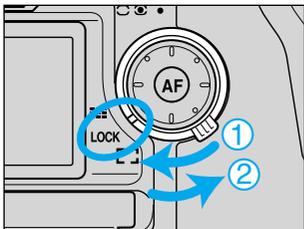
常に同じフォーカスフレームでピントを合わせる場合

56～59ページで選択したフォーカスフレームをロックして、常にそれを使用することができます。

AFワイド/ローカル切り替えレバーをロックした状態では、セレクターやスポットAFボタンの操作は無効となります(押ししても何も起こりません)。間違っても操作したくない場合にお使いください。

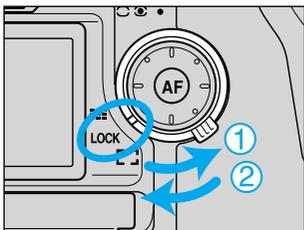
撮影後も、同じフォーカスフレームのままでも撮影を続けることができます。

ローカルフォーカスフレーム(またはスポットフォーカスフレーム)をロックする場合



1. AFワイド/ローカル切り替えレバーを  に合わせて、希望のローカルフォーカスフレームまたはスポットフォーカスフレームを選択します。
2. AFワイド/ローカル切り替えレバーをLOCK(ロック)に合わせます。

ワイドフォーカスフレームをロックする場合



1. AFワイド/ローカル切り替えレバーを  に合わせます。
2. AFワイド/ローカル切り替えレバーをLOCK(ロック)に合わせます。

フォーカス機能早引き

このカメラではさまざまな方法でピントのコントロールができます。以下に主なものをまとめました。

カメラのホールディングを崩さずに素早くオートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替える

AF/MFコントロールボタンを使用する(52～53ページ)、カスタム設定9にて、ボタンを押し続けるか、押すたびに切り替わるかを選択することも可能(173ページ)。

オートフォーカスでピントを合わせた後、マニュアルフォーカスで微調整をする

カスタム設定22-2のダイレクトマニュアルフォーカスを選択、オートフォーカスに設定した状態でシャッターボタンを半押ししている間にフォーカスリングを回してピントを合わせる(184ページ)。

マニュアルフォーカスを中心に使用、必要に応じてオートフォーカスにする

マニュアルフォーカスに設定した状態で使用、オートフォーカスでピントを合わせるときはAF/MFコントロールボタンを押す(53ページ)。

オートフォーカスでフォーカスロック(ピントの固定)をする

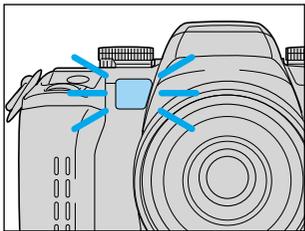
シャッターボタンを半押しし続ける(32ページ)

ダイレクトフォーカスフレームセレクターまたはスポットAFボタンを押し続ける(56～59ページ)

オートフォーカスに設定した状態で、AF/MFコントロールボタンを押し続ける(52ページ)

カスタム設定23-2でシャッターボタンによるオートフォーカス禁止を選択(186ページ) その後ダイレクトフォーカスフレームセレクターまたはスポットAFボタンでピント合わせを行なう。

AF補助光



被写体が暗いときやコントラスト(明暗差)が小さいときは、シャッターボタン半押し等オートフォーカスでピントを合わせると、カメラ前面の赤いランプが光ることがあります。これは、オートフォーカスでピントを合わせやすくするためのAF補助光です。

補助光の届く範囲は、約0.7～7mです(当社試験条件による)。

AF補助光は中央のスポットフォーカスフレームにのみ対応しています。ローカルフォーカスフレーム選択時は発光しません。

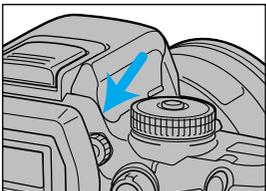
フォーカスモードをコンティニュースAF(C)にしているときや、被写体が動いているとき(ファインダー表示  が点灯しているとき)は、補助光は発光しません。

レンズの焦点距離が300mm以上のときは、AF補助光は発光しないことがあります。AFマクロズーム3×・1×使用時にも、AF補助光は発光しません。

プログラムフラッシュを取り付けているときは、プログラムフラッシュのAF補助光が発光することもあります。

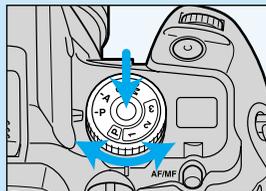
カスタム設定により、AF補助光の発光をなくすこともできます(183ページ参照)。

フィルム面の位置



撮影距離は厳密にはフィルム面から被写体までの距離を表すため、マクロ撮影などで正確な撮影距離を求める場合には、フィルム面の位置を確認する必要があります。このカメラでは、図の線の位置がフィルム面と同じです。

露出モード



露出モードダイヤルでは、大きく分けて次の3種類の設定ができます。

- ☐ フルオートプログラム
- P・A・S・M 各露出モード
- 1・2・3 登録モード

この章では、P・A・S・Mの各露出モードについて説明します。

フルオートプログラムについては26ページ、登録モードについては137ページをご覧ください。

同じシーン、同じ被写体でも、シャッター速度や絞り値を変えると写真の描写が変わります。露出モードを変えることで、シャッター速度と絞り値のどちらか一方、あるいは両方を自分で決めることができます。このカメラには、以下の4つの露出モードがあります。

P(プログラム)モード(65ページ)

撮影シーンに適した絞り値とシャッター速度が自動的に決まります。またPモードで前または後ダイヤルを回すと、一時的に絞り値とシャッター速度の組み合わせを変えることもできます(PA/Psシフト)。

A(絞り優先)モード(67ページ)

撮影者が希望の絞り値を決めることができます。カメラが自動的にシャッター速度を決めます。ポートレート撮影など、絞りの効果を生かして背景のぼけ具合をコントロールしたいときに使います。

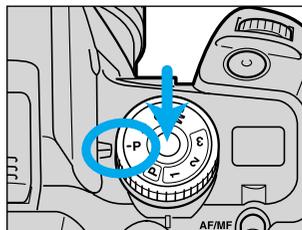
S(シャッター速度優先)モード(70ページ)

撮影者が希望のシャッター速度を決めることができます。カメラが自動的に絞り値を決めます。スポーツ撮影など、シャッター速度の効果を生かして動くものを止めて表現したり、逆に流動感を表現したいときに使います。

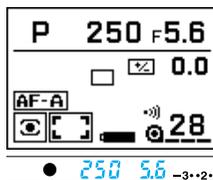
M(マニュアル)モード(73ページ)

撮影者が絞り値とシャッター速度の両方を決めます。絞り値とシャッター速度の両方を固定したままで撮影したいときや、露出計の値で撮影するときに使います。

撮影シーンに適した絞り値とシャッター速度が自動的に決まります。シャッターチャンスに専念することができ、スナップ写真など一般撮影に最適です。露出モードダイヤルをP(フルオートプログラム)にしても、自動的にこのモードになります。



露出モードダイヤルロック解除ボタンを押しながら、露出モードダイヤルをPに合わせます。



シャッターボタンを半押しすると測光が行われ、ディスプレイ上・ファインダー内・ボディ上面表示部にシャッター速度と絞り値が表示されます。

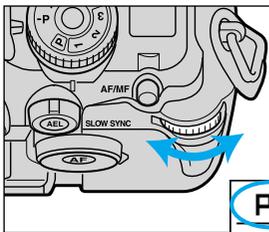
Q(フルオートプログラム)とPモードの違い

Q(フルオートプログラム)ではシャッター速度と絞り値だけでなく、その他の大半の機能がフルオート(全自動、28ページ)に戻ります。カメラ上のダイヤルやレバーの設定は無効となり、撮影者が後で設定を変更することはできません。

Pモードはシャッター速度と絞り値が自動で決まるだけで、それ以外の設定(ピント、フラッシュ等)は撮影者がダイヤルやレバーで設定します。カスタム設定により、Qに設定した後、ダイヤル操作を受け付けるようにすることもできます(187ページ参照)。

PA/Psシフト

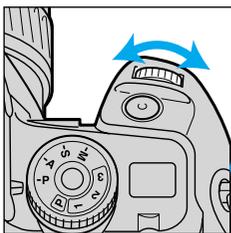
Pモードのままで、一時的に絞り値とシャッター速度の組み合わせを変えることもできます(PA/Psシフト)。



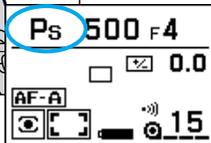
測光値(絞り値とシャッター速度)が表示されている状態で、
後ダイヤルを回すとPAシフトになります。



希望の絞り値を選択することができます。シャッター速度は自動的に決まります。



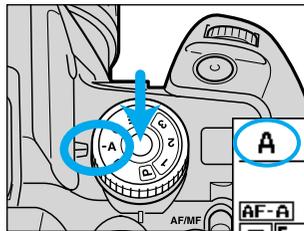
前ダイヤルを回すとPsシフトになります。
希望のシャッター速度を選択することができます。絞り値は自動的に決まります。



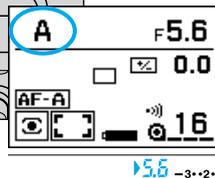
露出補正ダイヤルが1/2EVステップになっているときは1/2段ごとに、1/3EVステップのときは1/3段ごとに絞り値が変わります(83ページ参照)。フラッシュが発光する場合は、PA/Psシフトにはなりません(ダイヤルを回しても数値は変わりません)。露出モードダイヤルロック解除ボタンを押すとPモードに戻ります。フラッシュをONにしたり、測光値が消えたてから5秒経過したりしても同様にPモードに戻ります。

A(絞り優先)モード撮影

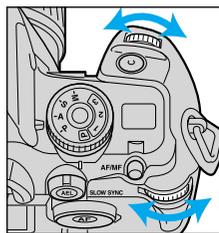
撮影者が希望の絞り値を決めることができます。絞り値が変わると被写体以外のもののピントの状態が変わり、背景をぼかしたり、くっきり写したりすることができます。絞り値を大きくすると近くのものから遠くのものまでくっきりと写り、小さくすると被写体以外のものがぼけやすくなります。



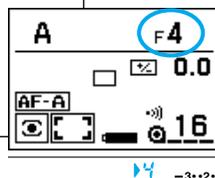
1. 露出モードダイヤルロック解除ボタンを押しながら、露出モードダイヤルをAに合わせます。



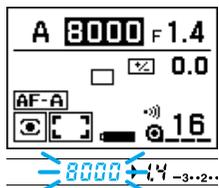
ディスプレイ上にAが、ファインダー内の絞り値表示の横に▶が現れます。



2. 前または後ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。



露出補正ダイヤルが1/2EVステップになっているときは1/2段ごとに、1/3EVステップのときは1/3段ごとに絞り値が変わります(83ページ参照)。



シャッターボタンを半押ししたときにシャッター速度8000または30"が反転または点滅した場合は、カメラの制御範囲を越えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。反転または点滅しなくなるまで絞り値を変更してください。

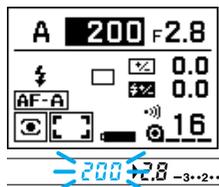
次ページへ続く

Aモードフラッシュ撮影

1. 前ページの要領で、Aモードにして希望の絞り値を選びます。
2. 内蔵フラッシュを上げて(またはプログラムフラッシュをONにして)撮影します。

絞りを絞り込む(絞り値を大きくすると)、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。開放側で(絞り値を小さめにして)撮影することをおすすめします。

(内蔵フラッシュ光の届く範囲は35ページ、プログラムフラッシュ光の届く範囲はフラッシュの使用説明書をご覧ください。)



シャッターボタンを半押ししたときにシャッター速度200が反転または点滅した場合は、カメラの制御範囲を越えているため、露出オーバーの写真になります。反転または点滅しなくなるまで絞り値を変更してください。

絞り値について



○ 絞り値が小さいとき
(絞りを開けたとき)



● 絞り値が大きいとき
(絞りを絞り込んだとき)

左の写真は、絞りを開けた状態(絞り値はF1.4、2など小さい)で撮影しています。ピントが被写体のみに合わせていて背景はぼけており、人物がくっきり浮き出てポートレートらしい写真になっています。

右の写真は、絞りを絞り込んだ状態(絞り値はF16、22など大きい)で撮影しています。被写体だけではなくその前後の広い範囲にピントが合っ見え、記念撮影等に適した写真になっています。

このような背景等のぼけ方の描写は、レンズの絞りで調節できます。絞りとは、フィルムに露光される光の量を調節する穴のことで、左の写真のように値が小さい(F1.4、2など)ほど、ピントの合っ見える範囲が狭くなって背景がぼけ、右のように値が大きい(F16、22など)ほど、ピントの合っ見える範囲が広がって背景までピントが合います。

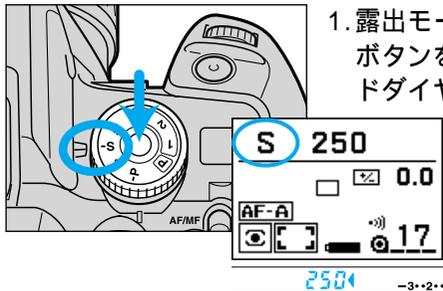
広角レンズほどピントの合っ見える範囲が広くなり、望遠レンズほど狭くなります。

カメラから被写体までの距離が短いほど、ピントの合っ見える範囲が狭くなります。

右の写真のように絞り値を大きくすると、一定時間にフィルムに到達する光の量が減り、必然的にシャッター速度が遅くなります。三脚を使って撮影されることをおすすめします。

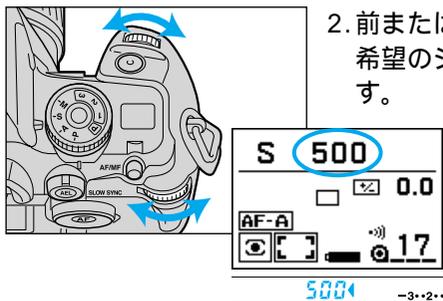
S(シャッター速度優先)モード撮影

撮影者が希望のシャッター速度を決めることができます。シャッター速度が変わると動いているものの写り方が変わります。シャッター速度が速いときには動いているものがくっきりと止まって写り、遅いときは動いているものが流れるように写ります。



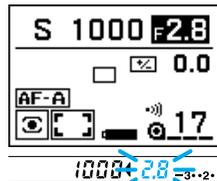
1. 露出モードダイヤルロック解除ボタンを押しながら、露出モードダイヤルをSに合わせます。

ディスプレイ上にSが、ファインダー内のシャッター速度表示の横に◀が現れます。



2. 前または後ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。

1/8000~30秒の範囲で選ぶことができます。露出補正ダイヤルが1/2EVステップになっているときは1/2段ごとに、1/3EVステップのときは1/3段ごとにシャッター速度が変わります(83ページ参照)。



シャッターボタンを半押ししたときに絞り値が反転または点滅した場合は、カメラの制御範囲を越えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。反転または点滅しなくなるまでシャッター速度を変更してください。

表示部の60、125といった数字は、1/60秒、1/125秒を表わします。2”、4”など「”」の文字が出ている場合は、2秒、4秒を表わします。

バルブ撮影(長時間露光)はMモードで撮影してください(130ページ参照)。

Sモードフラッシュ撮影

1. 前ページの要領で、Sモードにして希望のシャッター速度を選びます。
2. 内蔵フラッシュを上げて(またはプログラムフラッシュをONにして)撮影します。

1/200秒より速いシャッター速度は選べません。別売のプログラムフラッシュ5600HS(D)、3600HS(D)または5400HSを使えば、これより速いシャッター速度を選ぶことができます(114ページ参照)。

シャッター速度を遅くして絞りが絞り込まれる(絞り値が大きくなる)と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。ある程度の速さのシャッター速度で撮影することをおすすめします。(内蔵フラッシュ光の届く範囲は35ページ、プログラムフラッシュ光の届く範囲はフラッシュの使用説明書をご覧ください。)

シャッター速度について



シャッター速度が速いとき



シャッター速度が遅いとき

左の写真は、速いシャッター速度で撮影しています。自転車の動きがくっきり止まって写っています。

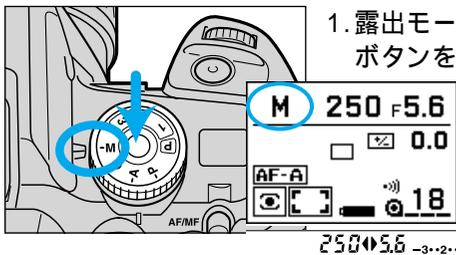
右の写真は、遅いシャッター速度で撮影しています。自転車の動きがよく表現されています。

このように動いているものの描写は、カメラのシャッター速度で調節できます。シャッター速度とは、光がフィルムに当たっている時間のことで、左のようにシャッター速度が速い(1/500秒、1/1000秒など)ほど動くものが止まって写り、右のように遅い(1/15秒、1/30秒)ほど流れるように写ります。

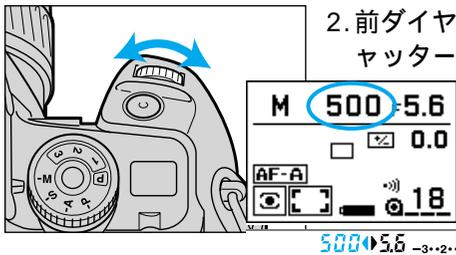
右の写真は流し撮りと言って、カメラを走っている自転車に合わせて動かしたものです。この場面を流し撮りでなく普通に撮ると、背景は流れずに自転車が流れて写ります。

M(マニュアル)モード撮影

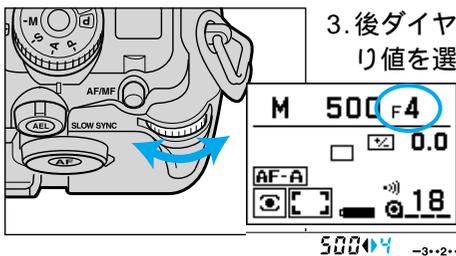
Aモード、Sモードで説明した絞り値とシャッター速度の両方を、自由に選ぶことができます。絞り値とシャッター速度の両方を固定したままで撮影したいときや、露出計を使って撮影するときなどに便利です。



1. 露出モードダイヤルロック解除ボタンを押しながら、露出モードダイヤルをMに合わせます。



2. 前ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。



3. 後ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

ファインダー内のシャッター速度と絞り値表示の横に◀▶が現れます。露出補正ダイヤルが1/2EVステップになっているときは1/2段ごとに、1/3EVステップのときは1/3段ごとにシャッター速度と絞り値が変わります。

Mモードフラッシュ撮影

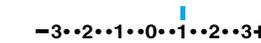
1. 前ページの要領で、Mモードにして希望のシャッター速度を選びます。
2. 内蔵フラッシュを上げて(またはプログラムフラッシュをONにして)撮影します。

1/200秒より速いシャッター速度は選べません。別売のプログラムフラッシュ5600HS(D)、3600HS(D)または5400HSを使えば、これより速いシャッター速度を選ぶことができます(114ページ参照)。

絞りを絞り込む(絞り値を大きくする)と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。開放側で(絞り値を小さめにして)撮影することをおすすめします。(内蔵フラッシュ光の届く範囲は35ページ、プログラムフラッシュ光の届く範囲はフラッシュの使用説明書をご覧ください。)

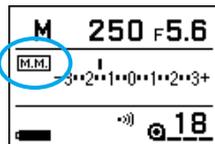
Mモード時の測光インジケータ

Mモードでは、ファインダー内下側の測光インジケータに、カメラが測光した露出値を基準値(0)として、撮影者が選んだシャッター速度と絞り値による露出値が表示されます(メーターマニュアル)。

 <p>基準露出 (カメラが測光した基準値と撮影者が設定した露出値が同じ)</p>	 <p>+1段露出オーバー (撮影者が設定した露出値は、カメラが測光した基準値より+1段オーバー)</p>
 <p>-1.5段露出アンダー (1/2EVステップ選択時)</p>	 <p>+1.3段露出オーバー (1/3EVステップ選択時)</p>

露出補正ダイヤルが1/2EVステップになっていれば、測光インジケータの表示も1/2段ごとになります。露出補正ダイヤルが1/3EVステップであれば、測光インジケータも1/3段ごとになります(83ページ参照)。

露出値の差が±3段を越えると、◀または▶が点滅します。

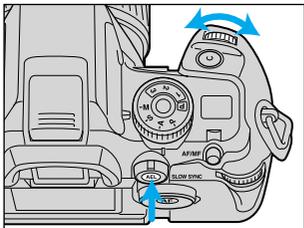


画面切り替えボタンで測光インジケータ画面を選択すると、ディスプレイ上に測光インジケータを表示させることができます。Mモード時のインジケータ(メーターマニュアル)は、画面上半分に[M.M.]として表示されます。

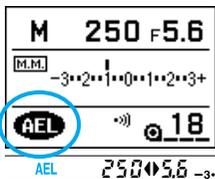
露出補正(81ページ参照)をかけると、それにもなって基準値も移動します。画面全体が黒っぽい(または白っぽい)場合だと、カメラが測光した基準値と同じにしても適正露出にならないことがあります(84ページ参照)。

マニュアルシフト

Mモードで露出を固定したまま、シャッター速度と絞り値の組み合わせを変えることができます。



1. シャッター速度と絞り値を選びます。
2. AEロックボタンを押しながら前ダイヤルを回し、希望のシャッター速度と絞り値の組み合わせを選びます。



AEロックボタンを押している間(機能している間)は、ファインダー内にAEL、ディスプレイ上に**AEL**が表示されます。

AEロックボタンから指を離してもマニュアルシフトができるように(押し続けなくてもいいように)、カメラの設定を変えることもできます(174ページ参照)。1/3EVステップ選択時(83ページ参照)に、1/3段系列から外れるレンズの開放絞り値を選択すると、露出値がずれることがあります。

測光・露出

測光方式と、露出補正など露出関係全般について説明しています。

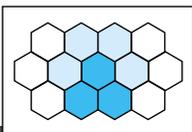
測光方式

カメラは、被写体の明るさを測って(測光して)露出を決定します。測光の方式が異なると、得られる露出も変わってきます。このカメラは3つの測光方式を備えており、撮影目的や光線の状態によって使い分けすることができます。

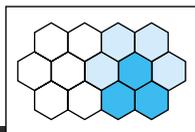
14分割八ニカムパターン測光

画面全体を14分割して測光します。画面内には、13個の八ニカム(ハチの巣)形状の測光素子と、その周囲との合計14個の測光素子が配置されています。これらの素子はオートフォーカスと連動しているので、画面内のどこに被写体があってもカメラがその位置と明るさを的確に判断し、露出を決定します。人の目で見た感じにいちばん近く撮れる測光方式で、逆光撮影を含む一般撮影に適しています。

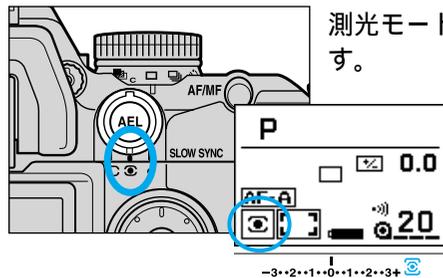
露出モードダイヤルを  (フルオートプログラム)にしても、自動的にこのモードになります。



14分割八ニカムパターン測光
(被写体が中央にあるとき)



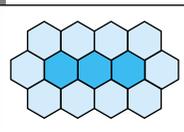
14分割八ニカムパターン測光
(被写体が右寄りにあるとき)



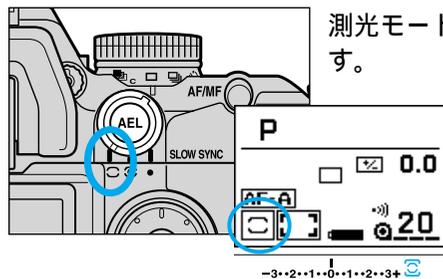
測光モードレバーを  に合わせます。

ファインダー内とディスプレイ上に  が点灯します。

中央重点的平均測光



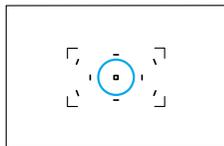
画面の中央部を重点的に、画面全体の明るさを平均的に測光します。逆光時や、被写体が画面中央にない場合などは、露出補正(81ページ)が必要になります。



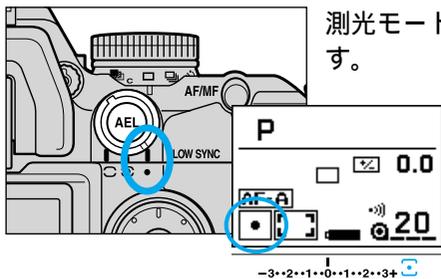
測光モードレバーを  に合わせます。

ファインダー内とディスプレイ上に  が点灯します。

スポット測光



画面の中央の1個の素子(スポット測光サークルの部分)のみで露出を決定します。コントラスト(明暗差)の大きい被写体や、画面のある特定の部分だけを測光するのに適しています。測光したい部分が画面中央にないときは、AEロック撮影(85ページ)を行ってください。



測光モードレバーを に合わせます。

ファインダー内とディスプレイ上に が点灯します。

露出補正



露出アンダー



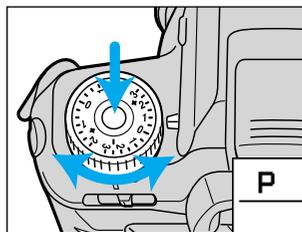
基準露出



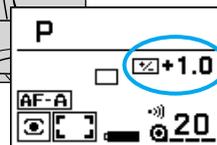
露出オーバー

画面全体が白っぽい(または黒っぽい)ものを撮影する、中央重点的平均測光で逆光の被写体を撮るなど、意図的に露出オーバーまたはアンダーの写真を撮影したいときは、露出補正をお使いください。

ネガフィルムではプリント時に補正されて効果が出にくいので、リバーサルフィルムの使用をおすすめします。



露出補正ダイヤルロック解除ボタンを押しながら、露出補正ダイヤルを希望の補正量の位置まで回します。



ディスプレイ上に設定した露出補正量が表示されます。ファインダー内の測光インジケータについては次ページをご覧ください。

0.0位置から+側または-側に移動するときのみ、ロック解除ボタンを押してください。それ以外は押さなくてもダイヤルを回すことができます。

露出補正を解除するときは、ダイヤルを0.0位置に戻してください。

次ページへ続く

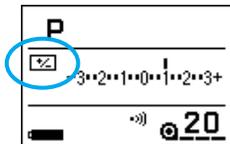
露出補正が1/2EVステップになっているときは±3段まで、1/3EVステップになっているときは±2段までの範囲で露出補正ができます。
後(または前)ダイヤルを回すだけですぐに露出補正ができるように、カメラの設定を変えることもできます。この場合、1/3EVステップでも±3段までの範囲で露出補正ができます(次ページ参照)。

露出補正時の測光インジケータ

露出補正を設定すると、ファインダー内の測光インジケータに、設定した露出補正値が表示されます。

$-3 \cdot 2 \cdot 1 \cdot 0 \cdot 1 \cdot 2 \cdot 3 +$
 露出補正量 - 1.5段
 (1/2EVステップ選択時)

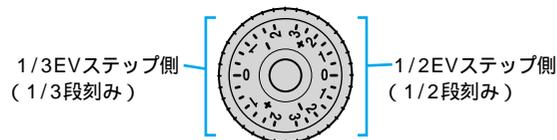
$-3 \cdot 2 \cdot 1 \cdot 0 \cdot 1 \cdot 2 \cdot 3 +$
 露出補正量 + 1.3段
 (1/3EVステップ選択時)



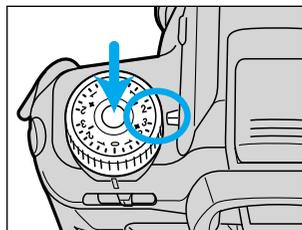
画面切り替えボタンで測光インジケータ画面を選択すると、ディスプレイ上に測光インジケータを表示させることができます。露出補正時のインジケータは、画面上半分に「 \pm 」として表示されます。

露出補正設定段数の切り替え

露出補正の設定段数は、撮影者の好みや被写体に応じて、1/2EVステップまたは1/3EVステップに切り替えることができます。



例：1/2EVステップ側から1/3EVステップ側に移動する場合



1. 露出補正ダイヤルを1/2EVステップ側の端(+3段または-3段)まで回します。
2. 露出補正ダイヤルロック解除ボタンを押しながら露出補正ダイヤルを回し、1/3EVステップ側の端(+2段または-2段)まで回します。

1/3EVステップ側から1/2EVステップ側に移動する場合も、上記の手順に沿ってください。

1/3EVステップ側を選ぶと、シャッター速度と絞り値、および測光インジケータに表示される値も1/3段刻みになります。同様に1/2EVステップ側を選ぶと、1/2段刻みになります。

レンズに記載されている最大/最小絞り値は、1/2EVステップによる値です。1/3EVステップに設定した場合、レンズによっては記載値通りの最大/最小絞り値が表示されないことがありますが、実際には記載されている最大/最小絞り値で制御されています。

全体が黒っぽいもの・白っぽいものを撮影する

カメラの光量測定の方法は反射光式です。これは、光源に照らされた被写体から反射してくる光の量(輝度)をカメラが測定し、その被写体がフィルム上で中庸な濃度(グレー18%)に写るように露出値を調整する方法です。したがって、反射率の高い白っぽい被写体でも、反射率の低い黒っぽい被写体でも、フィルム上では同じようなグレーに写ってしまいます。

画面全体が白っぽい(または黒っぽい)被写体を撮影する際には、意図的に露出補正(81ページ参照)をかける必要があります。Mモードの場合は、カメラの測光値よりも多少オーバー(アンダー)気味にして撮影します。

反射してくる光の量を測定する反射光式に対して、被写体を照明している光の量(照度)を測定する入射光式もあります。露出計を使うと、このような測定方法が可能です。入射光式だと露出が被写体の反射率に影響されませんので、白いもの・黒いものも、見た通りに再現することができます。露出計を使うときは、カメラをMモードにしてお使いください。

このカメラでは、高輝度側の露出制限値を設けています。すなわち、晴天の雪山等非常に明るいものを撮影する際には、露出オーバー側にしないで、白さがそのまま再現されます(14分割八二カムパターン測光時のみ)。



反射光式にて補正せずに撮影



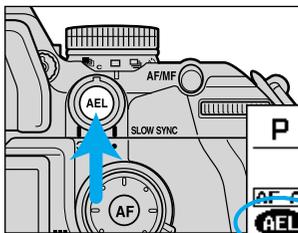
反射光式にてオーバー側に補正して撮影

AEロック撮影(露出の固定)

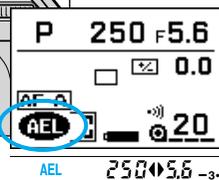
AEロックボタンを押すと、その時の露出値が固定されます。測光したいものとピントを合わせたいものが異なる場合や、露出を一定に保ったまま連続撮影したい場合などに使用します。



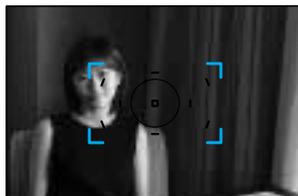
1. 測光したいものにピントを合わせます。



2. AEロックボタンを押します。



ディスプレイ上にAEL、ファインダー内にAELが点灯し、露出値が固定されたことをお知らせします。ファインダー内の測光インジケータについては、次ページをご覧ください。



3. AEロックボタンを押したまま、必要ならば構図を変えます。
4. AEロックボタンを押したまま、被写体にピントを合わせて撮影します。

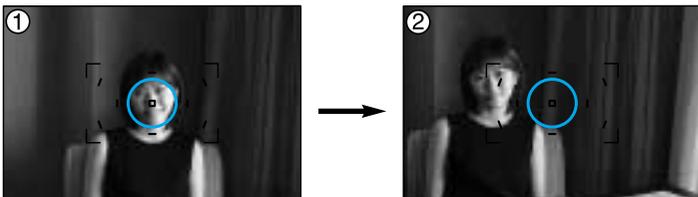
AEロック撮影(露出の固定)

撮影後、AEロックボタンから指を離すと、露出の固定は解除されます。撮影後もAEロックボタンを押し続けていると、同じ露出で連続して撮影できます。フラッシュが発光するときは、AEロックボタンを押しながら撮影すると、スロースシンクロ撮影になります(106ページ参照)
AEロックボタンから指を離しても露出が固定されたままになるように(押し続けなくてもいいように)、カメラの設定を変えることもできます(174ページ参照)。

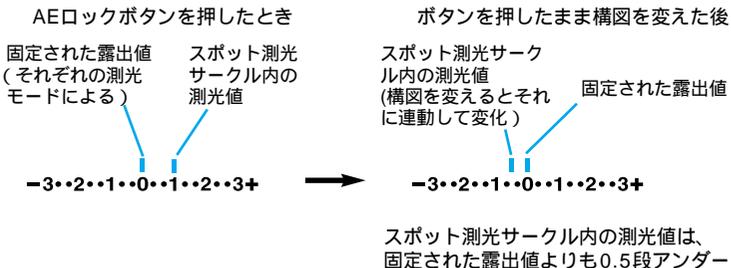
AEロックボタンを押したときの測光インジケータ

AEロックボタンを押して露出を固定すると、ファインダー内の測光インジケータに、固定された露出値を基準値(0)として、構図を変えた後のスポット測光サークル内の測光値の、基準値との差が表示されます。

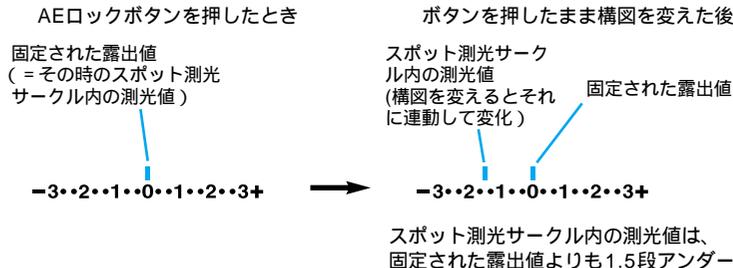
例：下の場面で、AEロックボタンを押しながら左の画面から右の画面に構図を変えた場合



14分割八ニカムパターン測光・中央重点的平均測光の場合

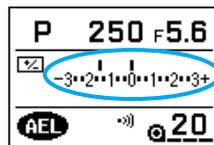


スポット測光の場合



露出補正ダイヤルが1/2EVステップになっていれば、測光インジケータも1/2段ごとに表示されます。露出補正ダイヤルが1/3EVステップであれば、測光インジケータも1/3段ごとに表示されます(83ページ参照)。

露出値の差が±3段を越えると、◀または▶が点滅します。



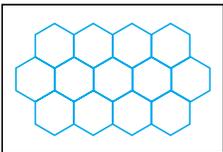
画面切り替えボタンで測光インジケータ画面を選択すると、ディスプレイ上に測光インジケータを表示させることができます。AEロックボタンを押した時のインジケータは、画面上半分に表示されます。

AEロックでの測光インジケータの便利な使い方

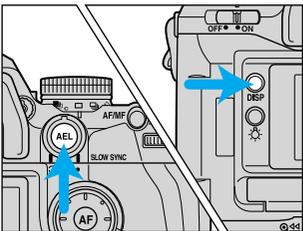
前ページの写真の場合、で露出を固定した後 に構図を変えると、の人物の顔の測光値と のカーテン部分の測光値の差がわかります。一般的にリバーサルフィルムの場合、オーバー側に+2.3段を越えると白くとび、アンダー側に-2.7段を越えると黒くつぶれるので、この場合はカーテンの部分はつぶれないことがわかります。このように撮影前に画面内の各部分の輝度差を確認することにより、写真の仕上がりを事前に予想することができます。

これらの数値はリバーサルフィルムでの一般的な目安であり、フィルムの特性によって異なります。

輝度分布表示



14分割ハニカムパターンの中の1つ1つの測光素子の値を表示させることができます。AEロックボタンによりロックされた値を基準値(0)として、各素子の基準値との差が表示されます。



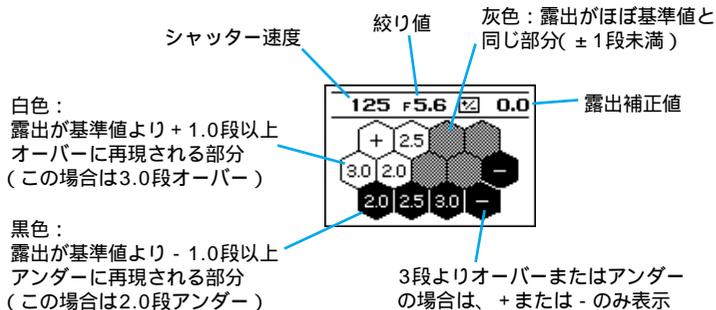
AEロックボタンを押しながら、画面切り替えボタンを押します。

輝度分布表示が現れます。

AEロックボタンは押し続けてください。画面切り替えボタンは一度押すと手を離すことができます。

AEロックボタンを押し続けながらもう一度画面切り替えボタンを押すと、輝度分布表示が消えて元のAEロック画面に戻ります。

ロックされた値を基準値(0)として、各測光素子の測光値が以下のように表されます。白色・黒色部分は数値も同時に表示されます。数値は露出補正ダイヤルで選んでいる段数 1/2EVステップか1/3EVステップか がそのまま適用されます。



画面上部には、シャッター速度・絞り値と同時に露出補正値も表示されます。露出補正ダイヤルを回して露出補正をかけると、それに応じて画面の値も変化します。

輝度分布表示は、フラッシュが発光しない場合の測光値を表示します。フラッシュ発光時には、発光しない場合と比べて全体がややアンダーになるように表示されることがあります。

ブラケット設定時には、ブラケットの基準値(0)の値が表示されます。

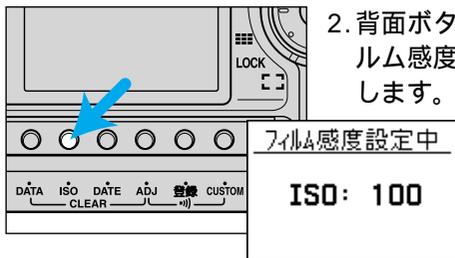
数値はあくまでも目安としてお使いください。

写真のどの部分がどのようにフィルム上で再現されるか、前もってイメージするのに便利です。

フィルム感度の設定と変更

DXコードの付いていないフィルムをお使いの場合は、以下の要領でパッケージなどに記載されているフィルム感度をカメラに設定してください。また、増感撮影など、意図的にフィルム感度を変更する場合も以下の要領で行ってください。

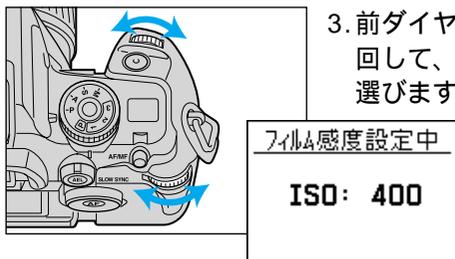
1. カメラにフィルムを入れます。



2. 背面ボタンカバーを開け、フィルム感度設定ボタン(ISO)を押します。

現在のフィルム感度がボディ表示部に表示されます。

3. 前ダイヤルまたは後ダイヤルを回して、希望のフィルム感度を選びます。



設定可能なフィルム感度の範囲は、ISO6 ~ 6400です。

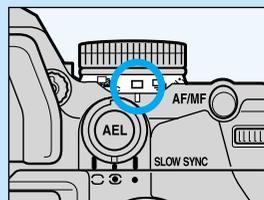
4. シャッターボタンを半押しします。

撮影中でもフィルム感度設定ボタンを押せば、現在のフィルム感度を確認できます。

変更したフィルム感度は、そのフィルム1本に限り有効です。カスタム設定により、フィルム感度を意図的に変更した場合、その後も同じ感度のフィルムを続けてカメラに入れたと同様の変更が自動的になされるように(変更した感度を記憶し続けるように)、カメラの設定を変えることもできます(169ページ参照)。

巻き上げ

連続撮影、ブラケット(露出ずらし)撮影、多重露光など、巻き上げモードレバーを使って撮影する機能について説明しています。



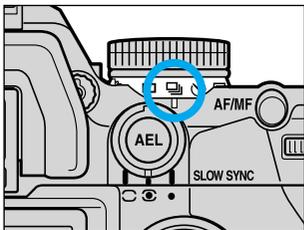
露出モードダイヤルを  (フルオートプログラム) にすると1コマ撮影  になります。

巻き上げモードレバーの上にある露出モードダイヤルロック解除ボタンを押している時は、レバーが回しにくくなっています。(露出モードを変更する際に間違えて巻き上げモードレバーと一緒に回さないようにするため)

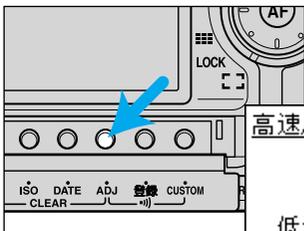
連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。高速撮影で毎秒約4コマ、低速撮影で毎秒約2コマの撮影ができます。

オートフォーカス時(AF-A、AF-C)は毎秒約3.7コマ

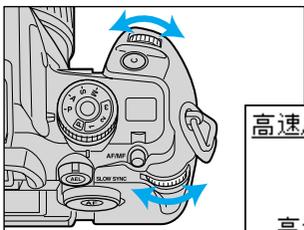


1. 巻き上げモードレバーを HI に合わせます。

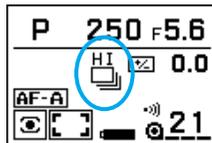


2. 背面ボタンカバーを開け、アダJUSTボタン(ADJ)を押します。

ディスプレイ上に高速・低速設定画面が現れます。



3. 前または後ダイヤルを回して、高速または低速撮影を選びます。



シャッターボタンを半押しすると、通常表示に戻ります。ディスプレイ上に、高速連続撮影の場合は HI とHI、低速連続撮影の場合は LO とLOが表示されます。

4. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

高速・低速の設定は、新たに設定し直すまで変わりません。常に高速(または低速)で撮影する場合は、巻き上げモードレバーを HI にするだけですぐ連続撮影ができます。

フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。AFモードをA(自動切り替え)またはC(コンティニユアス)にしている場合、シャッターボタンを押し続けている間は、被写体までの距離が変わったときはその度ピントを合わせ直します。ピントが合うまでシャッターは切れませんので、連続撮影の速さを優先したいときは、カメラをリリース優先(163ページ)またはマニュアルフォーカス(MF、50ページ)にしてください。

AFモードをS(ワンショット)にしている場合、シャッターボタンを押し続けている間はピントが固定されます。

低温や電池消費により電池の性能が低下していると、一時的に連続撮影速度が落ちたり、連続撮影が途中で止まったりすることがあります。しばらく使用を中断すると電池の性能が回復し、元に戻ることがあります。

連続撮影を解除するときは、巻き上げモードレバーを HI に合わせてください。AFズームXiレンズ、またはAFパワーズームレンズ使用時は、連続撮影中のズームはできません。

セルフタイマー撮影 / 簡易ミラーアップ機能

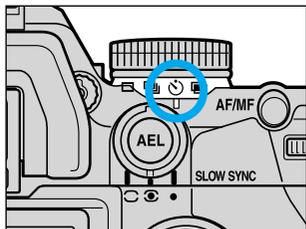
シャッターボタンを押してから10秒後、または2秒後に撮影されます。

10秒セルフタイマー

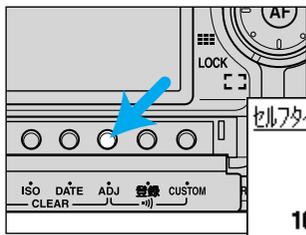
シャッターボタンを押してから10秒後に撮影されます。撮影者も一緒に写真に入るときに便利です。

簡易ミラーアップ機能(2秒セルフタイマー)

シャッターボタンを押した直後にミラーアップし、2秒後に撮影されます。撮影する瞬間のミラーアップの衝撃をなくし、よりカメラぶれの少ない写真を撮りたいときに便利です。

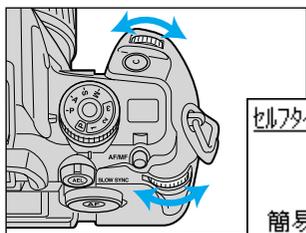


1. カメラを三脚などに固定します。
2. 巻き上げモードレバーを☺に合わせます。

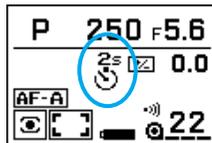


3. 背面ボタンカバーを開け、アダプタボタン(ADJ)を押します。

ディスプレイ上に10秒セルフタイマー・簡易ミラーアップ設定画面が現れます。



4. 前または後ダイヤルを回して、10秒セルフタイマーまたは簡易ミラーアップ機能を選択びます。



シャッターボタンを半押しすると、通常の表示に戻ります。ディスプレイ上に、10秒セルフタイマーの場合は☺と10s、簡易ミラーアップの場合は☺と2sが表示されます。

5. 構図を決めます。

6. ピントが合っているのを確認してから、シャッターボタンを押します。

10秒セルフタイマーのカウント中は電子音が鳴ります。音を鳴らさないようにすることもできます(136ページ参照)。

10秒セルフタイマー作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅し、撮影直前には素早い点滅になります。

簡易ミラーアップ中は、セルフタイマーランプは作動しません。

10秒、2秒の設定は、新たに設定し直すまで変わりません。常に10秒(または2秒)で撮影する場合は、巻き上げモードレバーを☺にするだけで、すぐセルフタイマー撮影ができます。

作動中の10秒セルフタイマーを止めるには、メインスイッチをLOCKにするか、巻き上げモードレバーを☺以外に回してください。簡易ミラーアップ機能を途中で止めることはできません。

セルフタイマー撮影を解除するときは、巻き上げモードレバーを□に合わせてください。

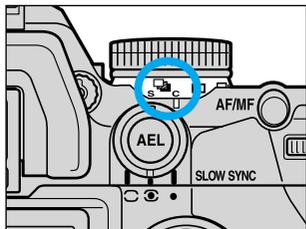
簡易ミラーアップ機能使用時に赤目軽減フラッシュ(104ページ)撮影を行っても、赤目軽減の効果を得ることはできません。

カメラの後ろに明るい光源や反射物などがあり、かつファインダーを覗かずにシャッターボタンを押す場合は、ファインダーから光が入って露出に影響するを防ぐため、ストラップに付いているアイピースキャップを付けてください(131ページ参照)。

ブラケット(露出ずらし)撮影

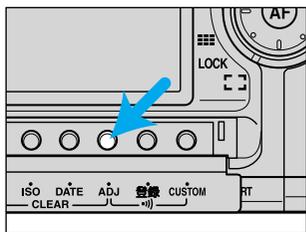
リバーサルフィルムを使うときなど厳密な露出を要求される撮影では、基準露出での撮影以外に、少し露出をずらして何枚か撮影することがあります。このカメラでは、それらの撮影が自動でできる機能を装備しています。

ネガフィルムではプリント時に補正されて効果が出にくいので、リバーサルフィルムの使用をおすすめします。

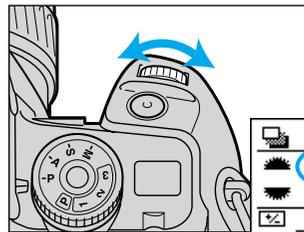
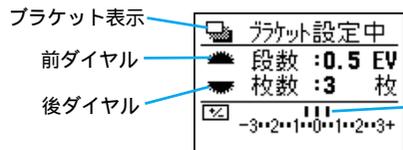


1. 巻き上げモードレバーを **S** または **C** に合わせます。

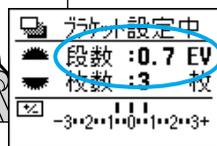
Sだと1コマ撮影になり、1コマずつシャッターボタンを押して撮影します。Cだと連続撮影になり、シャッターボタンを押し続けると連続して撮影されます。



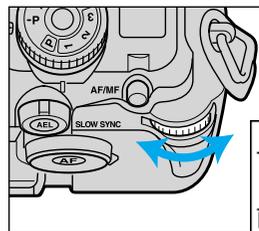
2. 背面ボタンカバーを開け、アジャストボタン(ADJ)を押します。ディスプレイ上にブラケット設定画面が現れます。ファインダー内の測光インジケータについては99ページをご覧ください。



3. 前ダイヤルを回して、ブラケット段数を選びます。



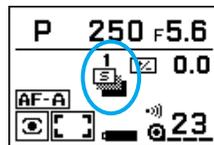
0.3段、0.5段、0.7段、1.0段の中から選択できます。



4. 後ダイヤルを回して、撮影枚数を選びます。



3、5、7枚の中から選択できます。



シャッターボタンを半押しすると、通常の表示に戻ります。ディスプレイ上に、S(1コマ撮影)の場合は が、C(連続撮影)の場合は が表示されます。

5. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

S(1コマ撮影)の場合は、1コマずつシャッターボタンを押します。

C(連続撮影)の場合は、設定した枚数の撮影が終わるまで、シャッターボタンから指を離さないでください。

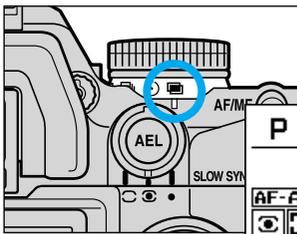
ブラケット撮影を解除するときは、巻き上げモードレバーを **□** に合わせてください。

次ページへ続く

多重露光



1コマのフィルムに続けて何度も露光することができます。

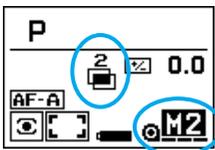


1. 巻き上げモードレバーを  に合わせます。

フィルムカウンターはM1になります。シャッターボタンを半押ししている間は通常のフィルムカウンターに戻ります。

この状態で撮影すると、フィルムは巻き上げられません。

2. シャッターボタンを押して撮影します。



フィルムカウンターはM2になります。

M2以降は通常のフィルムカウンターが反転となり、多重露光が設定されていることをお知らせします。撮影するごとに、フィルムカウンターの数字は順に増えていきます。M9以降は増えませんが、押した回数だけ多重露光撮影はできます。

 (多重露光アイコン) の上の数字も、撮影するごとに増えていきます。9以降は増えませんが、押した回数だけ多重露光撮影はできます。

3. 多重露光撮影を終えるときは、巻き上げモードレバーを  以外に合わせます。

フィルムが巻き上げられます。

多重露光撮影では、背景を暗めにするをおすすめします。また被写体の状況によっては、あらかじめアンダー側に露出補正しておく必要があります。

多重露光の途中でメインスイッチをOFFにすることもできます。フィルムは巻き上げられません。

日付写し込みを設定している場合は、最後に巻き上げたときの日付・時刻が写し込まれます。

ネガフィルムで多重露光撮影した場合は、その旨を店頭で申し出ないとプリントされないことがあります。

フィルムを何コマか逆送りして、いったん撮影したコマの上に新たに露光することもできます(フィルム指定コマ送り機能、167ページ参照)。

フラッシュ発光とフラッシュモードダイヤル

フラッシュ撮影

このカメラには、24mmレンズの画角をカバーするガイドナンバー12(ISO 100)の内蔵フラッシュが搭載されています。ここでは、内蔵フラッシュだけでなく、別売のプログラムフラッシュも含めた、フラッシュ撮影全般について説明しています。

DレンズおよびDフラッシュ(名称の最後に(D)の入っているもの)使用時は、ADI調光方式でフラッシュ調光が行われます。この調光方式は、14分割ハニカムパターン測光と同じくオートフォーカスと連動しているので、カメラが被写体の位置を的確に判断してフラッシュの発光量を決定します。さらにフラッシュのガイドナンバー制御も行なわれるため、背景の状況や被写体の反射率に左右されにくく、より正確なフラッシュ調光が可能となりました(詳しくは112ページ参照)。

ADIとはAdvanced Distance Integrationの略です。

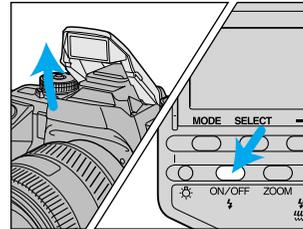


ADI調光



従来の
平均的な調光

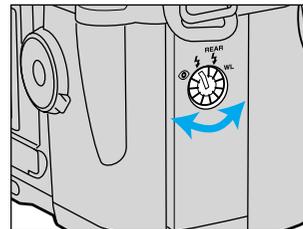
フラッシュ発光させるときは、内蔵フラッシュまたは別売のプログラムフラッシュを使用します。



内蔵フラッシュを使用する場合は、内蔵フラッシュを上げます。

プログラムフラッシュの場合は、フラッシュをカメラに取り付け、フラッシュの発光ON/OFF切り替えボタンを押します。

露出モードダイヤルを④(フルオートプログラム)にしているときは、フラッシュは必要時には自動的に発光します。ディスプレイ上には AUTO が現れます。露出モードダイヤルを④以外にしているときは、フラッシュは必ず発光します。ディスプレイ上には ⚡ が現れます。



フラッシュが発光する場合は、フラッシュモードダイヤルを回すと、以下の通りにフラッシュモードが変わります。

()内は参照ページです。

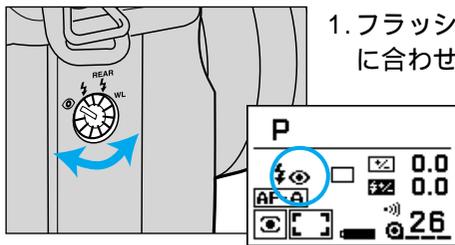
	内蔵フラッシュ	プログラムフラッシュ
👁️	赤目軽減フラッシュ(104)	通常発光
⚡	通常発光	通常発光
REAR ⚡	後幕シンクロ(105)	後幕シンクロ(105)
WL	ワイヤレスフラッシュ(116~121)*	通常発光

* WL(ワイヤレス)位置のまま内蔵フラッシュでワイヤレス以外の撮影を行なうと、適正露出が得られません。

赤目軽減フラッシュ撮影

赤目軽減フラッシュ撮影は、内蔵フラッシュのみで可能です。(プログラムフラッシュでは目が赤く写ることはほとんどありません。)

暗いところで人物を内蔵フラッシュで撮影すると、フラッシュの光が目の中で反射して、目が赤く写ることがあります。撮影の直前に小光量のフラッシュを何回か発光させると、この現象をやわらげることができます。



1. フラッシュモードダイヤルを👁️に合わせます。

ディスプレイ上に👁️が表示されます。

2. シャッターボタンを押して撮影します。

フラッシュの本発光の前に数回、小光量の発光が行われます。人物撮影のときは、写される人にその旨を伝えておくことをおすすめします。

簡易ミラーアップ機能(94ページ)設定時には、赤目軽減の効果を得ることはできません。

後幕シンクロ撮影



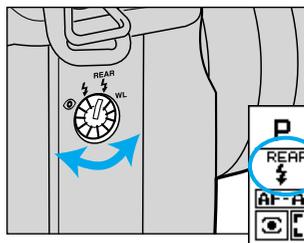
後幕シンクロ撮影



通常のフラッシュ撮影

通常フラッシュは、シャッターの第一幕(先幕)の走行直後に発光します。フラッシュ発光後に定常光による露光が行われるため、長秒時のフラッシュ撮影では、光の流れなどが不自然に写ることがあります。

後幕シンクロでは、シャッターの後幕(第二幕)走行直前にフラッシュを発光させます。動いている被写体を低速シャッター速度でフラッシュ撮影するとき用いると、光の流れや被写体の軌跡をより自然に描写できます。



1. フラッシュモードダイヤルをREAR👁️に合わせます。

ディスプレイ上にREAR👁️が表示されます。

2. シャッターボタンを押して撮影します。

後幕シンクロ撮影は、低速シャッターで動きのある被写体を撮影する場合に効果を発揮します。シャッター速度が1/60秒より高速の場合、効果がほとんど得られませんので、後幕シンクロに設定していても通常のフラッシュ制御になります。赤目軽減フラッシュ撮影、ワイヤレスフラッシュ撮影との併用はできません。

スローシンクロ撮影(夜景を背景にしたフラッシュ撮影)

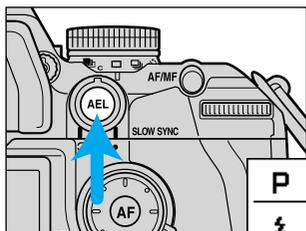


スローシンクロ撮影

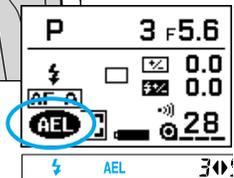


通常のフラッシュ撮影

夜景を背景にして記念撮影する場合、通常のフラッシュ撮影では手前の人物はきれいに写し出されますが、フラッシュの届かない背景は黒くつぶれてしまいます。このような場合、スローシンクロ撮影(シャッター速度の遅いフラッシュ撮影)をすると、人物も背景もきれいに撮ることができます。



内蔵フラッシュを上げて(またはプログラムフラッシュをONにして)、AEロックボタンを押しながら撮影します。



ディスプレイ上に **AEL**、ファインダー内に **AEL** が点灯します。

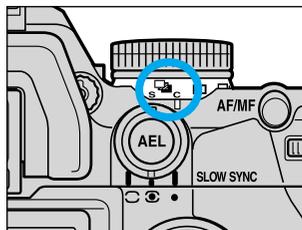
シャッター速度が遅くなりますので、三脚の使用をおすすめします。
フラッシュが発光しないときにAEロックボタンを押しながら撮影すると、露出が固定されます(AEロック撮影、85ページ参照)。
S・Mモードでは、AEロックボタンによるスローシンクロ撮影はできません。
AEロックボタンから指を離してもスローシンクロ撮影のままになるように(押し続けなくてもいいように) カメラの設定を変えることもできます(174ページ参照)。

フラッシュブラケット撮影

フラッシュを使わないブラケット(露出ずらし)撮影では、シャッター速度と絞り値を変えて露出ずらしを行ないますが、フラッシュブラケット撮影では、フラッシュの光量を変化させて露出ずらしを行ないます。フラッシュ光の届かない背景の露出はそのままで、フラッシュ光の届く主被写体だけのブラケット撮影ができます。

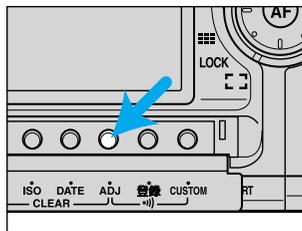
ネガフィルムではプリント時に補正されて効果が出にくいので、リバーサルフィルムの使用をおすすめします。

1. 内蔵フラッシュを上げます(またはプログラムフラッシュの電源をONにします)。

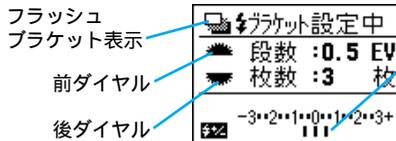


2. 巻き上げモードレバーを **S** または **C** に合わせます。

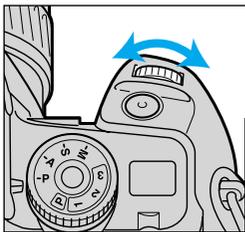
どちらを選んでも、1コマずつシャッターボタンを押して撮影します。フラッシュの充電時間が必要なため、連続撮影にはできません。



3. 背面ボタンカバーを開け、アジャストボタン(ADJ)を押します。ディスプレイ上にブラケット設定画面が現れます。



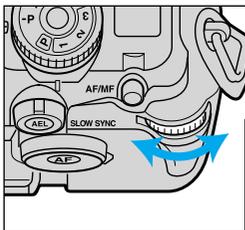
測光インジケーター
現在の設定段数・枚数を表します。フラッシュブラケットの場合は指標が下側に現れます。



4. 前ダイヤルを回して、ブラケット
ト段数を選びます。



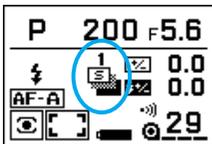
0.3段、0.5段、0.7段、
1.0段の中から選択できま
す。



5. 後ダイヤルを回して、撮影枚数
を選びます。



3、5、7枚の中から選択で
きます。



シャッターボタンを半押しすると、通常の表示に戻り
ます。ディスプレイ上に $\frac{1}{200}$ または $\frac{1}{200}$ が表示されます。

6. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

1コマ目の撮影が終わると、ディスプレイ上の $\frac{1}{200}$ または $\frac{1}{200}$ の上の数字とファ
インダー内の数字が2になります。一連のフラッシュブラケット撮影が終わる
まで、3、4・・・と増えて行きます。1コマずつシャッターボタンを押して撮影
してください。

ブラケット撮影を解除するとき、巻き上げモードレバーを \square に合わせてくだ
さい。

撮影順序

撮影の順序は以下の通りです。

(例：フラッシュブラケット段数0.5段、撮影枚数5枚の場合)

±0段 - 0.5段 + 0.5段 - 1.0段 + 1.0段

- から + へ順に撮影する(上記の場合、- 1.0段 - 0.5段 ±0段 + 0.5
段 + 1.0段)こともできます(175ページ参照)

その他

フラッシュブラケット撮影の途中でフィルムを入れ換えても、続きから撮影がで
きます。

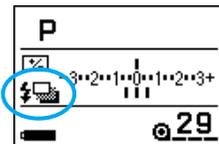
フラッシュブラケット撮影を途中で中断する場合は、巻き上げモードレバーを動
かすか、メインスイッチをOFFにしてください。

フラッシュを使わないブラケット撮影については、96ページをご覧ください。

露出補正(81ページ)またはフラッシュ調光補正(110ページ)をかけると、基準
となる露出値もそれに応じて変わります。

一連のブラケット撮影が終わる前に内蔵フラッシュを下げると、ブラケットは1
コマ目に戻ります。プログラムフラッシュの場合はOFFにすると、フラッシュな
しのブラケット撮影に切り替わります。

特に内蔵フラッシュでフラッシュブラケット撮影を行なう場合、フラッシュのガ
イドナンバーが限られているため、撮影距離によってはオーバー側の効果が出な
いことがあります。

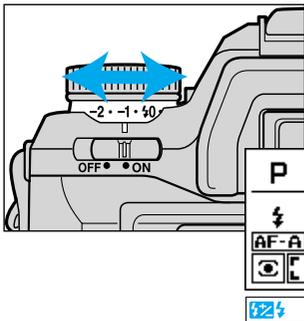


画面切り替えボタンで測光インジケータ画面を選択
すると、ディスプレイ上に測光インジケータを表示
させることができます。フラッシュブラケット撮影時
のインジケータは、画面下半分に $\frac{1}{200}$ として表示さ
れます。

フラッシュ調光補正

フラッシュ撮影の際、露出補正とは別に、フラッシュの光量だけを補正することができます(フラッシュ調光補正)。フラッシュ光の届かない背景の露出はそのままで、フラッシュ光が届く主被写体だけの露出を変えることができます。

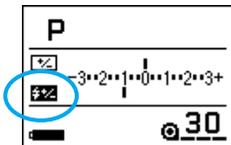
ネガフィルムではプリント時に補正されて効果が出にくいので、リバーサルフィルムの使用をおすすめします。



フラッシュ調光補正ダイヤルを、希望の補正量の位置まで回します。調光補正は1/2段ステップ、補正範囲は±2段までです。

ディスプレイ上に設定した調光補正量が表示されます。ファインダー内には「

フラッシュ調光補正を解除するときは、ダイヤルを0.0位置に戻してください。TTL調光ではないマニュアルフラッシュ撮影の場合は、調光補正值に関係なく、フラッシュ側で設定された光量で発光します。フラッシュ光も定常光も含めた画面全体の露出レベルを補正するときは、露出補正を行ってください(81ページ参照)。このときフラッシュ調光補正も設定していると、フラッシュ光に対しては二重に補正がかかることになります。特に内蔵フラッシュでフラッシュ調光補正を行なう場合、フラッシュのガイドナンバーが限られているため、撮影距離によってはオーバー側の効果が出ないことがあります。



画面切り替えボタンで測光インジケータ画面を選択すると、ディスプレイ上に測光インジケータを表示させることができます。フラッシュ調光補正時のインジケータは、画面下半分に

露出補正とフラッシュ調光補正の違い

露出補正(フラッシュが発光しない場合)
シャッター速度と絞り値が変化して補正を行いません。

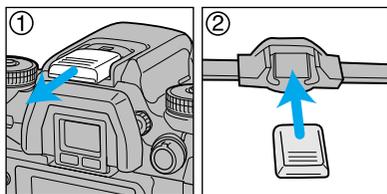
露出補正(フラッシュが発光する場合)
シャッター速度、絞り値、フラッシュ発光量が変化して補正を行いません。

フラッシュ調光補正
フラッシュ発光量のみが変化して補正を行いません。シャッター速度と絞り値は変化しません。写真全体の仕上がりに対するフラッシュ光の影響を相対的にコントロールすることができます。例えばフラッシュ光を少なめに上げたいときはフラッシュ調光補正をややアンダーに設定しておき、同時にオーバー側に露出補正をかけて全体の明るさを調整する、といった使い方ができます。

露出補正については81ページをご覧ください。
露出補正の場合、より厳密に言えば、Pモードではシャッター速度と絞り値の両方、Aモードではシャッター速度、Sモードでは絞り値が変化して補正を行いません。
カスタム設定により、の場合にフラッシュ調光(フラッシュ発光量)を一定にしたままにすることもできます(190ページ参照)。

プログラムフラッシュ・フラッシュ調光方式

内蔵フラッシュでは光が届かないような距離でも、プログラムフラッシュ 5600HS(D)等の外部フラッシュを用いれば、より遠くにまでフラッシュ光を届けることができます。



フラッシュを取り付ける場合は、アクセサリースューキャップを外してください。外したキャップは、ストラップに付いているアイピースキャップに収納することができます。

フラッシュ表示は内蔵フラッシュと同じです。フラッシュ光の届く範囲については、フラッシュの使用説明書をご覧ください。5600HS(D)、5400HS、5400xiをお使いの場合は、フラッシュ背面に表示される距離内で撮影してください。

フラッシュ調光方式について

フラッシュ調光方式は、使用レンズ・使用フラッシュによって異なります。

	Dレンズ	その他のレンズ
5600HS(D) 3600HS(D)	ADI 4分割調光 (HSS機能ON、プリ発光あり)	DI 4分割調光 (HSS機能ON、プリ発光あり)
5400HS	DI 4分割調光 (HSS機能ON、プリ発光あり)	DI 4分割調光 (HSS機能ON、プリ発光あり)
その他の プログラムフラッシュ	TTL調光	TTL調光
内蔵フラッシュ	ADI 4分割調光 (プリ発光なし)	TTL調光

シャッター速度がフラッシュ同調速度(1/200秒)を越える場合は、ハイスピードシンクロTTL調光となります。ワイヤレスフラッシュの場合はワイヤレスTTL調光となります。

ハイスピードシンクロ(HSS)撮影が可能なプログラムフラッシュ使用時は、HSS機能をONにしているとプリ発光が行われ、ADI・DI調光が行われず(表中■)。Dレンズ使用時は、内蔵フラッシュでもADI調光(プリ発光なし)が行われます(表中□)。

ハイスピードシンクロ機能解除時(フラッシュ背面のHSSマークが消えている状態)、バウンス撮影時、およびオフカメラケーブルを使用時には、ADI・DI調光でなくTTL4分割調光になります。後幕シンクロ撮影、簡易ミラーアップ機能選択時には、TTL平均調光となります。

フラッシュメーターやカラーメーターを使用する場合

プリ発光が行われると正確な測定ができません。表中■で実際に撮影して測光する場合は、ハイスピードシンクロを解除するか、カスタム設定にてADI・DI調光を解除してください。フラッシュのテスト発光ボタンで測光、マニュアルフラッシュ発光する場合は問題ありません。

一部のフィルターやレンズ等を使用する場合

クローズアップディフューザーCD-1000、露出倍数のかかるフィルター(ND等)、クローズアップレンズ、Dレンズでないマクロレンズのフォーカスレンジ切り替えノブ、一部のレンズに装備しているマクロ切り替えレバー使用時は、ADI・DI調光では適正露出を得ることができません。表中■の場合は、ハイスピードシンクロを解除するか、カスタム設定にてADI・DI調光を解除してください。表中□の場合は、カスタム設定にてADI・DI調光を解除してください。

ハイスピードシンクロの解除はフラッシュ側で行なうのでフラッシュの使用説明書を、カスタム設定でのADI・DI調光の解除は182ページをご覧ください。

フラッシュ調光方式

- TTL調光** カメラが自動的に発光量を決めます。
- DI調光** TTL調光を発展させたもので、撮影の直前にフラッシュを一度発光させ(プリ発光)その反射光を1/4分割ハニカムパターン素子で測光して調光演算に反映させます。
- ADI調光** TTL調光をさらに発展させたもので、DI調光に加えてフラッシュのガイドナンバー制御も行います。被写体の反射率にほとんど影響されることなく、より正確に適正露出を得ることができます。

ハイスピードシンクロ(HSS)撮影

ハイスピードシンクロ(HSS)撮影には、別売のプログラムフラッシュ5600HS(D)、3600HS(D)、5400HSのいずれかが必要です。

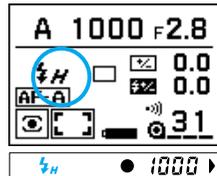


ハイスピードシンクロ撮影



通常のフラッシュ撮影

別売のプログラムフラッシュ5600HS(D)、3600HS(D)または5400HSをこのカメラに取り付けて、フラッシュの液晶表示部にHSSが表示されている状態にすると、フラッシュ同調シャッター速度の制限がなくなり、カメラの持つシャッター速度全域(30秒~1/8000秒)でフラッシュ撮影ができるようになります。その結果、絞り値の選択幅が広がりますので、フラッシュを使った撮影でも絞りを開けて背景をぼかし、人物が浮き上がって見えるポートレートらしい写真を撮ることができます。またAモードやMモードで開放側の絞り値でフラッシュ撮影をするとき、背景が非常に明るくて通常は露出オーバーとなるようなシーンでも、高速シャッターを使って適正露出にすることができます。



ハイスピードシンクロ撮影となるとき(シャッター速度が1/200秒より高速になる場合は、ディスプレイ上とファインダー内にHが点灯します。

ハイスピードシンクロ撮影となるときは、通常のフラッシュ撮影よりも調光距離の範囲が短くなります。撮影前に、被写体がフラッシュの表示部に表示されている距離の範囲内にあるかどうか確認してください。

簡易ミラーアップ機能・後幕シンクロ選択時には、1/200秒より高速のシャッター速度にはなりません。

フラッシュメーターやカラーメーターを使用する場合は、適正露出が得られないためハイスピードシンクロ撮影はできません。ハイスピードシンクロを解除する(フラッシュの液晶表示部にHSSが表示されていない状態にする)か、1/200秒以下のシャッター速度を選んでください。

ワイヤレスフラッシュ撮影

ワイヤレスフラッシュ撮影には、別売のプログラムフラッシュ 5600HS(D)、3600HS(D)、5400HS、5400xi、3500xi のいずれかが必要です。



① フラッシュをカメラに取り付けて撮影

フラッシュをカメラの上に取り付けて撮影すると、写真のように平面的な写真になることがあります。このようなとき、フラッシュをカメラから取り外して撮影すると、フラッシュの位置を工夫することで、陰影を付けて立体感を出すことができます(写真)

写真は、カメラの内蔵フラッシュとカメラから離れたプログラムフラッシュの光量を、1:2の割合で発光させたものです。明暗差が柔らかくなり、自然な陰影を付けることができます。

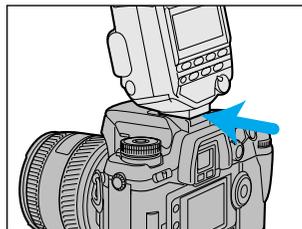


② ワイヤレスフラッシュ撮影 (標準)

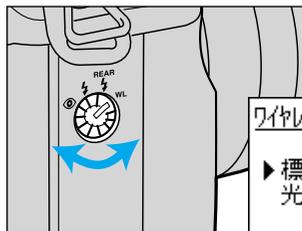
一眼レフカメラでこのような撮影をするときには、カメラとフラッシュをコードで接続しなければならないことが多いのですが、このカメラでは、コードがなくてもこのような撮影ができます。これは、カメラとフラッシュの信号の伝達をコードではなく、フラッシュの光を利用して行なうことができるからです。この撮影をワイヤレス(=コードのない)フラッシュ撮影といいます。もちろん露出はカメラが自動で適正露出になるよう制御します。



③ ワイヤレスフラッシュ撮影 (光量比制御)



1. フラッシュをカメラに取り付け、フラッシュとカメラの電源をONにします。

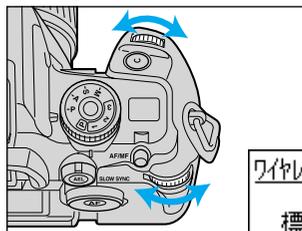


2. フラッシュモードダイヤルをWLの位置に合わせます。

ワイヤレスフラッシュ設定中

▶ 標準
光量比制御

ディスプレイ上にワイヤレスフラッシュ設定画面が表示されます。



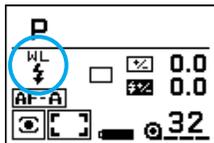
3. 前ダイヤルまたは後ダイヤルを回して、標準のワイヤレスフラッシュ撮影か光量比制御撮影かを選びます。

ワイヤレスフラッシュ設定中

標準
▶ 光量比制御

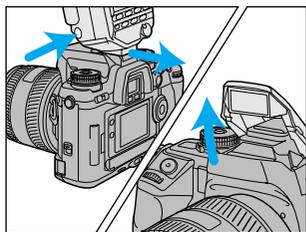
標準ワイヤレス：プログラムフラッシュだけで被写体が照らされます。内蔵フラッシュは信号光としてのみ発光します。

光量比制御撮影：プログラムフラッシュが2、カメラの内蔵フラッシュが1の割合で発光します。逆はできません。



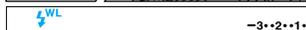
4. シャッターボタンを半押しします。

通常の表示に戻ります。ディスプレイ上にWLが表示され、ワイヤレスフラッシュに設定されていることをお知らせします。



5. フラッシュをカメラから取り外し、カメラの内蔵フラッシュを上げます。

ファインダー内にはWLが表示されます。



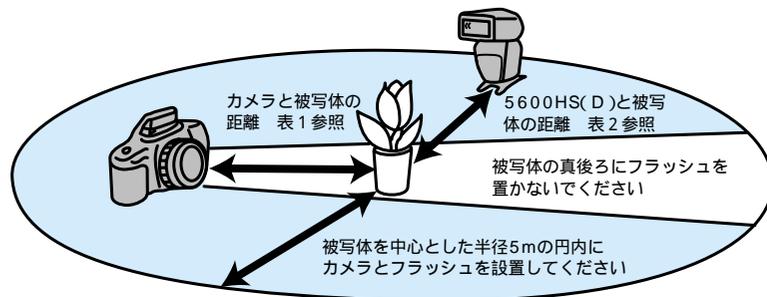
6. カメラとフラッシュの位置を決めます。

このカメラは内蔵フラッシュの発光を信号として、カメラから離れたプログラムフラッシュを発光させます。信号が正しく受け取れるよう以下のことに気を付けてください。

室内など暗いところで撮影してください。

下図の青色の部分にフラッシュを設置してください。フラッシュと被写体の距離(表2)については、例として5600HS(D)を使用した場合の代表的な距離を記載しています。詳しい距離情報については、それぞれのフラッシュの使用説明書をご覧ください。

3500xiをお使いの場合は、裏面記載のフォトサポートセンターにお問い合わせください。



カメラとフラッシュを別々にワイヤレスに設定する方法

上記の設定方法では、カメラとフラッシュの両方をワイヤレス設定にすることでなく、フラッシュのチャンネル情報も同時にカメラ側に伝えます。チャンネル設定を変えずに同一カメラとフラッシュを使い続ける場合、次からは以下の方法でカメラとフラッシュを別々にワイヤレスに設定することも可能です。

カメラ側： フラッシュモードダイヤルをWLの位置にする。

フラッシュ側： 5600HS(D)： モードボタンで[TTL]または[M]を表示させた後、セレクトボタンで[WL]を点滅、+または-ボタンで[WL On]を選択、セレクトボタンで確定。

3600HS(D)： ワイヤレスフラッシュボタンを押して、WL CH1またはCH2のランプを点灯させる。

5400HS： 発光モード切り替えボタン(MODE)を押す。

5400xi： 通常メニューでWIRELESSボタンを押す。

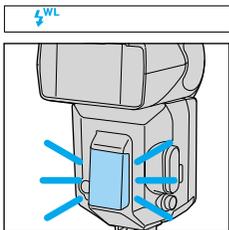
3500xi： いったんOFFにした後、ワイヤレスフラッシュランプが点灯するまで発光ON/OFF切り替えボタンを押し続ける。

同様の方法でワイヤレスフラッシュの解除も可能です。

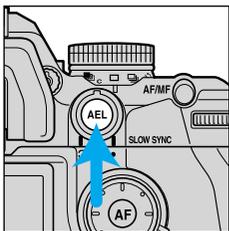
	カメラと被写体の距離(表1)	5600HS(D)と被写体の距離(表2)			
		HSSでない撮影		HSS撮影	
シャッター速度 絞り値	全シャッター速度	1/60秒以下	1/60~1/200秒	1/250秒	1/1000秒
2.8	1.4 - 5 m	1.4 - 5 m	1 - 5 m	1 - 5 m	1 - 2.5 m
4	1 - 5 m	1 - 5 m	1 - 5 m	1 - 3.5 m	1 - 1.7 m
5.6	1 - 5 m	1 - 5 m	1 - 5 m	1 - 2.5 m	1 - 1.2 m

表の値はISO 100のフィルム使用時です。ISO 400の場合は、上記の値の2倍の距離になります(上限は5mです)。

HSSはDフラッシュのみで可能です。



7. カメラの内蔵フラッシュとプログラムフラッシュの充電完了を確認します。
内蔵フラッシュは、ファインダー内の⚡が点灯すると充電完了です。
プログラムフラッシュは、背面の⚡が点灯し、前面のAF補助光が点滅すると充電完了です。



8. カメラのAEロックボタンを押して、カメラから離れたフラッシュが発光することを確認します(テスト発光)。
発光しない場合は、フラッシュや被写体の位置を変えてみてください。
9. もう一度両方のフラッシュの充電完了を確認し、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

Dフラッシュ(5600HS(D)等)で標準のワイヤレス撮影を行なう場合、ハイスピードシンクロ(HSS)撮影が可能なので、シャッター速度の制限はありません。光量比制御撮影時、またはDフラッシュでないフラッシュ使用時は、シャッター速度は1/60秒またはそれ以下になります。

ワイヤレス撮影で2台以上のフラッシュを発光させることもできます。Dフラッシュとそれ以外のフラッシュを同時に発光させる場合、Dフラッシュでないフラッシュをカメラに取り付けてワイヤレス設定にしてください。Dフラッシュを取り付けて設定すると、Dフラッシュでない方が発光しないことがあります。

標準ワイヤレスと光量比制御撮影を切り替える場合

1. フラッシュモードダイヤルをいったんWL以外の位置にして、再びWLに戻します(フラッシュをカメラに取り付ける必要はありません)。
2. 標準・光量比制御撮影の設定画面が現れるので、前ダイヤルまたは後ダイヤルでどちらかを選びます。

ワイヤレスフラッシュの解除

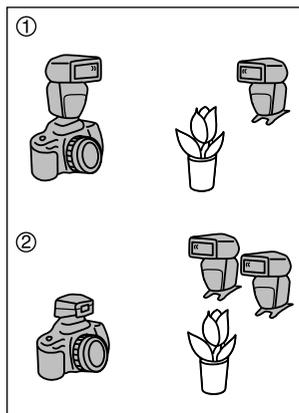
1. フラッシュをカメラに取り付け、フラッシュとカメラの電源をONにします。
2. フラッシュモードダイヤルをWL以外の位置に合わせます。

カスタム設定でAEロックボタンの操作方法を変更した場合

カスタム設定で、AEロックボタンから指を離してもその機能が残るよう設定を変更しているとき(174ページ)は、元の設定(設定番号1)に戻すことをおすすめします。

設定番号2の状態では、ディスプレイ上とファインダー内にAELが点灯している間はスローシンクロ撮影になります。また、テスト発光のたびに、スローシンクロ撮影とそうでない状態とが切り替わります。

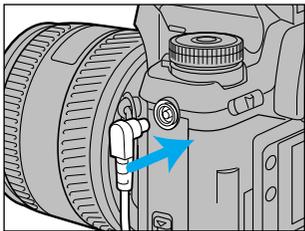
その他のワイヤレスフラッシュ撮影



内蔵フラッシュの代わりに、以下の撮影もできます。詳しくは、フラッシュの使用説明書をご覧ください。

- プログラムフラッシュ5600HS(D)、5400HSまたは5400xiをカメラに取り付けるワイヤレスフラッシュ撮影(2台のプログラムフラッシュが必要)
- 別売りのワイヤレスフラッシュリモコンをカメラに取り付けるワイヤレスフラッシュ撮影(カメラから離れた2台以上のフラッシュを発光させることができる)

シンクローターミナル



このカメラにはシンクローターミナルが付いているので、シンクローコード付きフラッシュを使った撮影が可能です。シンクローターミナルを使ってフラッシュ撮影をする場合には、以下の設定にしてください。

露出モードはMモードにする
シャッター速度は1/200秒以下(低速側)にする

シンクローコードをシンクローターミナルに接続するときは、シンクローコードにつながれたフラッシュの電源をOFFにしてください。ONのままだと、コードを接続した瞬間にフラッシュが発光することがあります。

フラッシュは、常にフル発光になります。よって、フラッシュ調光補正(110ページ)はできません。ブラケット撮影は、AEロックボタンを押しながら撮影(絞り値が変化する、98ページ参照)すれば可能です。

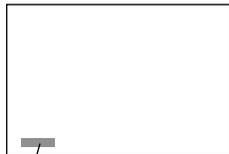
フラッシュのシンクロ端子の極性が逆のタイプでも使用可能です。

シンクローターミナル使用時は後幕シンクロ撮影はできません(通常発光となります)。

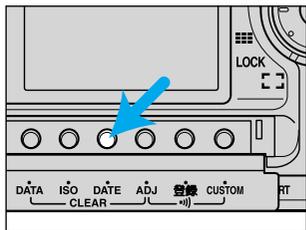
その他の機能

日付・時刻を写し込むには

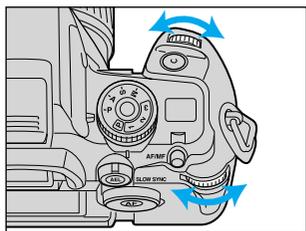
撮影時の日付や時刻を写し込むことができます。日付・時刻は写真の左下に写し込まれます。



おおよその写し込み位置

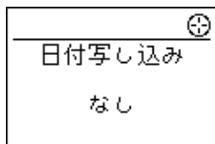


1. 背面ボタンカバーを開け、日付・時刻写し込みボタン(DATE)を押します。

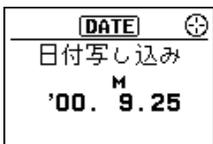


2. 前または後ダイヤルを回して、写し込みたい表示を選びます。

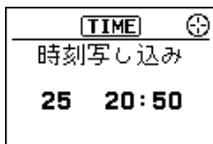
ダイヤルを回すたびに、以下の順にディスプレイが切り替わります。月表示の上にはMの文字が現れます。



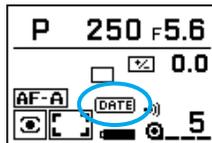
写し込みなし



日付の写し込み



時刻の写し込み



シャッターボタンを半押しすると、通常の表示に戻ります。ディスプレイ上に **DATE** または **TIME** が表示され、日付または時刻が写し込まれることをお知らせします。

写し込み位置に明るい色(空や白い壁)などがあると、写し込んだ文字が読みにくくなる場合があります。

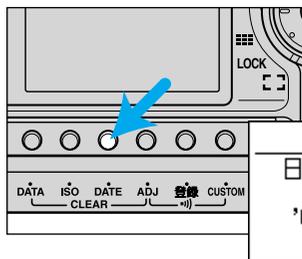
カスタム設定により、写し込み文字の濃度を調節することができます(194ページ参照)。

フィルムの最後のコマでは、写し込み文字が重なったり写し込まれなかったりすることがあります。

前後ダイヤルの代わりにダイレクトフォーカスフレームセクターで、写し込みなし 日付写し込み 時刻写し込みを切り替えることもできます。

日付・時刻の修正

このカメラには2039年までの日付が記憶されています。撮影のたびに数値を設定する必要はありません。数値の修正が必要な場合は以下の手順で行ってください。

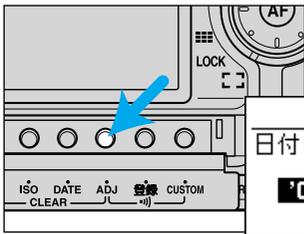


1. 背面ボタンカバーを開け、日付・時刻写し込みボタン(DATE)を押します。

ディスプレイ上に日付写し込み画面が現れます。どの画面からでも修正することができます。

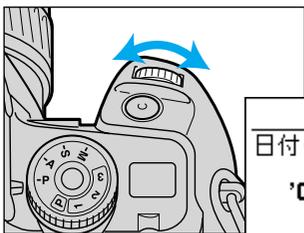
次ページへ続く

日付・時刻を写し込むには

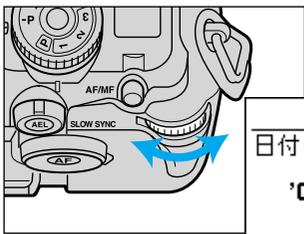


2. 背面ボタンカバー内のアジャストボタン (ADJ)を押します。

日付・時刻修正画面が現れ、年の部分が反転します。



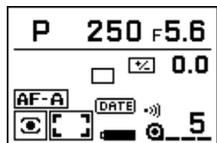
3. 前ダイヤルを回して、修正したい数値を反転させます。



4. 後ダイヤルを回して、反転している数値を修正します。

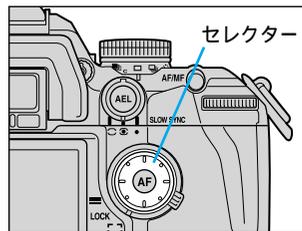
5. 上記3と4の操作を繰り返して、必要な修正を行ないます。

6. シャッターボタンを半押しします。通常の表示に戻ります。



画面右上に☉が表示されているときは、前後ダイヤルやアジャストボタンの代わりに、セレクター(ダイレクトフォーカスフレームセレクター)と中央ボタン(スポットAFボタン)での操作も可能です。

AFワイド/ローカル切り替えレバーがLOCK位置にあるときには操作できません。



セレクターを左右方向へ押せば、数値の反転部分が変わります。



セレクターを上下方向へ押せば、数値が変更されます。

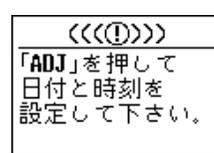


前ページの2で、アジャストボタンの代わりに中央ボタンを押して修正画面を選ぶこともできます。

シャッターボタンを半押しするか中央ボタンを押すと、設定が終了して通常の表示に戻ります。

カメラの電池を長期間抜いていた場合(日付のバックアップ)

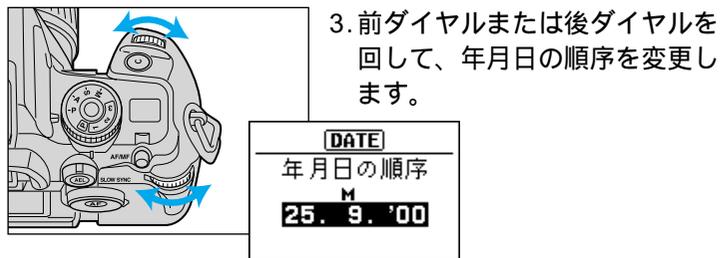
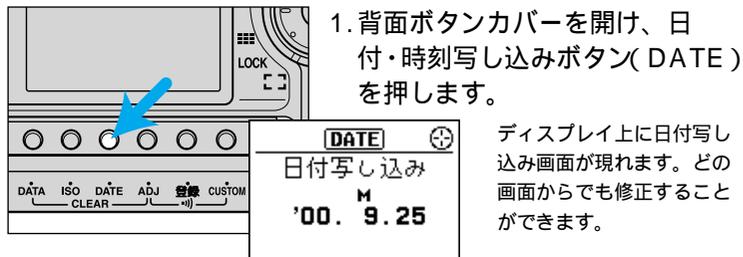
カメラに電池を入れておく(メインスイッチはOFFでもよい)、日付・時刻を保持しておくための内蔵バッテリーが充電されるので、電池を交換しても日付・時刻の設定は変わりません。ただし長期間電池を抜いたままにしておくと日付・時刻の設定が失われます(2日間の充電で2~6ヶ月間記憶されるのを目安と考えてください)、設定が失われると、メインスイッチをONにするたび



に、ディスプレイ上に左の表示が現れますので、日付・時刻を設定し直してください。アジャストボタンを押すと126ページの2の状態になります。このまま撮影しても、日付・時刻表示は写し込まれません。

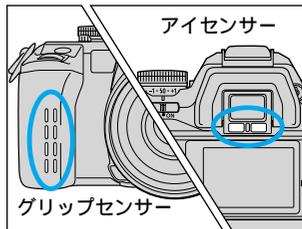
年月日の並び替え

「年月日」の順序を変えることができます。変更した並び順は、電池を交換しても変わりません。



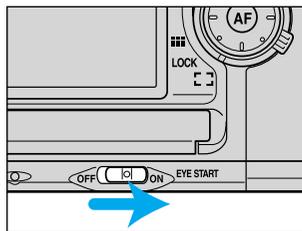
4. 修正が終わったら、シャッターボタンを半押しします。
通常表示に戻ります。

アイスタート



このカメラは、構えるだけで撮影準備が整うアイスタート機能を搭載しています。アイスタートスイッチをONにしている場合、メインスイッチをONにすると、まずグリップセンサーのスイッチが入ります。撮影者がグリップを握ったことをグリップセンサーが検知すれば、次にアイセンサーのスイッチが入ります。撮影者がファインダーをのぞくと (アイセンサーに何かが近づく)、カメラを構えたことが検知され、自動的にピント合わせと露出の決定が行われます。

アイスタートの作動



ボディ背面のアイスタートスイッチをONまたはOFFにします。

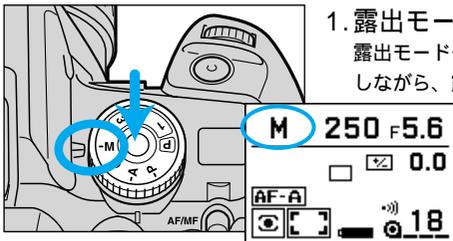
アイスタートを解除するときは、アイスタートスイッチをOFFにしてください。カメラを三脚に取り付けている等グリップから指が離れているときや、グリップセンサーに触っていても手袋をしているときは、アイスタートは作動しません。またサングラスをかけていたり、手が乾燥していると作動しにくくなる場合があります。このような場合はシャッターボタンを半押ししてください。グリップセンサーに触らなくてもアイスタートが作動するように、カメラの設定を変更することができます (171ページ参照)

長時間露光(バルブ撮影)

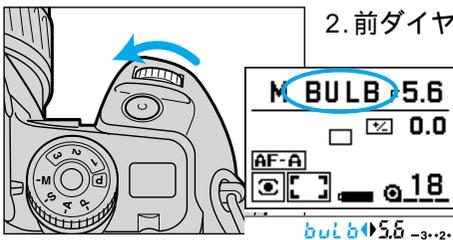


シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになります。長時間の露光が必要なときに使用します。

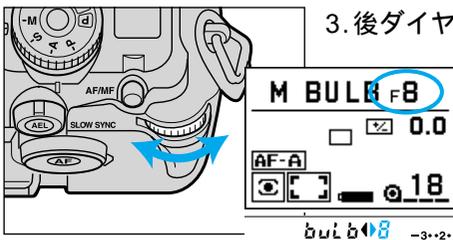
バルブ撮影のときは、カメラを三脚に取り付けて撮影してください。



1. 露出モードをMモードにします。
露出モードダイヤルロック解除ボタンを押しながら、露出モードダイヤルをMに合わせます。

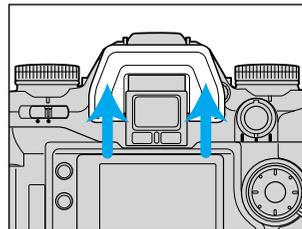


2. 前ダイヤルを左(低速側)へ回して、「BULB」を選びます。

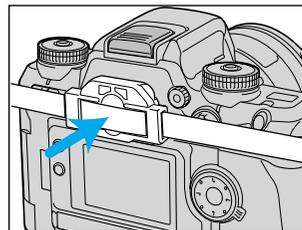


3. 後ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

4. 構図を決めます。

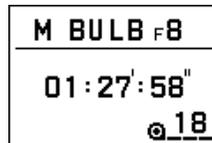


5. アイピースカップを取り外します。



6. ストラップに付いているアイピースカップを取り付けます。
ファインダーにカップを当て、そのまま押し付けます。
ファインダーから光が入って露出に影響するのを防ぐためです。

7. 必要な時間、シャッターボタンを押し続けます。

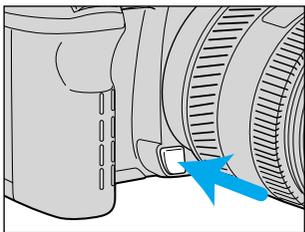


バルブ撮影中は、ディスプレイ上に撮影経過時間が表示されます。新品電池で約7時間のバルブ撮影が可能です。

カメラぶれを少なくするため、別売のリモートコードの使用をおすすめします(199ページ参照)。

プレビュー(絞り込み)

ファインダーには絞りが一番開いた状態の像が見えています。絞りが異なると被写体のぼけ具合も変わるため、ファインダーで見えるぼけ具合と実際の写真のぼけ具合とは異なります。プレビュー機能を使うと、実際の撮影のときの絞りまで絞り込まれるので、撮影前におおよその被写体のぼけ具合を確認することができます。



ピントを合わせた後、プレビュー(絞り込み)ボタンを押します。

押している間、表示されている絞り値まで絞りが絞り込まれます。プレビュー中に絞り値を変更して、ぼけ具合の変化を確認することもできます。

絞りが絞り込まれるため、ファインダー内の画像は暗くなります。

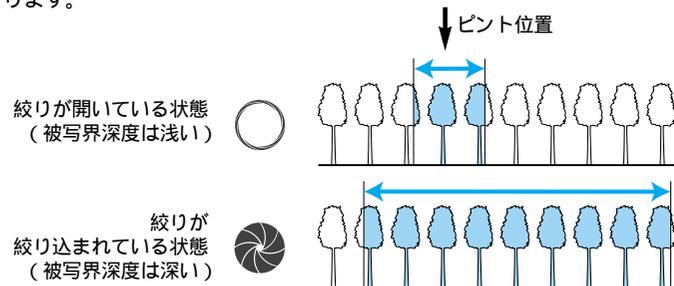
シャッターボタンを半押ししてファインダー内に ● が点灯した状態でプレビューボタンを押した場合、そのままシャッターボタンを押し込んで撮影することができます。

プレビューボタンを離すとプレビューは解除されます。

フォーカスホールドボタン付きのレンズ使用時には、カスタム設定により、フォーカスホールドボタンでプレビューを行なうことができます(170ページ参照)

被写界深度

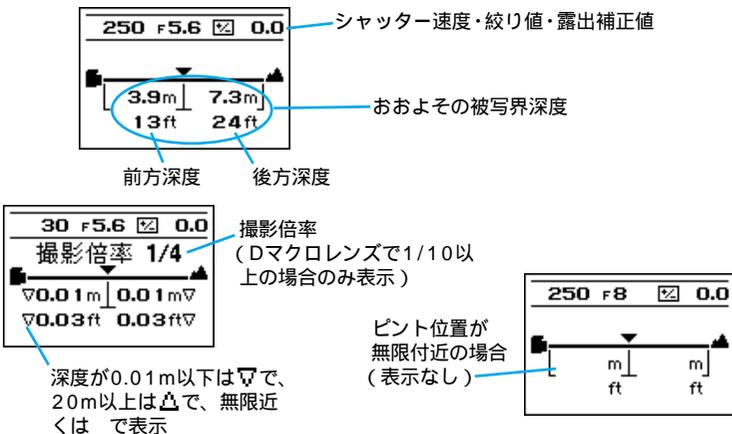
ピントを合わせた被写体の前後には、写真として実用上ピントが合って写る範囲があり、これを「被写界深度」といいます。F1.4、F2など絞りが開放側になる(絞り値が小さい)ほど、被写界深度は浅く(=ピントが合って写る範囲は狭く)、F22、F32など絞りが絞り込まれる(絞り値が大きい)ほど、被写界深度は深く(=ピントが合って写る範囲は広く)なります。



実際の写真については69ページをご覧ください。

被写界深度表示

Dレンズ使用時には、プレビューボタンを押している間、ディスプレイ上におおよその被写界深度が表示されます。



上記の値は深度(被写体位置の前後のピントが合って見える範囲)を表しており、カメラからの撮影距離ではありません。
被写界深度はその性格上、境目がはっきりしていません。数値を超えるとすぐにピントがボケるわけではありませんので、あくまでもおおよその目安としてお使いください。

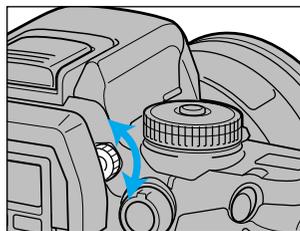
撮影倍率

ある大きさの被写体が、フィルム上でどれだけ大ききで写るのかを表した割合。例えば12mmの被写体がフィルム(36×24mm)上で12mmになれば撮影倍率は1/1、6mmだと1/2、4mmだと1/3・・・になります。

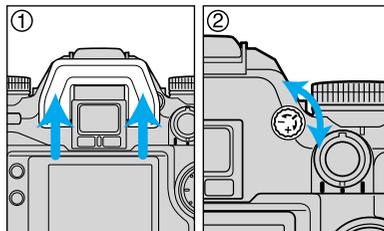
マクロレンズで外部の露出計を使って撮影する場合は、撮影倍率が大きくなると露出補正が必要です。詳しくはレンズの使用説明書をご覧ください。

視度調整(ファインダーを見やすくします)

目の調子によりファインダー内の像がはっきりと見えないときは、ファインダーの視度を調整して見やすくすることができます。



ファインダーをのぞいて、フォーカスフレームがはっきり見えるように、視度調整ダイヤルを回します。



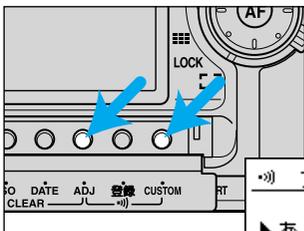
アイピースカップを外すと回す方向が分かります。遠視の場合は+方向へ、近視の場合は-方向へ回してください。

レンズを外した状態で、カメラをできるだけ明るいところに向けると、視度が合わせやすくなります。

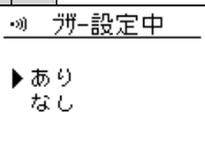
別売りの視度調整アタッチメント1000を併用することもできます。カメラ本体の視度調整機能を用いてもはっきりと見えない場合にお使いください。近視用4種類、遠視用5種類があります。

ブザー(電子音について)

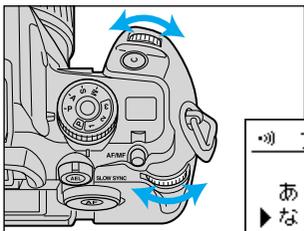
ピントが合ったときと10秒セルフタイマーカウント中に、電子音が鳴ります。
電子音を解除することもできます。



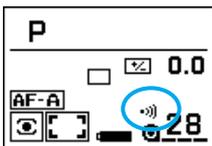
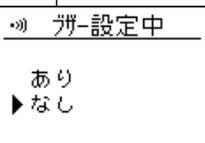
1. 背面ボタンカバーを開け、アジャストボタン(ADJ)とカスタムボタン(CUSTOM)を同時に押します。



ディスプレイ上にブザー設定画面が現れます。



2. 前ダイヤルまたは後ダイヤルを回して、「あり」または「なし」を選びます。



シャッターボタンを半押しすると、通常の表示に戻ります。電子音が鳴る場合は、ディスプレイ上に「あり」が表示されます。

ブザーが鳴るのは以下の場合です。

- オートフォーカスでピントが合って固定されたとき(ビビッ)
- コンティニユアスAF(AF-C)や被写体が動いているときは鳴りません。
- セルフタイマー作動中(ピーピーピー・・・ビビビビ)

登録

最もよく使うモードや数値設定等の複数の項目の組み合わせを、3通りまでカメラに登録して、必要に応じて瞬時に呼び出すことができます。撮影者個人のオリジナルモードともいうことができます。

登録機能によりカメラに記憶される設定は以下の通りです。(詳しくは本文をご覧ください。)

- ・露出モード
- ・フォーカスモード・フォーカスフレーム
- ・測光モード
- ・露出補正值・フラッシュ調光補正值
- ・巻き上げモード
- ・フラッシュモード
- ・オートフォーカス優先/リリース優先

登録される内容

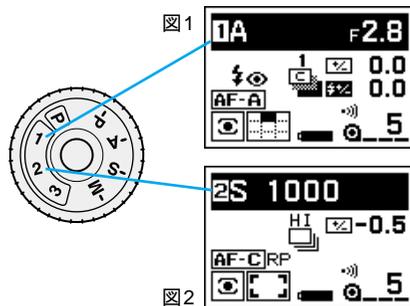
同条件下での撮影を頻繁に行うときには、登録機能を使うと便利です。登録機能とは、主な設定をカメラに記憶させ、必要に応じて瞬時に呼び出す機能です。登録機能によりカメラに記憶される設定は以下の通りです。

記憶される設定	記憶される内容およびその詳細
露出モード	P/A/S/M Aモード登録時には絞り値が、Sモード登録時にはシャッター速度が、Mモード登録時には絞り値とシャッター速度が同時に登録されます。
フォーカスモード	AF-A / AF-C / AF-S / MF
フォーカスフレーム	ワイドフォーカスフレーム / 各ローカルフォーカスフレーム
測光モード	14分割八ニカムパターン / 中央重点的平均 / スポット
露出補正值	- 3段 ~ + 3段
調光補正值	- 2段 ~ + 2段 登録時にフラッシュが非発光になっていても、調光補正值は登録されます。
巻き上げモード	1コマ / 連続 / ブラケット / セルフタイマー / 多重露光 アジャストボタンによる設定(連続撮影の高速・低速、ブラケット段数・枚数設定等)も登録されます。ブラケットとフラッシュブラケットの設定はそれぞれ別々に登録されます。
内蔵フラッシュモード	通常 / 赤目軽減 / 後幕シンクロ / ワイヤレス 内蔵フラッシュ発光の有無は登録されません。フラッシュが上がっていれば発光し、下がっていれば発光しません。
カスタム1	オートフォーカス優先 / レリーズ優先
カスタム22	フォーカスモードダイヤルAF-Aの機能(AF-A / DMF)

登録機能を使うと、上記の設定すべてが自動的にカメラに記憶されます。一部だけの登録はできません。また、上記以外の設定(日付、撮影データメモリー、ディスプレイのコントラスト、カスタム1と22以外のカスタム設定等)は登録できません。

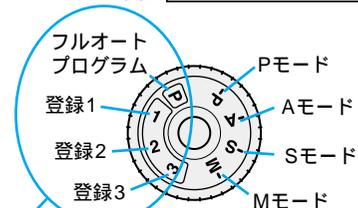
このカメラでは3通りまでの登録が可能です。例えば、登録1には人物を撮るためのポートレート用の登録(図1)、登録2にはスポーツシーン用の登録(図2)などと使い分けすることができます。

これらの設定はあくまでも一例です。



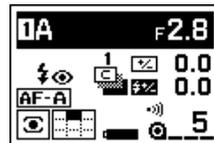
Aモード(絞り値2.8)、AF-A、上側のローカルフォーカスフレーム、14分割八ニカムパターン、露出補正0、フラッシュ調光補正0、連続撮影ブラケット、赤目軽減発光、オートフォーカス優先

Sモード(シャッター速度1000)、AF-C、ワイドフォーカスフレーム、14分割八ニカムパターン、露出補正-0.5、フラッシュ調光補正0(この例ではフラッシュは非発光にしているため表示なし)、高速連続撮影、レリーズ優先



露出モードダイヤルのこちら側を選択すると、カメラの設定が自動的に変更されるため、カメラ上のダイヤルやレバーの位置と実際のカメラの制御が一致しなくなります。このような場合にはディスプレイ上部が反転します。上部が反転した場合は、カメラ上のダイヤルやレバーの位置ではなく、ディスプレイの情報を元に撮影を行ってください。

登録3のダイヤル位置は、登録3(3つ目の登録)の代わりにSTFモードを設定することもできます。なめらかで自然な背景のボケ具合を表現することができます(188ページ参照)



登録のしかた

お買い上げ時には、登録1～3にはフルオートプログラムと同じ設定が登録されています。登録機能を使う場合は、以下の方法で任意の設定を登録してください。

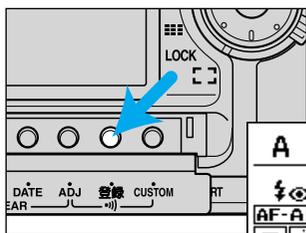
登録1～3のすべてに登録する必要はありません。1つも登録しなくても差し支えありません。

登録された内容は、カメラの電源を切っても電池を抜いても、保持されています。

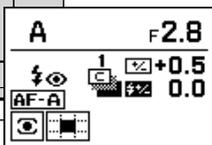
新しい設定を登録する場合

1. 138ページの項目すべてを、登録したい状態に設定します。

☐(フルオートプログラム)は登録できません。



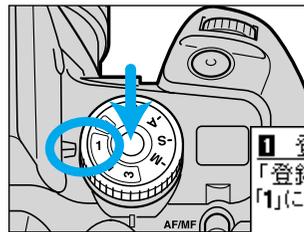
2. 背面ボタンカバーを開け、登録設定ボタンを押します。



登録操作中
ダイヤルを「1」「2」「3」のいずれかに合わせて下さい。

押している間は、登録される設定のみがディスプレイ上に表示されます。(詳細画面以外を選択していても、一時的に詳細画面になります。)

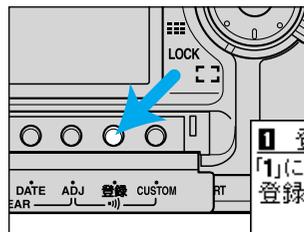
登録設定ボタンから手を離すと、登録操作中の画面になります。



3. ロック解除ボタンを押しながら、露出モードダイヤルを1～3のいずれかに合わせます。

登録操作中
「登録」を押すと「1」に登録します。

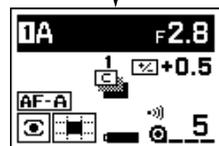
1に合わせた場合は左の表示が現れます。カスタム設定で3にSTFモード(188ページ)が割り当てられている場合は、ダイヤルを1または2に合わせてください。(ディスプレイ上でもその旨表示されます。)



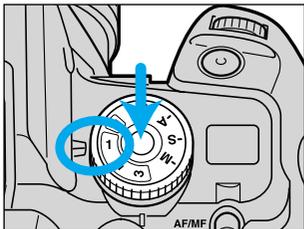
4. もう一度登録設定ボタンを押します。

登録操作中
「1」に登録しました。

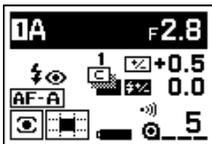
登録作業が完了し、5秒後に通常の表示に戻ります。戻る前でも撮影等は可能です。



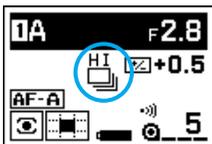
呼び出し方



露出モードダイヤルロック解除ボタンを押しながら、露出モードダイヤルを呼び出したい番号(1~3)に合わせます。



登録されている設定が、詳細画面にてディスプレイに表示されます。5秒後に元の画面に戻ります(戻る前でも撮影はできます)。ディスプレイ上部が黒く反転し、カメラ上のダイヤルやレバー位置と実際のカメラの制御とが異なっていることをお知らせします。ディスプレイの情報を元に撮影を行ってください。



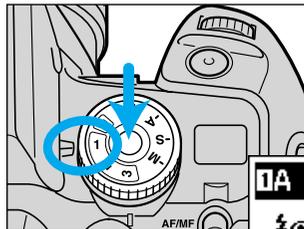
希望の登録番号を呼び出した後、一時的に変更を加えることも可能です。

例：上の例で、呼び出し後連続撮影を設定した場合

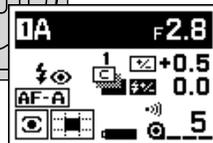
変更を加えた後登録設定ボタンを押すと、変更した内容が登録(上書き)されます(次ページ参照)。

メインスイッチをOFFにするか露出モードダイヤルを回すと、変更した内容は解除されます。

一度登録した内容の変更



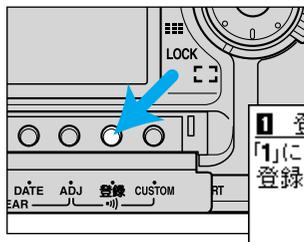
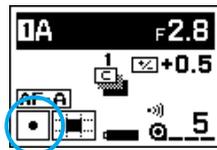
1. ロック解除ボタンを押しながら、露出モードダイヤルを変更したい登録番号(1~3)に合わせます。



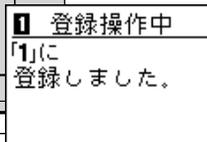
2. ダイヤルやレバーで設定を変更します。

例：14分割ハニカムパターン測光をスポット測光に変更した場合

この状態で撮影することも可能です。



3. 登録設定ボタンを押します。



登録作業が完了し、5秒後に通常の表示に戻ります。戻る前でも撮影等は可能です。

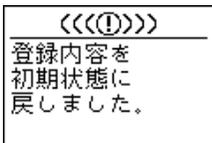
一度登録した内容の変更

登録した内容の変更で、露出モードのみ変更したい場合は、以下の手順に沿ってください。

1. 露出モードダイヤルを変更したい登録番号に合わせます。
2. ロック解除ボタンを押しながら、前ダイヤルまたは後ダイヤルを回して希望の露出モードを選びます。
3. 登録設定ボタンを押します。

初期状態に戻す場合

登録1～3の登録内容をすべてリセットし、初期状態(フルオートプログラム)に戻すことができます。



1. メインスイッチをOFFにします。
2. 登録設定ボタンを押しながら、メインスイッチをOFFからONにします。

左の表示が現れ、登録1～3が初期状態に戻ったことをお知らせします。

登録3にSTFモードを設定している場合は、STFモードは解除されません。

撮影データメモリー

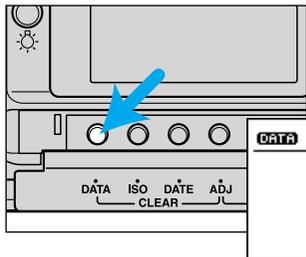
撮影データメモリー機能を設定すると、以下の11項目の撮影データが自動的にカメラに記録されます。記録されたデータは、カメラのディスプレイ上に表示させて確認することができます。フィルム7本分のデータを記録することができます。また、フィルム先端にデータナンバーも同時に写し込まれます。

データナンバー ¹	測光モード
フィルム感度 ¹	露出補正值 (ブラケット値を含む)
シャッター速度	フラッシュ調光補正值 (フラッシュブラケット値を含む)
絞り値	撮影年月日時分
レンズの焦点距離	
開放絞り値	
露出モード	¹ フィルム1本ごとに記録

別売のアクセサリ、データセーバーDS-100を装着すれば、カメラで記録したデータを付属のカード(スマートメディア)に書き出すことができます。スマートメディアにはフィルム400～1900本分²のデータを記録することができ、さらにアダプタを使えばデータをパソコンで出力したりすることも可能です。

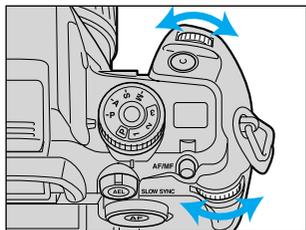
²スマートメディアの容量によりデータ記憶本数が異なります。

撮影データの記録

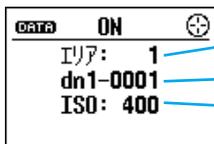


1. 背面ボタンカバーを開け、撮影データメモリーボタン (DATA) を押します。

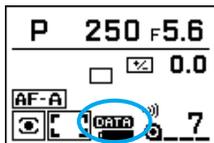
ディスプレイ上に、現在の撮影データメモリーの設定 (初期設定はOFF) が表示されます。



2. 前ダイヤルまたは後ダイヤルを回して、ONを選びます。



- フィルムエリア (148ページ)
- データナンバー (149ページ)
- 現在入っているフィルムのフィルム感度



3. シャッターボタンを半押しします。

通常の表示に戻ります。ディスプレイ上に **DATA** が表示され、145ページの11項目の撮影データすべてが記録されることをお知らせします。

撮影データの記録をしないときは、上の要領でディスプレイ上に「OFF」を表示させてください。

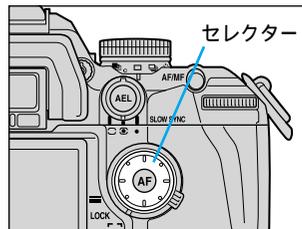
設定した内容は、カメラの電源を切っても、電池を抜いても、保持されています。

多重露光撮影時は、最終露光時のデータのみ記録されます。

フィルムが入っていないときは、データは記録されません。



画面右上に ⊕ が表示されているときは、前後ダイヤルの代わりにセレクター (ダイレクトフォーカスフレームセレクター) での変更も可能です。



セレクターを右または上方向へ押せば、数値が進みます。(OFF ON エリア1 エリア2 … エリア7 OFF)



セレクターを左または下方向へ押せば、数値が戻ります。(OFF エリア7 エリア6 … エリア1 ON OFF)

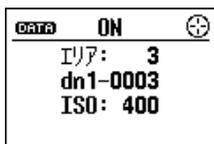
エリア1～7は、記録されるエリアでなく読み出しされるエリアを表します (150ページ参照)。

フィルムエリアとデータナンバー

記録されたフィルムを識別する番号として、フィルムエリアとデータナンバーがあります。フィルムエリアはデータの記録場所を表すのに、データナンバーはデータとフィルムとの照合に使われます。



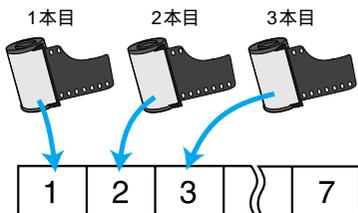
撮影データメモリーをONにしていると、フィルムを入れるたびに、ディスプレイ上にフィルムエリアとデータナンバーが表示されます。



撮影中に撮影データメモリーボタン (DATA) を押すと、現在のフィルムエリア・データナンバーを確認することができます。

フィルムエリア

データが記録される場所(フィルムエリア)は、フィルム1本ごとに1つ必要です。このカメラには7つのフィルムエリアがあり、フィルム7本分(1本につき最大36コマ)のデータを記録することができます。



最初に撮影データの記録を始めると、フィルムエリア1から順に始まり、フィルムを入れるたびに自動的に次のフィルムエリアに進みます。コマが余っていても、2本のフィルム情報を1つのフィルムエリアに入れることはできません。また、自分で記録するフィルムエリアを選ぶこともできません。

カメラのデータを消去(156ページ)すると、フィルムエリアはリセットされて1に戻ります。

データナンバー

撮影データメモリーをONにした状態でフィルムを入れると、フィルム先端部に自動的に「dn1-0001」「dn1-0002」といったデータナンバーが写し込まれます。



ご購入時には、データナンバーは「dn1-0001」になっています。フィルムを入れ替えるたびに、下4桁の数字が増えていきます。

撮影データメモリーがOFFの状態だと、データナンバーは写し込まれませんが、フィルムを入れるたびにカウントはされています。またフィルム装填失敗時でもカウントされます。

データナンバーのリセットについては157ページをご覧ください。データナンバーの下4桁はご自分で任意の番号に変更することはできませんが、カスタム設定により、「dn1」の数字部分を1～9の任意の数字に変更することはできます(dn2-0001等)。複数のカメラを使う際のカメラ識別用番号として使うと便利です(195ページ参照)。

フィルムエリアとデータナンバーの使い分け

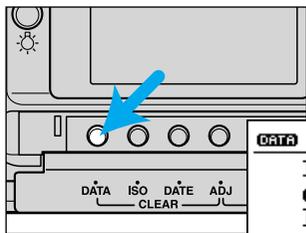
フィルムエリアは、カメラの7つの記録エリアのうち、どこにデータが記録されているかを表すものです。カメラに今フィルム何本分のデータが記録されているかを確認するのに便利です。

データナンバーはフィルムの通し番号で、フィルムを入れると先端部に自動的に写し込まれる番号と同じものです。データとフィルムの照合にお使いください。

撮影データの読み出し

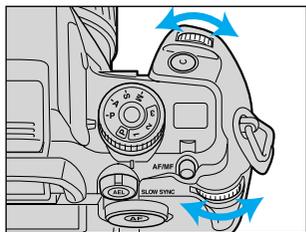
記録したデータを、カメラのディスプレイ上に表示させることができます。

読み出しの設定



1. 背面ボタンカバーを開け、撮影データメモリーボタン (DATA) を押します。

ディスプレイ上に、現在の撮影データメモリーの設定が表示されます。



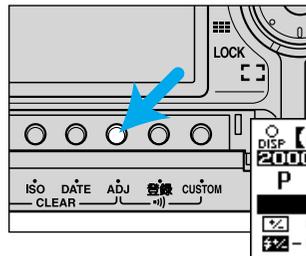
2. 前ダイヤルまたは後ダイヤルを回して、「読み出し」と、読み出したいフィルムデータのフィルムエリアまたはデータナンバーで選びます。



- フィルムエリア (148ページ)
- データナンバー (149ページ)
- 現在表示させているフィルムのフィルム感度
- データ画面は「ADJ」押



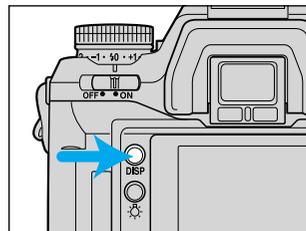
画面右上に  が表示されているときは、前後ダイヤルやアジャストボタンの代わりに、セレクター (ダイレクトフォーカスフレームセレクター) や中央ボタン (スポットAFボタン) での操作も可能です (154ページ参照)。



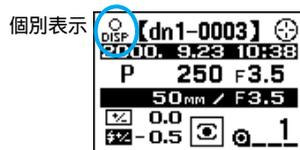
3. アジャストボタン (ADJ) を押します。

ディスプレイ上に、1コマ目の撮影データが表示されます。

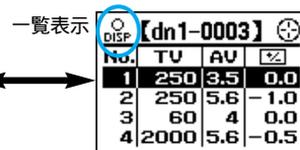
データ内容表示画面の切り替えとコマ番号の選択



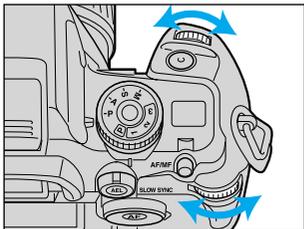
4. 画面切り替えボタンで、読み出したい画面の種類を選びます。個別表示にすると1画面に1コマの、一覧表示にすると1画面に4コマの撮影データの表示ができます。画面左上に  が表示されているときは、画面切り替えボタンにより、個別表示・一覧表示の切り替えが可能であることを表します。



個別表示



一覧表示



5. 前ダイヤルまたは後ダイヤルで、読み出したいコマを選びます。

データ内容表示画面の見方(個別表示)

フィルムのデータナンバー

露出モード

焦点距離

露出補正值

フラッシュ調光補正值
(表示がなければ非発光)

撮影日時

シャッター速度・絞り値

開放絞り値

コマ番号

測光モード

データ内容表示画面の見方(一覧表示)

フィルムのデータナンバー

No.	TU	AU	EV
13	1000	2.8	0.0
14	60	11	0.0
15	125	5.6	+0.5
16	125	5.6	+1.0

露出補正值

コマ番号

シャッター速度

絞り値

露出補正值・フラッシュ調光補正值は、それぞれブラケット・フラッシュブラケットの値も含まれます。

PA、Ps、STFモードは、すべてPモードとして記録されます。

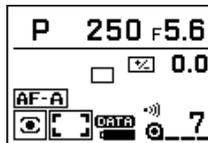
MF が現れているときは、測光モードレバーで14分割ハニカムパターン測光を選んでいても、常に中央重点の平均測光に近い測光方式でカメラは制御されますが(54ページ)、撮影データでは14分割ハニカムパターン測光として記録されます。

読み出しの終了



続けて他のフィルムのデータを見るときは撮影データメモリーボタン(DATA)またはアジャストボタン(ADJ)を押します。

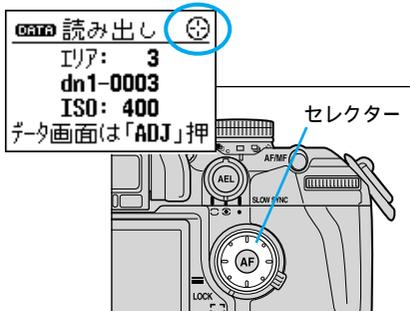
左の画面に戻りますので、その後150ページの2の操作に戻ってください。



データの読み出しを終了するときシャッターボタンを半押しします。

通常の画面に戻ります。撮影データメモリーはONの状態になります。

セレクターと中央ボタン



画面右上にが表示されているときは、前後ダイヤルやアジャストボタンの代わりに、セレクター(ダイレクトフォーカスフレームセレクター)と中央ボタン(スポットAFボタン)での操作も可能です。

AFワイド/ローカル切り替えレバーがLOCK位置にあるときには操作できません。



データメモリ設定画面



セレクターを右または上方向へ押せば、数値が進みます。(OFF ON エリア1 エリア2 ... エリア7 OFF)



セレクターを左または下方向へ押せば、数値が戻ります。(OFF エリア7 エリア6 ... エリア1 ON OFF)



読み出し選択中に中央ボタンを押せば、データ内容表示画面になります。



データ内容表示画面(個別表示)



セレクターを右または上方向へ押せば、コマが進みます。



セレクターを左または下方向へ押せば、コマが戻ります。

No.	TU	AU	1/2
13	1000	2.8	0.0
14	60	1.1	0.0
15	125	5.6	+0.5
16	125	5.6	+1.0



データ内容表示画面(一覧表示)

セレクターを上下方向へ押せば、コマが1コマずつ切り替わります。



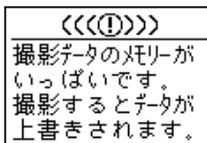
セレクターを左右方向へ押せば、コマが4コマずつ切り替わります。



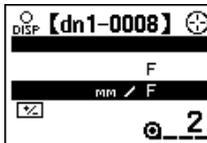
データ内容表示画面で中央ボタンを押せば、データメモリ設定画面に戻ります。

フィルムエリアがいっぱいになったら

8本目のフィルムを入れると(7つのフィルムエリアがすべて使用済みになると)、フィルムエリアは1に戻ります。このとき、8本目のデータは1本目のデータに上書きされ、1本目のデータは消えて行きます。



誤って1本目のデータを消してしまわないよう、このような警告表示が出ます。(フィルムエリアが7から1に戻るときだけです。)



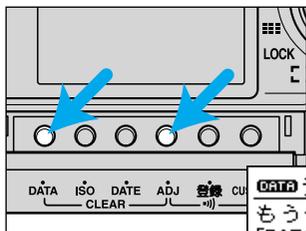
上書きを行なった場合、新旧のデータが区別できるよう、その境界では1コマ分のデータが空白になります。(最新のコマの次のコマが空白になるので、上書きしながらフィルムの36コマ目を撮影すると、次のフィルムエリアの1コマ目が空白になります。)

9本目、10本目...のフィルムを入れたときも、同様に、2本目、3本目...のデータに上書きされていきます。

フィルムエリアがいっぱいになったら(またはなる前に)全データをいったん消去すると、新しいデータが見やすくなります(156ページ参照)。また別売りのデータセーバーDS-100を使えば、データをスマートメディアに書き写すこともできます。

撮影データの消去

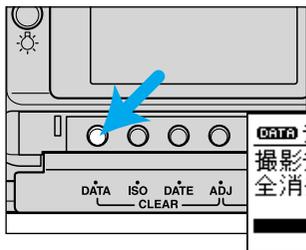
すべてのフィルムエリアのデータを一度に消去することができます。任意のフィルムエリアだけの消去はできません。



1. 背面ボタンカバーを開け、撮影データメモリーボタン(DATA)を押したまま、アジャストボタン(ADJ)を押します。

DATA データクリア操作中
もう一度「DATA」を押すと撮影データを全消去します。

ディスプレイ上に、撮影データ消去画面が表示されます。



2. もう一度撮影データメモリーボタンを押します。

DATA データクリア操作中
撮影データを全消去しています

データの消去が完了すると、通常の撮影表示に戻ります。

データの消去中は、カメラの操作をしないでください。
データを消去すると、フィルムエリアもリセットされ、次にフィルムを入れるとフィルムエリアは1として記録されます。

フィルムエリアとデータナンバーのリセット

フィルムを入れるたびに、フィルムエリアもデータナンバーも1つずつ先に進みます。ご購入時は両方も1から始まります。

フィルムエリアのリセット

カメラのデータを消去(前ページ)すると、フィルムエリアは1に戻ります。

データナンバーは戻らずに続きから始まります。

データナンバーのリセット

1. フィルムが入っていない状態で、メインスイッチをOFFにします。フィルムが入っていると、データナンバーのリセットはできません。
2. 撮影データメモリーボタンを押しながら、メインスイッチをOFFからONにします。

右の表示が現れ、次に入れたフィルムのデータナンバーの下4桁が0001になります。フィルムエリアは戻らずに続きから始まり、データも消去されません。

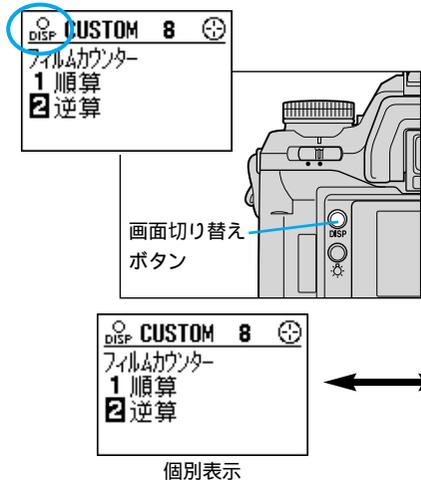
(((!!)))
データナンバーを
dnX-0001に
戻しました。

4. シャッターボタンを半押しします。

通常の撮影表示に戻ります。

お買い上げ時には、設定はすべて「1」になっています。(カスタム33の写し込み文字濃度調節のみ4です。) 必要な項目のみ設定を変更してください。この使用説明書では、すべてのカスタム設定がお買い上げ時のままと仮定して、カメラの使い方の説明を行なっています。設定した内容は、カメラの電源を切っても、電池を抜いても、保持されています。

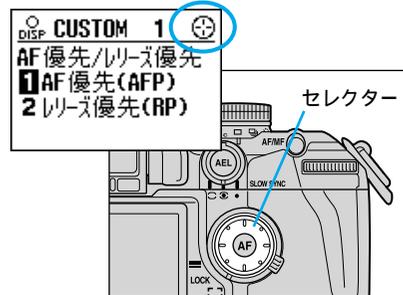
カスタム設定画面の切り替え



画面左上にDISPが表示されているときは、画面切り替えボタンを押すと、一覧と個別の画面を切り替えることができます。

前または後ダイヤルにより設定を変更する場合は、個別表示・一覧表示とも、前ダイヤルで変更したい項目(カスタム1~35)を、後ダイヤルで設定を選んでください。

セレクターと中央ボタン

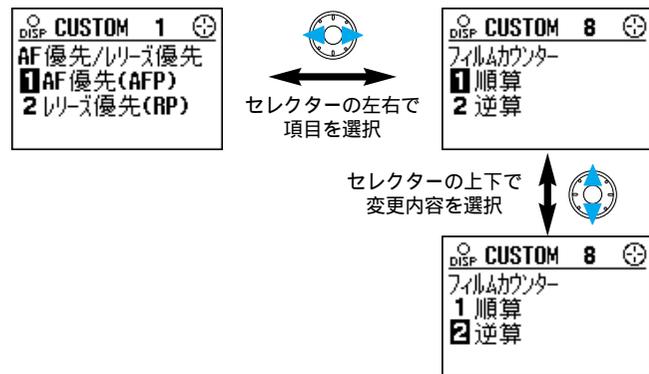


画面右上にDISPが表示されているときは、前後ダイヤルやアジャストボタンの代わりに、セレクター(ダイレクトフォーカスフレームセレクター)と中央ボタン(スポットAFボタン)での変更も可能です。

AFワイド/ローカル切り替えレバーがLOCK位置にあるときには操作できません。

個別表示を選択している場合

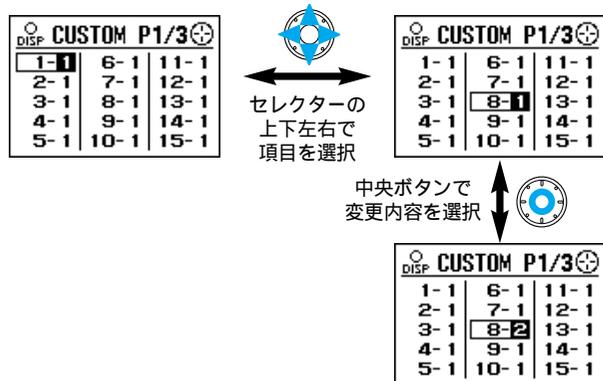
カスタムボタン(CUSTOM)でカスタム設定画面を表示させた後、セレクターで項目と設定内容を変更します。



設定後は、シャッターボタンを半押しすると通常の撮影表示に戻ります。

一覧表示を選択している場合

カスタムボタン(CUSTOM)でカスタム設定画面を表示させた後、セレクトアと中央ボタン(スポットAFボタン)で項目と設定内容を変更します。



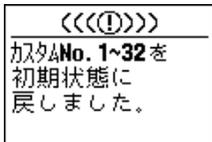
設定後は、シャッターボタンを半押しすると通常の撮影表示に戻ります。

初期状態に戻す場合

カスタム1～32を初期状態(設定番号1)に戻すことができます。

カスタム33(写し込み文字濃度調節) カスタム34(データナンバーのボディIDナンバー、カスタム35(ナビゲーションディスプレイの言語)は戻りません。

1. メインスイッチをOFFにします。
2. カスタムボタンを押しながら、メインスイッチをOFFからONにします。



左の表示が現れ、1～32が初期状態に戻ったことをお知らせします。

カスタム設定 - カスタム1

カスタム1 オートフォーカス優先/リリース優先

オートフォーカス優先とリリース優先(RP)を切り替えます。

登録機能を使うと、カスタム1の設定も登録されます(138ページ参照)

☐(フルオートプログラム)選択中は、自動的にオートフォーカス優先となります。(2に設定している場合、ディスプレイの表示は2ですが、実際のカメラの制御は1となります。)



1. オートフォーカス優先

ピントが合わなければシャッターは切れません。

ピントの合わない写真になるのを防ぐことができます。

2. リリース優先

ピントが合っていない場合でも、シャッターボタンを押したときにシャッターが切れます。



シャッターチャンスを見逃さずに撮影することができず。

ディスプレイ上には「RP」が表示されます。

ファインダーでピントが合うのを確認してから撮影することをおすすめします。

カスタム2、3

カスタム2 自動巻き戻し

1. 自動巻き戻しあり

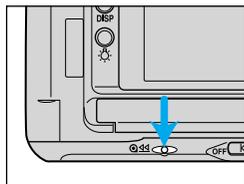
最後のコマを撮影すると、自動的に巻き戻しが始まります。



2. 自動巻き戻しなし

最後のコマを撮影しても、巻き戻しは始まりません。巻き戻しを始めるときは、ボディ背面の途中巻き戻しボタンを押してください。

結婚式など、巻き戻しの音を立てたくないときに便利です。

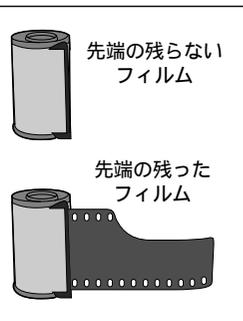


途中巻き戻しボタン

カスタム3 巻き戻したフィルムの先端

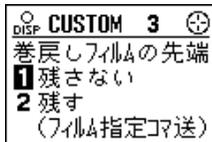
1. フィルムの先端を残さない

巻き戻したフィルムは、すべてパトローネ内に巻き込まれます。



2. フィルムの先端を残す(フィルム指定コマ送り機能あり)

巻き戻したフィルムはすべてパトローネ内に巻き込まれず、先端が少しパトローネの外に残ります。また、指定したコマまでフィルムを進めたり戻したりすることもできます。



カスタム設定変更方法

1. 背面ボタンカバー内のカスタムボタンを押す。
2. 前ダイヤルで項目(カスタム1~35)を選ぶ。
3. 後ダイヤルで設定を変更する。
4. シャッターボタンを半押しする。
詳しくは159~162ページをご覧ください。

フィルム指定コマ送り

(一度取り出したフィルムを再装填する場合)

途中で巻き戻したフィルムをもう一度カメラに入れたときに、撮影者が指定したコマ(通常は未露光部分の始めのところ)までフィルムを進めることができます。

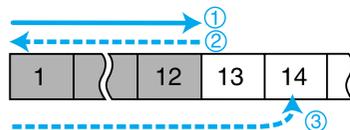
感度の違うフィルムや、ネガフィルム・リバーサルフィルムを、撮影場面によって使い分けたりするときに便利です。

何コマ目で途中巻き戻しをしたか(何コマ目までフィルムを送るか)は、撮影者ご自身でお決めください。フィルムを再装填する場合は、未露光部分の開始位置をカメラが検知することはできません。

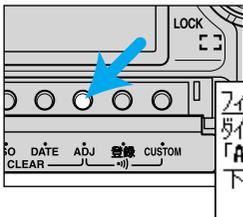
フィルムの先端の引き出し方によって、各コマの露光位置がずれることがあります。撮影済みのコマより2コマほど多めにフィルムを送ってください。

例：

12コマ目まで撮影済みのフィルムを再装填し、14コマ目まで送る場合



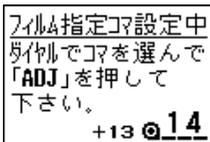
1. カスタム設定で、カスタム3を2に設定します。
2. 12コマ目まで撮影済みのフィルムをカメラに入れます。
通常通りフィルムが1コマ目まで進み、フィルムカウンターが「1」になります。



3. 背面ボタンカバーを開け、アジャストボタン (ADJ) を3秒以上押し続けます。

フィルム指定コマ設定中
ダイヤルでコマを選んで「ADJ」を押して下さい。
1

ディスプレイ上にフィルムコマ送り設定画面が現れます。



4. 前ダイヤルまたは後ダイヤルを回して、「14」を選びます。

フィルムカウンター横の「+13」は、フィルムが13コマ分送られることを表します。

5. アジャストボタンを押します。

フィルムが14コマ目まで自動的に送られます。

途中巻き戻しや再装填を繰り返すと、ホコリ等でフィルムが傷つく可能性があります。

データナンバーを二重に写し込まないようにしてください。データナンバーは、撮影データメモリーをOFFにしてからフィルムを入れると写し込まれません。

カスタム設定変更方法

1. 背面ボタンカバー内のカスタムボタンを押す。
2. 前ダイヤルで項目(カスタム1~35)を選ぶ。
3. 後ダイヤルで設定を変更する。
4. シャッターボタンを半押しする。
詳しくは159~162ページをご覧ください。

フィルム指定コマ送り

(多重露光するためにフィルムの一部を巻き戻す場合)

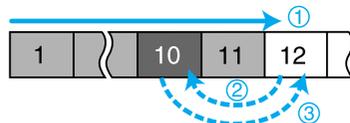
多重露光撮影のために、フィルムを何コマか巻き戻すことができます。巻き上げも可能です。

多重露光でブラケット撮影を行なう場合に便利です。

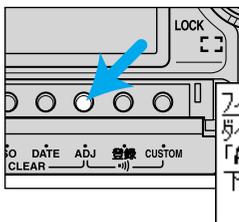
フィルムを取り出さずに巻き上げ・巻き戻しを行なった場合、コマの位置が最大でフィルムのパーフォレーションの穴半分ぐらいずれる可能性があるので、同じ被写体を同じ位置に多重露光するような使い方はできません。

例：

11コマ目まで撮影後、10コマ目に戻り露光して、12コマ目まで戻る場合



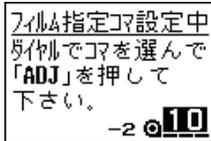
1. カスタム設定で、カスタム3を2に設定します。



2. 背面ボタンカバーを開け、アジャストボタン (ADJ) を3秒以上押し続けます。

フィルム指定コマ設定中
ダイヤルでコマを選んで「ADJ」を押して下さい。
12

ディスプレイ上にフィルムコマ送り設定画面が現れます。

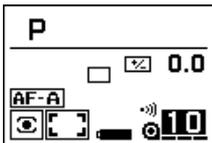


3. 前ダイヤルまたは後ダイヤルを回して、「10」を選びます。

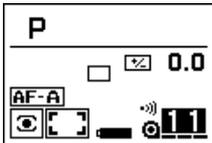
フィルムカウンター横の「-2」は、フィルムが2コマ分巻き戻されることを表します。

露光済みのコマを選んでいる場合、フィルムカウンターが反転して、多重露光になることをお知らせします。

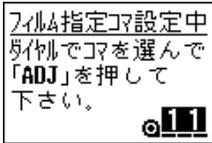
カスタム4、5



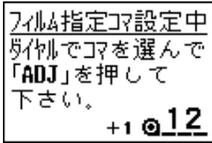
4. アジャストボタンを押します。
フィルムが10コマ目まで自動的に巻き戻されます。



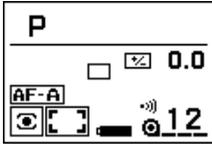
5. 10コマ目を撮影します。
フィルムカウンターは反転したまま11になります。



6. 背面ボタンカバー内のアジャストボタンを3秒以上押し続けます。
ディスプレイ上にフィルムコマ送り設定画面が現れません。



7. 前ダイヤルまたは後ダイヤルを回して、「12」を選びます。
フィルムカウンター横の「+1」は、フィルムが1コマ分送られることを表します。
未露光のコマまで進むと、反転していたフィルムカウンターが通常のカウンターに戻ります。



8. アジャストボタンを押します。
フィルムが12コマ目まで自動的に巻き上げられます。

上記の手順5で10コマ目を撮影した後、続けて11コマ目も多重露光で撮影して、未露光の12コマ目まで進むこともできます。この場合も12コマ目まで来ると、反転していたフィルムカウンターが通常のカウンターに戻ります。
日付・時刻の設定をしているときは、二重に写し込まないようにしてください(124ページ参照)

最終コマを撮影して巻き戻しを始めていない状態(カスタム2-2)では、フィルム指定コマ送りはできません。

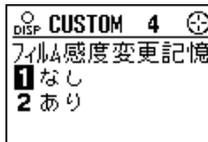
カスタム設定変更方法

1. 背面ボタンカバー内のカスタムボタンを押す。
2. 前ダイヤルで項目(カスタム1~35)を選ぶ。
3. 後ダイヤルで設定を変更する。
4. シャッターボタンを半押しする。
詳しくは159~162ページをご覧ください。

カスタム4 フィルム感度変更記憶機能

1. フィルム感度変更記憶なし

フィルム感度の設定・変更を行なった場合、その設定は該当するフィルム1本のみに対して有効です。



2. フィルム感度変更記憶あり

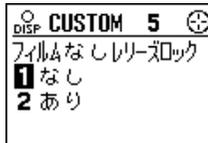
フィルム感度の設定・変更を行った場合、次に同じ感度のフィルムを入れると、同様の変更が自動的になされます。(例: ISO 50のフィルムをISO 40に変更した場合、次にISO 50のフィルムを入れると、フィルム感度は自動的にISO 40になります。)

リバーサルフィルムを頻繁に好みの感度に合わせて使われる方に便利です。
いったん違う感度のフィルムを入れると、記憶されたフィルム感度はリセットされます。

カスタム5 フィルム未装填時のリリースロック

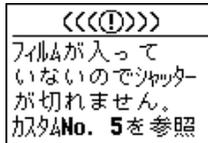
1. フィルム未装填時のリリースロックなし

カメラにフィルムを入れなくても、シャッターを切ることができます。



2. フィルム未装填時のリリースロックあり

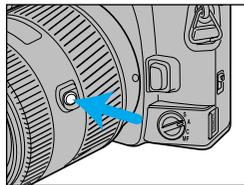
フィルムが入ってなければシャッターは切れません。
フィルムを入れ忘れたまま撮影するという失敗を防ぎます。
フィルムを入れずにシャッターボタンを押すと、ファインダー内の「0」が点滅し、右の表示が現れます。
フィルムを入れていなくても、裏ぶたを開けたままの状態だと、シャッターを切ることができます。



カスタム6、7

カスタム6 フォーカスホールドボタンの機能

レンズ上のフォーカスホールドボタンの機能を変更します(フォーカスホールドボタン付きのレンズのみ)。



フォーカスホールドボタン

1. フォーカスホールド

フォーカスホールドボタンを押している間、ピント位置が固定されます。

2. 連続ブラケット

フォーカスホールドボタンを押しながら撮影すると、連続撮影ブラケットになります。

ブラケット段数と撮影枚数は、アジャストボタンで設定している通りになります。

フラッシュは発光しません。

セルフタイマーまたは多重露光が設定されているときは、連続撮影ブラケットにはなりません。

3. プレビュー

フォーカスホールドボタンを押している間、表示されている絞り値まで絞りが絞込まれます。

プレビューボタンと同じ機能が使えます(132～134ページ参照)。

Dレンズ以外のレンズをお使いの場合は、シャッターボタンを半押しした状態でフォーカスホールドボタンを押してください。



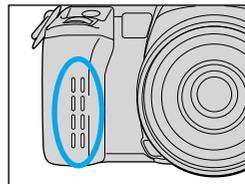
カスタム設定変更方法

1. 背面ボタンカバー内のカスタムボタンを押す。
2. 前ダイヤルで項目(カスタム1～35)を選ぶ。
3. 後ダイヤルで設定を変更する。
4. シャッターボタンを半押しする。
詳しくは159～162ページをご覧ください。

カスタム7 アイセンサーの機能

メインスイッチがONの状態ではグリップを握ると、グリップセンサーがそれを検知して、アイセンサーの作動を開始させます。アイセンサーが作動しているときにファインダーに顔を近付けると、カメラを構えていると分かるので、アイスタート(ピント合わせと露出の決定)が行なわれます。

アイスタートスイッチをOFFにしているときは、この設定は関係ありません。



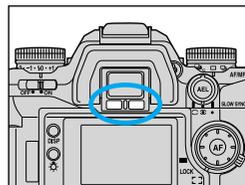
グリップセンサー

1. グリップを握ると作動

グリップを握ったことをグリップセンサーが検知すると、アイセンサーの作動が開始します。

2. グリップを握らなくても作動

メインスイッチをONにすると、グリップを握らなくても、すぐにアイセンサーの作動が開始します。カメラを三脚に取り付けているとき、手袋をしているときなどに便利です。この設定にすると、メインスイッチをONにしただけでアイセンサーの検知が始まります。電池の消耗を防ぐため、カメラを使わないときにはメインスイッチをできるだけOFFにしてください。



アイセンサー



カスタム8、9

カスタム8 フィルムカウンター

1. 順算フィルムカウンター

フィルムを入れると、フィルムカウンターが「1」になり、撮影するたびに1つずつ増えて行きます。



2. 逆算フィルムカウンター

フィルムカウンターには、フィルムの残りのコマ数が表示されます。

27枚撮りフィルム等枚数情報のないフィルムや、DXコードの付いていないフィルムの場合は、逆算フィルムカウンターにはなりません。

カスタム9 AF/MFコントロールボタンの操作方法

AF/MFコントロールボタンの操作方法を変更します。

マニュアルフォーカスになっているときは、ファインダー内にMFが点灯します。

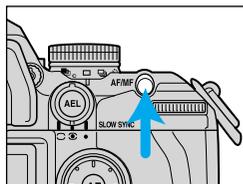
1. ボタンを押している間だけ機能する

オートフォーカス時

ボタンを押している間のみマニュアルフォーカスが可能です。ボタンを押しながらレンズのフォーカスリングを回して、ピントを合わせてください。

マニュアルフォーカス時

ボタンを押すとオートフォーカスが起動し、押している間はピントが固定されます。ボタンから手を離すとマニュアルフォーカスに戻り、レンズのフォーカスリングを回してピント位置を変えることができます。



AF/MFコントロールボタン



カスタム設定変更方法

1. 背面ボタンカバー内のカスタムボタンを押す。
2. 前ダイヤルで項目(カスタム1～35)を選ぶ。
3. 後ダイヤルで設定を変更する。
4. シャッターボタンを半押しする。
詳しくは159～162ページをご覧ください。

2. 一度ボタンを押すと機能し、もう一度押すと解除

オートフォーカス時

AF/MFコントロールボタンを一度押して離すと、一時的にマニュアルフォーカスになります。ボタンを押し続ける必要はありません。もう一度ボタンを押すとオートフォーカスに戻ります。

マニュアルフォーカス時

AF/MFコントロールボタンを押すとオートフォーカスが起動し、手を離しても一時的にオートフォーカスのままの状態が続きます。ボタンを押し続ける必要はありません。もう一度ボタンを押すとマニュアルフォーカスに戻ります。

フォーカスモードを切り替えたりメインスイッチをOFFにしたりすると、AF/MFコントロールボタンで一時的に選んだマニュアルフォーカスまたはオートフォーカスは解除されます。

カスタム10、11

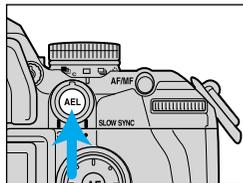
カスタム10 AEロックボタンの操作方法

AEロックボタンの操作方法を変更します。

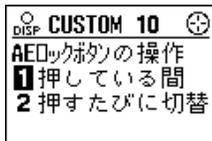
AEロックまたはスローシンクロが機能している間は、ディスプレイ上に **AEL** が、ファインダー内に AEL が点灯します。

1. ボタンを押している間だけ機能する

AEロックボタンを押している間のみ、AEロックまたはスローシンクロになります。ボタンを押しながらシャッターを切ってください。



AEロックボタン



2. 一度ボタンを押すと機能し、もう一度押すと解除

AEロックボタンを一度押して離すと、AEロックまたはスローシンクロになります。シャッターを切るときに、AEロックボタンを押し続ける必要がありません。解除するときは、もう一度AEロックボタンを押してください。

フラッシュ発光の有無を切り替える、メインスイッチをOFFにする等の操作でも解除されます。

AEロックの解除を忘れないよう注意してお使いください。

カスタム設定変更方法

1. 背面ボタンカバー内のカスタムボタンを押す。
2. 前ダイヤルで項目(カスタム1~35)を選ぶ。
3. 後ダイヤルで設定を変更する。
4. シャッターボタンを半押しする。
詳しくは159~162ページをご覧ください。

カスタム11 ブラケットの撮影順序

ブラケット撮影、フラッシュブラケット撮影の撮影順序を変更することができます。ここで選択した設定は、ブラケット撮影、フラッシュブラケット撮影の両方に適用されます。



1. 基準露出 露出アンダー 露出オーバー

最もシャッターチャンスの大い1枚目が基準露出となり、後になるほど露出のずれ量が大きくなります。

例：ブラケット段数0.5段、撮影枚数5枚の場合
±0段 - 0.5段 + 0.5段 - 1.0段 + 1.0段

2. 露出アンダー 基準露出 露出オーバー

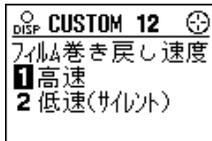
露出が暗いほうから順に並びます。

例：ブラケット段数0.5段、撮影枚数5枚の場合
- 1.0段 - 0.5段 ±0段 + 0.5段 + 1.0段
リバーサルフィルムのスリーブ仕上げなどの際に便利です。

カスタム12～14

カスタム12 フィルムの巻き戻し速度

フィルムの巻き戻し速度を変更します。自動巻き戻し、途中巻き戻しとも有効です。



1. 高速巻き戻し

36枚撮りフィルムを約7秒、24枚撮りフィルムを約5.5秒の速度で巻き戻します。

2. 低速(サイレント)巻き戻し

巻き戻しの音が小さくなります。巻き戻し速度はやや遅くなります(36枚撮りフィルムで約15.5秒、24枚撮りフィルムで約12秒)。

カスタム13 ボディ表示部の測光値表示保持時間

シャッターボタンを半押しすると、カメラの測光値(シャッター速度と絞り値)がディスプレイ上・ファインダー内・ボディ上面表示部に表示されます。その表示保持時間を変更します。



1. 5秒

2. 10秒

3. 30秒

10秒、30秒設定は、測光値表示の消灯が早くて操作しにくい場合にお使いください。

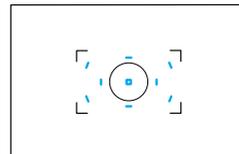
10秒、30秒に設定すると、電池の消耗が早くなり、撮影可能本数が記載値よりも少なくなります。

カスタム設定変更方法

1. 背面ボタンカバー内のカスタムボタンを押す。
2. 前ダイヤルで項目(カスタム1～35)を選ぶ。
3. 後ダイヤルで設定を変更する。
4. シャッターボタンを半押しする。
詳しくは159～162ページをご覧ください。

カスタム14 シャッターボタン半押しでフォーカスロックされたフレームの表示

9つのローカルフォーカスフレーム(センサー部)のうち、ピントが固定されたフレームが一瞬赤く点灯します。この点灯時間等を変更することができます。



ローカルフォーカスフレーム

1. フォーカスロック時に表示(約0.3秒)

2. フォーカスロック時に表示(約0.6秒)

シャッターボタンを半押しするなど、ピント位置が固定されたときに点灯します。



3. 表示なし(ダイレクトフォーカスフレームセレクターを押したときのみ表示)

フォーカスフレームセレクター、またはスポットAFボタンを押したときのみ約0.6秒点灯します。

シャッターボタン半押しでは点灯しません。シャッターを切るたびに点灯するのがわずらわしい場合にご使用ください。

カスタム15～17

カスタム15 前後ダイヤルロック機能

前ダイヤルと後ダイヤルの機能をロックすることができます。

カメラを持ち運びするときなど、誤ってダイヤルを回して設定が変わるのを防ぐことができます。

1. 前後ダイヤルロック機能なし

前後ダイヤルは常に操作をすることができます。

2. 非測光時でグリップを握っていないければ 前後ダイヤルはロック

非測光時(測光された絞り値とシャッター速度の表示が消えているとき)かつグリップを握っていないとき(グリップセンサーが検知されていないとき)は、前後ダイヤルはロックされます。逆に言えば、測光値が保持されているかグリップが握られているかのどちらかであれば、前後ダイヤルは機能します。

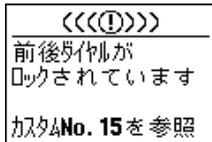
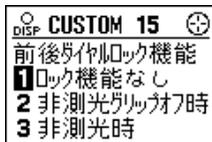
前後ダイヤルのロック中にダイヤルを回すと、右の表示が現れます。
測光値の表示保持時間は、カスタム13にて変更することができます(176ページ参照)。
背面ボタンカバーの操作を伴うもの(ブラケット設定、撮影データメモリー操作など)およびファインダー内にAELが表示されている間は、ダイヤルはロックされず、常に操作することができます。

3. 非測光時は前後ダイヤルはロック

非測光時(測光された絞り値とシャッター速度の表示が消えているとき)は、前後ダイヤルはロックされます。逆に言えば、測光値が保持されている間は、前後ダイヤルは機能します。

設定2のグリップによる検知がなくなったものです。設定2の注意事項も合わせてお読みください。

Mモードでは常に絞り値とシャッター速度が表示されますが、シャッターボタンを半押し(またはアイスタート作動)しない限り、測光はされません。



カスタム設定変更方法

1. 背面ボタンカバー内のカスタムボタンを押す。
2. 前ダイヤルで項目(カスタム1～35)を選ぶ。
3. 後ダイヤルで設定を変更する。
4. シャッターボタンを半押しする。
詳しくは159～162ページをご覧ください。

カスタム16 レンズ未装着時のレリーズロック機能

1. レンズ未装着時のレリーズロックあり

カメラにフィルムが入っている場合、レンズを取り付けていなければシャッターは切れません。

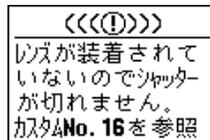
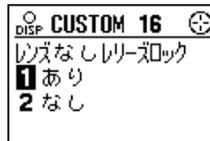
レンズが取り付けられていない状態で誤って撮影が行われるのを防ぎます。

絞り値表示部分に「-」が点灯します。シャッターボタンを押すと、右の表示が現れます。

2. レンズ未装着時のレリーズロックなし

フィルムが入っていてレンズが取り付けられていなくても、シャッターを切ることができます。

カメラを天体望遠鏡に取り付ける場合など、ミノルタAFレンズ以外のレンズで撮影したいときにご使用ください。それ以外は誤操作防止のため、設定1でのご使用をおすすめします。



カスタム17 オートフォーカス駆動速度

オートフォーカスの速度を変更します。

1. オートフォーカス高速駆動(スピード重視)

最速でオートフォーカスが作動してピントを合わせます。

2. オートフォーカス低速駆動(マクロ撮影等に有効)

マクロ撮影や暗い場面等、ピントが合いにくいものにも合わせやすくなります。



カスタム18

カスタム18 P/A/Sモード時の後ダイヤルによる 露出補正

露出補正ダイヤルの代わりに、後ダイヤルで露出補正を行なうことができます。



1. 後ダイヤルによる露出補正なし

後ダイヤルでの露出補正はできません。

	前ダイヤル	後ダイヤル
Pモード	Psシフト	PAシフト
Aモード	絞り値の設定	絞り値の設定
Sモード	シャッター速度の設定	シャッター速度の設定

2. 後ダイヤルによる露出補正あり (PモードでPAシフト)

P/A/Sモード時に後ダイヤルを回すと、露出補正値を設定することができます。Pモード時に前ダイヤルを回すとPAシフトになります。

	前ダイヤル	後ダイヤル
Pモード	PAシフト	露出補正値の設定
Aモード	絞り値の設定	露出補正値の設定
Sモード	シャッター速度の設定	露出補正値の設定

カスタム設定変更方法

1. 背面ボタンカバー内のカスタムボタンを押す。
2. 前ダイヤルで項目(カスタム1~35)を選ぶ。
3. 後ダイヤルで設定を変更する。
4. シャッターボタンを半押しする。
詳しくは159~162ページをご覧ください。

後ダイヤルによる露出補正

大きめのレンズを手持ちで撮影するときなど、レンズから左手を離しにくい場合に便利です。

露出補正ダイヤルが0の位置でのみこの機能は有効です。0以外だと、露出補正ダイヤルの設定が優先されます。

設定した露出補正量は、ディスプレイとファインダー内の測光インジケータに表示されます。

露出補正ダイヤルが1/2段ステップになっていれば、後ダイヤルを回しても1/2段ごとの補正になります。1/3段ステップも同様です。

1/3段ステップの場合、露出補正ダイヤルを使うと露出補正範囲は±2段までですが、後ダイヤルを使うこの方法だと、±3段までの補正が可能です。

3. 後ダイヤルによる露出補正あり (PモードでPsシフト)

P/A/Sモード時に後ダイヤルを回すと、露出補正値を設定することができます。Pモード時に前ダイヤルを回すとPsシフトになります。

	前ダイヤル	後ダイヤル
Pモード	Psシフト	露出補正値の設定
Aモード	絞り値の設定	露出補正値の設定
Sモード	シャッター速度の設定	露出補正値の設定

後ダイヤルによる露出補正は、設定2と同じです。設定2の注意事項をお読みください。

カスタム19～21

カスタム19 前後ダイヤルの機能の入れ替え

前ダイヤルと後ダイヤルの機能をそっくり入れ替えることができます。

1. 前後ダイヤル機能の入れ替えなし

前後ダイヤルの機能はカスタム18で説明している通りです。

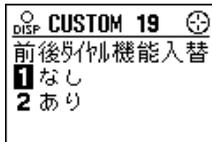
2. 前後ダイヤル機能の入れ替えあり

前後ダイヤルの機能がそっくり入れ替わります。

カスタム18との組み合わせにより、前ダイヤルでの露出補正が可能です。

Mモードの場合もシャッター速度と絞り値の設定が入れ替わります。

ブラケット撮影設定、撮影データの読み出し、カスタム設定時等アジャストボタンの操作を伴う場合は、前後ダイヤル機能は入れ替わりません。

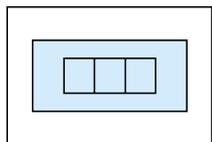


カスタム20 フラッシュ調光方式

このカメラには、フラッシュ調光としてADI 4分割調光方式が採用されていますが、撮影者の好みによって変更することができます。

内蔵フラッシュにも別売のプログラムフラッシュにも共通です。

Ⓔ(フルオートプログラム)選択中は、ADI 4分割調光が可能な場合は自動的にADI 4分割調光となります。(2や3に設定していると、ディスプレイの表示は2または3ですが、実際のカメラの制御は1となります。)



4分割調光素子

1. ADI4分割調光

フラッシュ発光時には、使用フラッシュ・レンズによっては、ADI4分割フラッシュ調光またはDI4分割調光を使って露出を決定します。

ADI調光・DI調光については、112～113ページをご覧ください。

ADI調光・DI調光ができないフラッシュやレンズ使用時には、TTL4分割調光となります。

カスタム設定変更方法

1. 背面ボタンカバー内のカスタムボタンを押す。
2. 前ダイヤルで項目(カスタム1～35)を選ぶ。
3. 後ダイヤルで設定を変更する。
4. シャッターボタンを半押しする。
詳しくは159～162ページをご覧ください。

2. TTL4分割調光

フラッシュ発光時にはTTL4分割ダイレクト調光方式を使って露出を決定します。4分割調光素子がオートフォーカスと連動しているので、カメラが被写体の位置と明るさを的確に判断します。

メーターやソフトライティングセット、ディフューザーが使われる場合はこの設定にしてください。

3. TTL平均調光

フラッシュ発光時には、画面全体の明るさを平均的に調光します。従来の分割のないTTL調光方式で撮影したい方に便利です。

カスタム21 AF補助光

被写体が暗いときやコントラスト(明暗差)が小さいときは、オートフォーカスでピントを合わせると、ピント合わせのためにカメラ前面のAF補助光が光ることがあります。

Ⓔ(フルオートプログラム)選択中は、自動的に1になります。(2に設定していると、ディスプレイの表示は2ですが、実際のカメラの制御は1となります。)

1. AF補助光は必要時に発光

必要時には自動的にAF補助光が発光します。

2. AF補助光なし

AF補助光は発光しません。

舞台撮影など、AF補助光が迷惑になる場合に便利です。

暗い場所やコントラストの少ない場面では、ピントが合いにくくなります。カメラ本体だけでなく、プログラムフラッシュのAF補助光も発光しません。



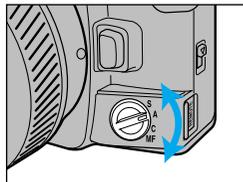
カスタム22

カスタム22 フォーカスモードダイヤルAF-Aの機能

フォーカスモードダイヤルのA位置の機能を変更して、ダイレクトマニュアルフォーカスモード(DMF)にすることができます。

登録機能を使うと、カスタム22の設定も登録されます(138ページ参照)。

Ⓜ(フルオートプログラム)選択中は、自動的にAF制御自動切り替えとなります。(2に設定している場合、ディスプレイの表示は2ですが、実際のカメラの制御は1となります。)



フォーカスモードダイヤル



1. AF制御自動切り替え

被写体の動きに応じて、コンテニューアスAFとワンショットAFが自動的に切り替わります。

フォーカスモードダイヤルの各位置の設定

- S ワンショットAF
- A AF制御自動切り替え
- C コンテニューアスAF
- MF マニュアルフォーカス

2. ダイレクトマニュアルフォーカスモード(DMF)

オートフォーカス(ワンショットAF)でピントを合わせた後、手動でピントの微調整ができます。

DMFとはダイレクトマニュアルフォーカス(Direct Manual Focus)の略です。

フォーカスモードダイヤルの各位置の設定

- S ワンショットAF
- A ダイレクトマニュアルフォーカス(ワンショットAF)
- C コンテニューアスAF
- MF マニュアルフォーカス



1. カスタム22を2に設定します。
2. フォーカスモードダイヤルをAに合わせます。ディスプレイ上に**DMF**が表示されます。

カスタム設定変更方法

1. 背面ボタンカバー内のカスタムボタンを押す。
2. 前ダイヤルで項目(カスタム1~35)を選ぶ。
3. 後ダイヤルで設定を変更する。
4. シャッターボタンを半押しする。
詳しくは159~162ページをご覧ください。

3. シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。
ファインダー内に**MF**と●が点灯し、微調整が可能でピント位置が固定されていることをお知らせします。●が点灯しない場合はDMFはできません。ダイレクトフォーカスフレームセレクター、スポットAFボタンでピントを合わせた場合も、同様にDMFが可能です。
4. シャッターボタンを半押ししたまま、レンズのフォーカスリングを回してピント位置の微調整を行いません。
5. そのままシャッターボタンを押し込んで撮影します。

シャッターボタンから指を離すと、次にシャッターボタンを半押しした時に再度ピント合わせが行われます。

DMFを解除するときは、フォーカスモードダイヤルをA以外の位置にするか、カスタム22の設定を1に戻してください。

Xiズームレンズ・AFパワーズームレンズ使用時には、DMFはできません。

カスタム23、24

カスタム23 シャッターボタンによるAF機能

シャッターボタン半押しによるオートフォーカス機能を禁止することができます。

Ⓜ(フルオートプログラム)選択中は、自動的にオートフォーカス機能ありとなります。(2に設定していると、ディスプレイの表示は2ですが、実際のカメラの制御は1となります。)



1. オートフォーカス機能あり

シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われます。マニュアルフォーカスを選択している場合はピント合わせは行われません。

2. オートフォーカス機能なし

シャッターボタンを半押ししてもピント合わせは行われません。オートフォーカス選択時は、ダイレクトフォーカスフレームセレクターまたはスポットAFボタンでピント合わせを行なってください。

同じピント位置で撮影を続ける場合に便利です。

カスタム設定変更方法

1. 背面ボタンカバー内のカスタムボタンを押す。
2. 前ダイヤルで項目(カスタム1~35)を選ぶ。
3. 後ダイヤルで設定を変更する。
4. シャッターボタンを半押しする。
詳しくは159~162ページをご覧ください。

カスタム24 露出モードのフルオートプログラム時の操作

1. フルオートプログラム後の設定変更無効

露出モードダイヤルを回してⓂフルオートプログラムを選ぶと、自動的にフルオートプログラムになった設定に関しては、撮影者が後で変更を加えることはできません。

フルオートプログラムの設定については28~29ページをご覧ください。

Ⓜ以外の位置にダイヤルを回すと、変更が可能になります。



2. フルオートプログラム後の設定変更有効

Ⓜ(フルオートプログラム)を選んだ後でも、撮影者が変更を加えることができます。

完全なフルオートプログラムではなくなります。ディスプレイ上にはFULL AUTOの文字は現れません。フラッシュは自動発光にはなりません。また、カスタム1、20~23の設定も有効となります。

メインスイッチをOFFにすると、変更した設定は解除されます。

カスタム25

カスタム25 登録3の機能

露出モードダイヤルには、登録機能用の3つのポジション(1~3)が用意されています。3つ目の3の位置の機能をSTFモードに変更することができます。

登録機能について、詳しくは138~144ページをご覧ください。

1. 登録3

露出モードダイヤルを3の位置に合わせると、登録3に登録されている設定が呼び出されます。

2. STFモード

露出モードダイヤルを3の位置に合わせると、STFモードが設定されます。芯のあるなめらかなで自然なボケ味を得ることができます。



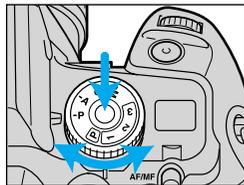
STFモードで撮影



通常モードで撮影

通常、多くは右側の写真のようなボケ具合になりますが、STFモードを使うと、芯のある自然な描写が可能です。

STFモードにすると自動的に7枚の多重露光になります。人物を含め動く被写体の撮影はおすすめできません。静止被写体を三脚を使用して撮影してください。



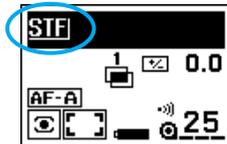
露出モードダイヤル



カスタム設定変更方法

1. 背面ボタンカバー内のカスタムボタンを押す。
2. 前ダイヤルで項目(カスタム1~35)を選ぶ。
3. 後ダイヤルで設定を変更する。
4. シャッターボタンを半押しする。
詳しくは159~162ページをご覧ください。

1. カスタム25を2に設定します。
2. 露出モードダイヤルを3に合わせます。
ディスプレイ上にSTFが表示されます。
3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。
自動的に7回の多重露光になり、7回連続してシャッターが切れます。



STFモードを解除するときは、露出モードダイヤルを3以外の位置にするか、カスタム25の設定を1に戻してください。

絞り値とシャッター速度はカメラが自動的に設定します。撮影者が変更することはできません。

フラッシュは発光しません。露出補正は可能です。



STFモード時は、絞り値はFナンバーでなくTナンバー*の値が表示されます。Tナンバーを通常の絞り値としてお使いください。

*Tナンバー：レンズの透過率を考慮に入れた、実質的なレンズの明るさを示す値。この場合は1回の露光に換算した等価絞り値を表します。



被写体が明る過ぎる場合は適正露出が得られません。ディスプレイ上の絞り値が反転してお知らせします。STF135mmF2.8[T4.5]レンズを使用すると、多重露光ではなく1度の露光でSTFの効果を得ることができます。この場合は、カスタム25のSTFモードは設定しないでください。
AFレフレックス500mm F8使用時には、STFモードに設定しないでください。適正露出が得られないことがあります。

カスタム26、27

カスタム26 露出補正のフラッシュ制御に対する影響

露出補正設定時にフラッシュが発光する場合、フラッシュの制御を変更することができます。

露出補正時のみの設定であり、フラッシュ調光補正とは関係ありません。露出補正とフラッシュ調光補正の違いについては、111ページをご覧ください。



1. フラッシュ調光に影響する

露出補正時にフラッシュが発光する場合、シャッター速度と絞り値だけでなく、フラッシュ調光(フラッシュ発光量)も同時に変化して補正を行いません。フラッシュ光の届く範囲と届かない範囲の両方に補正がかかります。

2. フラッシュ調光に影響しない

露出補正時にフラッシュが発光する場合、シャッター速度と絞り値だけが変化して補正を行いません。フラッシュ調光(フラッシュ発光量)は変化しません。

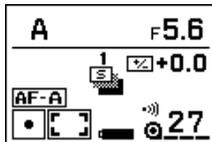
フラッシュ発光量が一定なので、フラッシュ光の届く範囲の露出をほぼ一定にしたまま、届かない範囲にのみ補正をかけることができます。

カスタム27 詳細画面の表示内容

1. すべて表示

詳細画面を表示させている場合、基準設定も含めてすべての設定が表示されます。

全部の表示を確認したい場合に便利です。



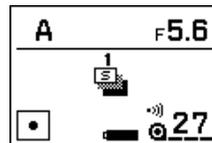
カスタム設定変更方法

1. 背面ボタンカバー内のカスタムボタンを押す。
2. 前ダイヤルで項目(カスタム1~35)を選ぶ。
3. 後ダイヤルで設定を変更する。
4. シャッターボタンを半押しする。
詳しくは159~162ページをご覧ください。

2. 基準から外れた設定のみ表示

画面切り替えボタンで詳細画面を選択している場合、以下の基準設定はディスプレイ上には表示されません。

表示をすっきり見せたい場合におすすめします。



前ページと同じ状態で設定2を選択した場合

項目	基準設定
ピント合わせ	AF-A(AF制御自動切り替え) オートフォーカス優先
フォーカスフレーム	ワイドフォーカスフレーム
測光モード	14分割八ニカムパターン測光
露出補正	± 0
フラッシュ調光補正	± 0
巻き上げ	1コマ撮影

露出モード(P、Aモード等)と電池容量表示は常に表示されます。シャッターボタンを半押しすると、カメラが測光した値が表示されます(露出モードの詳細は64~76ページ参照)。

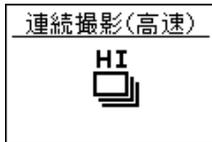
フラッシュは、発光しない場合は表示がありませんが、発光または自動発光になると表示が現れます。

この設定にしていると、拡大画面および輝度分布表示でも、露出補正の基準設定(±0)は表示されません。

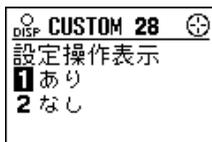
カスタム28～31

カスタム28 設定操作表示

画面切り替えボタンで拡大画面(40ページ)、測光インジケータ画面(42ページ)、撮影履歴画面(43ページ)を選択している場合、すべての設定を表示することができません。表示にないダイヤルやレバーを操作すると、選んだ設定がディスプレイ上に5秒間表示されます(設定操作表示)。



設定操作表示
(高速連続撮影の場合)



1. 設定操作表示あり

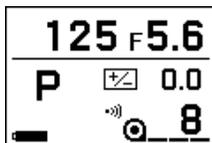
上記の画面を選択中は、表示にないダイヤルやレバーを操作すると、選んだ設定がディスプレイ上に5秒間表示されます。

2. 設定操作表示なし

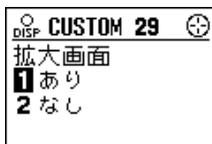
上記の画面を選択中でも、設定操作表示は現れません。操作するたびに現れるのがわずらわしい場合にご利用ください。

カスタム29 拡大画面

主な表示を大きくして見やすくすることができます。



拡大画面



1. 拡大画面あり

画面切り替えボタンを押すと、拡大画面を表示させることができます(40ページ参照)。

2. 拡大画面なし

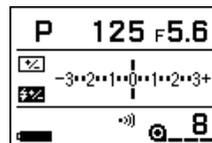
画面切り替えボタンを押しても、拡大画面は表示されません。

カスタム設定変更方法

1. 背面ボタンカバー内のカスタムボタンを押す。
2. 前ダイヤルで項目(カスタム1～35)を選ぶ。
3. 後ダイヤルで設定を変更する。
4. シャッターボタンを半押しする。
詳しくは159～162ページをご覧ください。

カスタム30 測光インジケータ画面

ファインダー内の測光インジケータを、ディスプレイ上に表示させることができます。上半分の表示はファインダー内の測光インジケータと同じもので、下半分はフラッシュ調光用インジケータです(フラッシュが発光しない場合は表示されません)。



測光インジケータ画面

1. 測光インジケータ画面あり

画面切り替えボタンを押すと、測光インジケータ画面を表示させることができます(42ページ参照)。

2. 測光インジケータ画面なし

画面切り替えボタンを押しても、測光インジケータ画面は表示されません。



カスタム31 撮影履歴画面

直前の5コマのシャッター速度・絞り値・露出補正値をディスプレイ上に表示させることができます。

1. 撮影履歴画面あり

画面切り替えボタンを押すと、撮影履歴画面を表示させることができます(43ページ参照)。

8	125	5.6	0.0
7	500	2.8	0.0
6	750	4	-0.5
5	250	5.6	0.0
4	60	5.6	+1.5
3	2000	5.6	-2.0

撮影履歴画面

2. 撮影履歴画面なし

画面切り替えボタンを押しても、撮影履歴画面は表示されません。

撮影途中に設定2から1に変更した場合でも、直前の5コマのデータは表示されます。



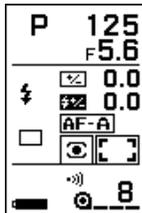
カスタム32～35

カスタム32 縦横表示切り替え機能

1. 縦表示あり

カメラを縦位置に構えると、自動的に表示が縦方向に切り替わります(44ページ参照)。

縦方向に切り替わるのは、通常が表示(詳細画面と拡大画面のみ)です。インジケータ画面、撮影履歴画面、その他各種設定画面は横方向のみです。

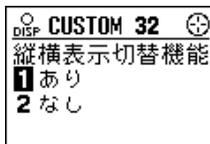


縦表示

2. 縦表示なし

カメラを縦位置に構えても、表示は縦方向に切り替わりません。

カメラの向きを変えるたびに現れるのがわずらわしい場合にご利用ください。



カスタム33 写し込み文字濃度調節

日付・時刻の写し込み濃度を調節することができます。

フィルム先端のデータナンバーには影響しません。

1～7. 写し込み濃度の調節

標準の写し込み濃度は4です。1～3だと薄くなり、5～7だと濃くなります。

フィルム感度ISO 100～800の場合は、1～7のすべての範囲で濃度調整が可能です。それ以外の感度のフィルムだと、選択しても効果がないことがあります。



0. 写し込みなし

0を選択すると日付・時刻は写し込まれません。

日付・時刻を間違って写真に入れたくない場合にご利用ください。

カスタム設定変更方法

1. 背面ボタンカバー内のカスタムボタンを押す。
2. 前ダイヤルで項目(カスタム1～35)を選ぶ。
3. 後ダイヤルで設定を変更する。
4. シャッターボタンを半押しする。
詳しくは159～162ページをご覧ください。

カスタム34 データナンバーのボディIDナンバー

データナンバーは「dn1-0001」等で表されますが、「dn1」の数字の部分(1～9)の任意の数字に変更できます。右の画面で選んだ数字が、そのまま「dn1」、「dn2」…としてフィルム先端に写し込まれます。



カメラごとに異なるナンバーを設定し、ボディ識別用の番号として使うことができます。複数のカメラでデータメモリー機能を使う場合に便利です。

ナンバーを変更すると、次に入れたフィルムから変更したナンバーになります。

カスタム35 ナビゲーションディスプレイの言語

ディスプレイに表示される言語を5カ国語の中から選択できます。

1. 日本語
2. 英語(English)
3. ドイツ語(Deutsch)
4. フランス語(Français)
5. スペイン語(Español)



資料

アクセサリー

数多くのレンズやフラッシュ等のアクセサリーを揃えています。

この使用説明書は2000年8月に作成されたものです。それ以降に発売されたアクセサリーとの組み合わせは、本書裏表紙に記載の弊社フォトサポートセンターにお問い合わせください。

レンズ

すべてのレンズ、-Xiレンズが使用できます。

上記以外のレンズ(Vレンズ、MDレンズ、MCレンズなど)はご使用になれません。

Dレンズ(名前に(D)のつくレンズ)使用时には、ADI 4分割調光、プレビューボタンでの被写界深度表示が可能です。

フラッシュ

内蔵フラッシュでは光が届かないような距離でも、より大量のプログラムフラッシュを用いれば、美しいフラッシュ撮影ができます。

プログラムフラッシュ5600HS(D)、3600HS(D)、5400HS、5400xi、3500xi、2000xi、5200i、3200i、2000i、ベクティスフラッシュSF-1は、そのままご使用になれます。

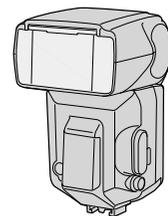
プログラムフラッシュ5600HS(D)、3600HS(D)使用时は、ワイヤレスフラッシュ撮影でのハイスピードシンクロが可能です。またDレンズと組み合わせるとADI 4分割調光が可能です。

プログラムフラッシュ4000AF、2800AF、1800AF、マクロフラッシュ1200AFをご使用になる場合は、以下の点にご注意ください。

カメラに取り付ける際には、別売りのフラッシュシューアダプターFS-1100が必要です。

フラッシュのAF補助光は発光しません。

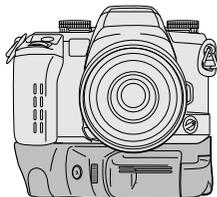
AFシリーズ以前のフラッシュ(オートエレクトロフラッシュなど)は、このカメラでは使えません。



プログラムフラッシュ
5600HS(D)

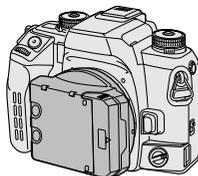
縦位置コントロールグリップ VC-7

縦位置用シャッターボタン、ON/OFFスイッチのほか、前後ダイヤル、AEロックボタンなど、横位置と同じ感覚で操作できます。またCR123A、単3アルカリ、単3ニッケル水素の3種類の電池が使用可能です。カメラ本体の電池も入れたままにして、必要に応じて本体とコントロールグリップの電源を切り替えることができます。



データセーバー DS-100

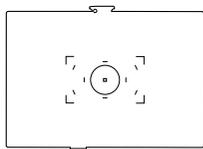
カメラの撮影データメモリー機能によって記録された撮影データを、スマートメディアにコピーするためのアダプターです。3.3Vの2~32MBのスマートメディアに、400~1900本の撮影データを書き込むことができます。フラッシュバスやPCカードアダプタ等を使えば、データをパソコンで出力したりプリントしたりすることも可能です。



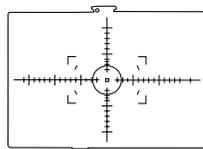
交換用フォーカシングスクリーンⅡ

標準装備のマット(G型)のほかに、方眼マット式(L型) 目盛り線式(S型)があります。また、開放絞り値がF1.4~2.8クラスの明るいレンズをマニュアルフォーカスで使用する方のために、ピントの山やぼけ具合がつかみやすいスーパーフェリカルアキュートマット採用の全面マット(M型、ML型)も用意しています。お近くのサービスセンターにて交換いたします。

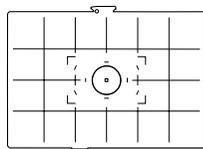
G型、L型、S型で一部の望遠レンズを取り付けた際、ファインダー周辺部が陰ることがあります。これは焦点板の拡散特性によるもので、画質には影響しません。



G/M型



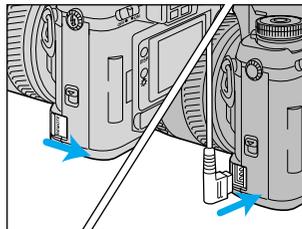
S型



L/ML型

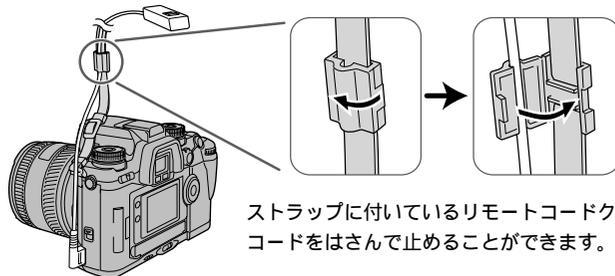
リモートコード RC-1000S/RC-1000L

リモートコードRC-1000SまたはRC-1000Lを取り付ければ、カメラから離れてシャッターを切ることができます。カメラぶれを防ぐと同時に、シャッターボタンを長時間押したまま固定することもできます。



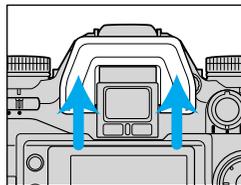
取り付け方

リモートリリースターミナルのカバーを開いて、コードをターミナルに接続します。コードを上向きにして接続してください。



ストラップに付いているリモートコードクリップで、コードをはさんで止めることができます。

その他



アングルファインダー、マグニファイヤーなど、ファインダー部分にアクセサリを取り付ける場合は、アイピースカップを外してください。

外し方

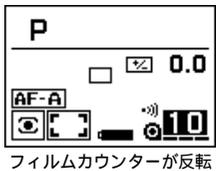
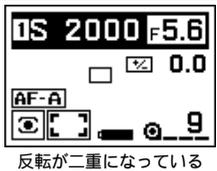
アイピースカップの両側を上へ押し上げます。

コントロールグリップCG-1000、データレシーバーDR-1000は使用できません。

表示が反転または点滅したときは

ディスプレイ上の表示の反転やファインダー内の表示の点滅は、何らかの注意や警告を表します。反転は二重に重なることもあります。

ディスプレイ	原因	処置
 <p>上部が反転</p>	フルオートプログラムまたは登録1～3にしたため、カメラ上のダイヤルやレバーの位置と実際のカメラの制御とが異なっています。	ディスプレイ上に表示されている情報を元に撮影を行ってください(45ページ参照)。
 <p>③が点滅</p>	被写体が明るすぎる、または暗すぎて、カメラの測光範囲を超えています。	被写体が明るすぎるときは、NDフィルターを使うか、被写体が暗くなるようにします。被写体が暗すぎる場合は、フラッシュ撮影を行なうか、被写体が明るくなるようにします。
 <p>シャッター速度と絞り値が反転または点滅</p>	被写体が明るすぎる、または暗すぎて、使用レンズの絞り値、シャッター速度の範囲を超えています(Pモードのみ)。	
 <p>シャッター速度が反転または点滅</p>	被写体が明るすぎる、または暗すぎて、シャッター速度の範囲を超えています(Aモードのみ)。	シャッター速度が反転/点滅しないように、絞り値を変更します。

ディスプレイ	原因	処置
 <p>絞り値が反転または点滅</p>	被写体が明るすぎる、または暗すぎて、使用レンズの絞り値の範囲を超えています(Sモードのみ)。	絞り値が反転/点滅しないように、シャッター速度を変更します。
 <p>フィルムカウンターが反転</p>	多重露光(100ページ)またはフィルム指定コマ送り(165、167ページ)機能により、1つのコマに2回以上の露光がされようとしています。(多重露光する場合は、そのまま撮影してください。)	
 <p>反転が二重になっている</p>	上部の反転とシャッター速度または絞り値の反転が重なった場合は、二重反転になります。(左の例は、登録1で、かつ絞り値が反転している場合です。)	
 <p>全画面が反転</p>	電池を一度取り出し、入れ直してください。それでも直らない場合や何度も繰り返して表示される場合は故障ですので、カメラをお買い求めの販売店または「アフターサービスのご案内」に記載の弊社サービスセンター・サービスステーションにお持ちください。	

不具合が生じたときは

故障かな?と思ったときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときや分からないときは、裏表紙記載の当社フォトサポートセンターにお問い合わせください。

症状	原因	対策	ページ
オートフォーカスが作動しない	カスタム設定でシャッターボタン半押しでのオートフォーカスを禁止している	ダイレクトフォーカスフレームセレクターやスポットAFボタンを使用するか、カスタム設定を変更してください。	56 186
ピントが合わない	オートフォーカスの苦手な被写体(31ページ)を撮ろうとしている	フォーカスロック、またはマニュアルフォーカス撮影を行なってください。	32 50
	被写体に近づき過ぎている	レンズの最近接撮影距離より離れて撮影してください。(最近接撮影距離については、レンズの使用説明書をご覧ください。)	-
シャッターが切れない	ピントが合っていない	ピントが合わないとシャッターは切れません。(ピントが合わなくてもシャッターが切れるようにすることもできます。)	163
	カメラを天体望遠鏡などに取り付けられている	天体望遠鏡などにカメラを取り付けた場合は、フィルムが入っているとシャッターが切れません。(この状態でもシャッターが切れるようにすることもできます。)	179
	カスタム設定でレリーズロックにしている	カスタム設定でフィルム未装填時のレリーズロックありにしている場合は、フィルムを入れるか、設定を変えてください。	169
写真がブレている	暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ブレを起こした	シャッター速度が遅くなるので、三脚を使用してください。フラッシュを使う、フィルム感度の高いフィルムを使用するという方法も可能です。	-

症状	原因	対策	ページ
フラッシュ撮影したものが全体的に暗い	フラッシュ光の届く範囲で撮影しなかった	フラッシュ光の届く範囲で撮影してください。別売りのプログラムフラッシュをご使用の際は、フラッシュの使用説明書をご覧ください。	35
フラッシュ撮影したものの下部が暗い	レンズフードを付けたまま撮影した	カメラの内蔵フラッシュで撮影するときは、レンズフードを外して、1m以上離れて撮影してください。	-
カメラが正常に作動しない		電池を一度取り出し、入れ直してください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、カメラをお買い求めの販売店または「アフターサービスのご案内」に記載の弊社サービスセンター・サービスステーションにお持ちください。	19
メインスイッチをONにすると音がする		ピントと絞りのリセット音です。	-
裏ぶたが開かず、フィルムが取り出せない		このカメラはセーフティロック機能を搭載しており、フィルムが入っているときには裏ぶたを開けることができません。故障時など非常の場合には、以下の要領で裏ぶたを開けることができます。 AEロックボタンとフィルム感度設定ボタンを押しながら、メインスイッチをOFFからONにします。 右の表示が現れます。 裏ぶたを開けずに再び撮影を続ける場合は、上記の操作を繰り返してください。 この方法で開かない場合は、さらに以下の手順に沿ってください。 1. 裏ぶた開放レバー上部の小窓のネジを外し、小窓を外します。 2. カメラを暗箱に入れます。 3. 小窓内のレバーを押し下げて裏ぶたを開けます。	<div data-bbox="1447 691 1659 832" data-label="Image"> </div>

取り扱い上の注意

電池について

電池の性能は低温になるほど低下します。寒いところでご使用になるときは、新品電池でも  や  が表示されることがあります。カメラを保温しながら撮影してください。海外旅行や寒いところでは、予備の電池をご用意されることをおすすめします。なお、低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復します。

新品電池を初めてお使いのとき、それまでその電池が保管されていた状況によっては、電池容量が実際よりも少なく表示されることがあります。この場合はメインスイッチを何度か切ったり入れたりすると、電池容量が回復します。

使用環境について

このカメラの使用温度範囲は - 20 ~ 50 です。

直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところにカメラを放置しないでください。

液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。

カメラに急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から温かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度になじませてからカメラを取り出してください。

このカメラは防水性能は備えていません。海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。

その他

カメラは精密機械ですので、取り扱いには注意してください。特に、シャッター幕、ミラー、レンズの信号接点などに傷がつかないように気を付けてください。カメラに強い衝撃を与えないでください。

バッグなどに入れて持ち運ぶときは、メインスイッチをOFF位置にしてください。飛行機をご利用の際は、未現像フィルムやフィルムの入ったカメラは、機内持ち込みされることをおすすめします。預け入れ荷物に入れると、場合によってはX線検査でフィルムが感光する恐れがあります。

手入れと保管の仕方

手入れのしかた

カメラボディやレンズの外側を清掃するときは、柔らかいきれいな布で軽く拭いてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷を付けますので、プロアールで軽く吹き飛ばしてください。

レンズ面を清掃するときは、プロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くようにして軽く拭いてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけることはお避けください。

シャッター幕、ミラーなど、カメラの内部に触れないでください。ミラーおよびその周辺のほこりはオートフォーカスに影響を及ぼす恐れがあるため、プロアールで吹き飛ばしてください。また、内部をボンベタイプのプロアールで吹かないでください。故障の原因になります。

シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。

レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

使用しないときは、必ずレンズキャップまたはボディキャップを付けてください。保管するときは、涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒に入れるとより安全です。

防虫剤の入ったタンスなどに入れないでください。

保管中も時々電源を入れて、空シャッターを切るなどの操作をしてください。また、ご使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。また、予備の電池を携帯することをおすすめします。

万一、このカメラを使用中に、撮影できなかつたり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

本製品の補修用性能部品は、生産終了後10年間を目安に保有しています。アフターサービスについては、「アフターサービスのご案内」に詳しく記載していますので、そちらをご覧ください。

修理の際に、撮影データやユーザー設定情報(カスタム設定、登録設定など)が消えてしまうことがありますので、ご了承ください。

主な性能

カメラタイプ	レンズ交換式フラッシュ内蔵35mmAF・AE一眼レフカメラ
オートフォーカス	方式：TTL位相差検出方式 検出素子：CCDラインセンサー(中央デュアルクロス9点) 検出範囲：EV - 1 ~ 18(ISO100) 動体予測フォーカス制御 AF制御自動切り替え/コンティニュアスAF/ワンショットAF切り替え可能 DMFモード可能
AF補助光	ボディ内蔵LED 低輝度、低コントラスト時自動発光 作動距離範囲：約0.7 ~ 7m(50mm標準レンズ) プログラムフラッシュ装着時、必要に応じてフラッシュの内蔵AF補助光に自動切り替え
測光方式	TTL開放測光(14分割ハニカムパターン測光、中央重点の平均測光、スポット測光) 測光素子：14分割ハニカムパターンSPC(シリコンフォトセル) 4分割フラッシュ光調光用SPC 測光範囲：14分割ハニカムパターン測光時：EV0 ~ 20 中央重点の平均測光時：EV0 ~ 20 スポット測光時：EV3 ~ 20(ISO100、F1.4レンズ使用時)
フィルム感度	DXコード付きフィルム使用時は自動設定(ISO25 ~ 5000) 自動設定可能(ISO6 ~ 6400、1/3EVステップ) DXコードの付いていないフィルム使用時は前回のフィルム感度を自動設定 フラッシュ撮影時はISO25 ~ 1000のフィルムを推奨
シャッター	電子制御式縦走りフォーカルブレンシャッター シャッター速度：1/8000 ~ 30秒、バルブ(新品電池使用時約7時間) フラッシュ同調最高速度：1/200秒 ハイスピードシンクロ機能使用時は1/8000秒
内蔵フラッシュ	ガイドナンバー：12(ISO100・m) 照射角：焦点距離24mm 充電時間：約2秒(赤目軽減・ワイヤレス撮影時は約3.5秒) アップ時強制発光(フルオートプログラム時のみ自動発光) ダウン時発光禁止 赤目軽減プリ発光・後幕シンクロ撮影可能
ファインダー	アイレベル固定式 ガラスペンタプリズム 視野率：約92% × 約94% 倍率：0.8倍(50mm、位置) 視度：-1ディオプター 視度調整：-2.5 ~ +0.5ディオプター(視度調整アタッチメントによる調整も可能) アイポイント：最終光学面より22.5mm、接眼枠より18.5mm



ボディ底面のこのマーク(CEマーキング)は、本製品が電波障害に関するEU(欧州連合)の要求事項に適合していることを示すものです。CEとはフランス語のConformité Européenne(ヨーロッパ認定)の頭文字です。

主な性能

フォーカシングスクリーン	スフェリカルアキュートマット サービスセンターにて交換可能(G、L、S、M、ML型)
フィルム給送	オートローディング(1コマ目まで自動送り) 1コマ撮影 / 4コマ/秒連続撮影(AF追隨時3.7コマ/秒) / 2コマ/秒連続撮影 / 1コマ撮影露出ブラケット / 連続撮影露出ブラケット / セルフタイマー(10秒) / 簡易ミラーアップ機能 / 多重露光 自動巻き戻し 途中巻き戻し可能 巻き戻し時間: 高速巻き戻し時約5.5秒(24枚撮り) 約7秒(36枚撮り) 低速(サイレント)巻き戻し時約12秒(24枚撮り) 約15.5秒(36枚撮り)
電源	3Vリチウム電池(CR123A型) 2個
撮影可能本数	試験条件: AFズーム24-105mm F3.5-4.5・24枚撮りフィルム・新品電池使用 1ヵ月に3本の割合で撮影 1コマごとにレンズを無限遠から2mまで3回駆動させ、シャッターボタン半押しで10秒保持後撮影、その他撮影準備を含む

	24枚撮りフィルム		36枚撮りフィルム		
	温度	20	- 20	20	- 20
フラッシュ使用しない		約45本	約13本	約30本	約9本
フラッシュ50%使用		約21本	約6本	約14本	約4本
フラッシュ100%使用		約13本	約4本	約9本	約2本

撮影可能本数とは、新品電池で電池消耗までに撮影できるフィルム本数を表します。

カメラの使い方により撮影可能本数は変わります。また、実際に撮影しなくてもカメラを操作することで電池は消耗します。

電池を長持ちさせるために、撮影しないときはメインスイッチをOFFにしてください。

大きさ	143.5(幅) × 97.5(高さ) × 65.5(奥行き)mm
重さ	575g(電池別)

本書に記載の性能は当社試験条件によります。

本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

索引

あ	アイスタート.....	129
	赤目軽減フラッシュ撮影.....	104
	後幕シンクロ撮影.....	105
	写し込み濃度調節.....	194
	オートフォーカス駆動速度.....	179
	オートフォーカス優先.....	163
か	拡大画面(ナビゲーションディスプレイ).....	40, 42
	カスタム設定.....	158 ~ 195
	簡易ミラーアップ機能(2秒セルフタイマー).....	94 ~ 95
	基準設定.....	191
	輝度分布表示.....	88 ~ 89
	光量比制御撮影.....	116 ~ 120
	コンティニューASAF.....	49
	コントラスト調節(ナビゲーションディスプレイ).....	46
さ	撮影倍率.....	134
	撮影履歴画面(ナビゲーションディスプレイ).....	43
	視度調整.....	135
	絞り込み.....	132
	詳細画面(ナビゲーションディスプレイ).....	40
	照明(ナビゲーションディスプレイ).....	46
	シンクロターミナル.....	122
	ストラップ.....	15
	スポット測光.....	80
	スポットフォーカスフレーム.....	56 ~ 59
	スローシンクロ撮影.....	106
	設定操作表示(ナビゲーションディスプレイ).....	44
	セルフタイマー撮影.....	94 ~ 95
	前後ダイヤルロック機能.....	178
	測光インジケータ画面(ナビゲーションディスプレイ).....	42
	測光インジケータ(ブラケット撮影時).....	99
	測光インジケータ(露出補正時).....	82
	測光インジケータ(AEロック時).....	86 ~ 87
	測光インジケータ(Mモード時).....	75
た	ダイレクトマニュアルフォーカス.....	184 ~ 185

	多重露光	100 ~ 101
	縦横表示切り替え機能(ナビゲーションディスプレイ)	44
	中央重点的平均測光	79
	長時間露光	130 ~ 131
	データナンバー	149
	データメモリー	145 ~ 157
	登録	137 ~ 144
な	入射光式	84
は	ハイスピードシンクロ撮影	114 ~ 115
	バルブ撮影	130 ~ 131
	反射光式	84
	被写界深度	133
	被写界深度表示(ナビゲーションディスプレイ)	134
	日付写し込み濃度調節	194
	フィルムエリア	148
	フィルム感度(設定と変更)	90
	フィルム指定コマ送り	165 ~ 168
	フィルム面位置	62
	フォーカス表示	30
	フォーカスフレーム	55 ~ 60
	フォーカスホールドボタン	170
	フォーカスロック	32
	ブラケット撮影	96 ~ 99
	ブラケットの撮影順序	175
	フラッシュ調光距離	35
	フラッシュ調光補正	110
	フラッシュ表示	34
	フラッシュブラケット撮影	107 ~ 109
	プリ発光	113
	フルオートプログラム	26 ~ 29
	プレビュー	132
	ボディIDナンバー	195
ま	巻き戻し(自動巻き戻しの有無の切り替え)	164
	巻き戻し(速度の変更)	36, 176

	マニュアルシフト	76
	マニュアルフォーカス	50
	メータードマニュアル	75
ら	リモートコード	199
	レリーズ優先	163
	レリーズロック機能	169, 179
	連続撮影	92 ~ 93
	ローカルフォーカスフレーム	58 ~ 59
	露出ずらし撮影	96 ~ 99
	露出補正	81 ~ 83
	露出補正(後ダイヤルによる)	180 ~ 181
	露出補正設定段数の切り替え	83
	露出モード	64
わ	ワイドフォーカスフレーム	56 ~ 57
	ワイヤレスフラッシュ撮影	116 ~ 121
	ワンショットAF	50
英数	ADI調光	102, 112 ~ 113
	AEロック撮影	85 ~ 87
	AEロックボタン	85 ~ 87, 106
	AEロックボタン(操作方法の変更)	174
	AF(オートフォーカス)	48
	AF制御自動切り替え	48
	AF補助光	62
	AF補助光(有無の切り替え)	183
	AF/MFコントロールボタン	52 ~ 53
	AF/MFコントロールボタン(操作方法の変更)	172 ~ 173
	DI調光	112 ~ 113
	DMFモード	184 ~ 185
	HSS撮影	114 ~ 115
	MF(マニュアルフォーカス)	50
	PAシフト/PSシフト	66
	STFモード	188 ~ 189
	TTL調光	112 ~ 113
	14分割八ニカムパターン測光	78

ミノルタ株式会社
ミノルタ販売株式会社

フォトサポートセンター

弊社製品のカメラ、交換レンズ、デジタルカメラ、フィルムスキャナ、露出計など写真や画像に関わる製品の機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル 0570-007111

ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL 03-5351-9410

携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。

FAX 03-3356-6303

受付時間 10:00 ~ 18:00(土・日・祝日定休)



9223-2162-61 P-MM206